福 岡 市

埋蔵文化財年報 Vol. 6　1991年度

1 9 9 3

福岡市教育委員会

表紙は早良区東入部遺跡群調査区全景および作業風景

福岡市の概要

位置

この表は建設省国土地理院の２万５千分の１の地図から測定したものです。

方　位	地　点	東　経	北　経
市役所（本庁）	中央区天神一丁目８－１	130°24′15″	33°35′14″
極東	東区大字蒲田字別府の浦	130°29′50″	33°38′34″
極西（陸部）	西区大字西の浦字外蒔	130°12′00″	33°38′11″
極西	西区大字小呂島字向	130°02′06″	33°51′49″
極南	早良区大字板屋字苦笑	130°25′13″	33°42′33″
極北（陸部）	東区大字三苫字牧山	130°22′50″	33°25′17″
極北	西区大字小呂島字向	130°02′17″	33°52′17″

※福岡市勢要覧－平成３年度－による

平成３年度福岡市当初予算

一般会計	5,136億2,800万円
特別会計	3,378億9,304万1千円
企業会計	2,198億3,421万1千円
合　計	1兆713億5,525万2千円

教育・文化に647億円

平成３年度埋蔵文化財関係予算

開発事業審査費	976万1千円
公共事業関係費	4億7,680万9千円
民間・国庫補助関係調査費	3億7,634万円
合　計	8億6,695万4千円

積，人口，土地利用状況（有租地面積など）

区	面積(㎢)	世帯数	人　口	有租地総面積(千㎡)	宅地 総数	宅地 商業地	宅地 工業地	宅地 住宅地	農地 田	農地 畑	山林	原野その他	免税点未満
全　市	336.40	504,886	1,252,296	187,373	75,876	8,432	8,963	58,481	28,914	10,838	50,597	21,148	8,418
東　区	63.20	98,677	251,863	34,207	17,176	432	4,317	12,426	3,935	2,465	5,031	5,600	1,084
博多区	31.40	73,936	166,842	17,453	11,745	3,035	3,540	5,170	1,298	632	1,224	2,554	216
中央区	15.14	68,134	138,931	7,979	7,491	3,049	753	3,689	2	7	205	273	2
南　区	30.98	92,885	236,597	18,804	12,925	657	175	12,093	1,387	396	2,153	1,943	257
城南区	16.02	54,282	124,257	9,653	6,545	282	－	6,263	471	207	1,699	731	122
早良区	95.88	69,356	190,762	47,081	10,534	604	－	9,930	7,954	750	24,798		2,237
西　区	83.78	47,616	143,044	52,197	9,197	373	178	8,910	13,869	6,382	15,486		4,499

人口は平成３年１月１日現在の推計人口。福岡市勢要覧－平成３年度－による。

序

平成３年（1992）度は、『バブル経済』が崩壊する社会的状況の中で、埋蔵文化財をとりまく環境もめまぐるしく変化した年でありました。

社会的な再生産活動がやや下降しはじめたとはいえ、規模的に中・小規模の開発はとどまることなく、これに伴う発掘調査も例年比の如く多数におよびました。

以下では平成３年度の埋蔵文化財行政の概要を示して、関係者各位に更なる御協力をお願いいたしますとともに、本書が文化財理解の一助となり、活用されることを希望いたします。

平成５年１月10日
福岡市教育委員会
教育長　井口雄哉

例言

本書は、教育委員会文化財部埋蔵文化財課が平成３年度に行った事業のうち、各種開発事業に伴う事前審査と発掘調査業務についての概要を記したものである。

なお本書の作成は、平成３年度事前審査担当（荒牧宏行、吉武学）および同担当主事（井澤洋一、横山邦継）で行った。なお、各発掘調査の概要については各担当者で分担執筆した。また文化財調査の概要およびトピックスについては同部文化財整備課の協力を得た。

目次

Ⅰ　開発事前審査……1
　１）平成３(1991)年度の概要……1
　２）誠掘調査一覧……3
Ⅱ　発掘調査の概要……15
　１）平成３(1991)年度の概要……15
　２）誠掘調査一覧……17
　３）各調査の概要……19
Ⅲ　文化財調査の概要……67
Ⅳ　トピックス……70
附　平成３（1991）年度刊行の報告書……72

平成３（1991）年度の組織

- 文化部
  - 埋蔵文化財課
    - 第　1　係：公共事業に係る埋蔵文化財の発掘調査
    - （文化財主事）：公共事業に係る埋蔵文化財の事前調査
    - 第　2　係：民間事業に係る埋蔵文化財の発掘調査
    - （文化財主事）：民間事業に係る埋蔵文化財の事前調査
  - 埋蔵文化財センター
    - 管　理　係：考古学的資料の収集・保存・展示
    - （文化財主事）：考古学資料の調査・収集・整理
  - 文化課
    - 文化財管理係：考古学的資料の収集・保存・展示
    - 文　化　係：芸術・文化の振興・普及、文化団体との連絡
  - 少年科学文化会館
    - 管　理　係：施設の管理運営
    - 学　芸　係：児童図書の閲覧・貸出し、プラネタリウム等
  - 副主幹　主査：鴻臚館址調査
- 博物館
  - 庶務課
    - 庶　務　係：博物館の庶務、連絡調査、施設の管理運営
    - 計画管理係：施設の管理運営、渉外
  - 学芸課　主査：博物館資料の収集・保存・展示・調査研究

埋蔵文化財課の構成

課　　長：折尾　学
第一係長：飛高憲雄
文化財主事：井澤洋一．濱石哲也．山崎龍雄
係　　員：（技術）　松村道博．小林義彦．吉武　学．吉留秀敏
　　池田祐司．長家　伸．榎本義嗣
　　（事務）　中山昭則．吉田麻由美．寺崎幸男
第二係長：塩屋勝利
文化財主事：横山邦繼．山口譲治
係　　員：田中寿夫．大庭康時．下村　智．常松幹雄．佐藤一郎．
　　加藤良彦．荒牧宏行．宮井善朗．菅波正人

Ⅰ 開発事前審査

本市において、埋蔵文化財包蔵地内での土木工事などにかかわる開発事前審査は、昭和52年度から57年度までの６年間にわたって実施した分布調査の成果（福岡市文化財分布地図．１：4000．Ｂ３版．全173図）をもとに行っている。

文化財分布地図は、市役所各開発部局および関係公社・公団などに配布し、事業計画策定段階での活用をお願いしている。また民間の各種開発関係、不動産取引関係者などには、埋蔵文化財課窓口での分布地図閲覧や各種の相談にのっている。このさいに文化財保護法の主旨および手続きなどの説明をするとともに、文化財保護についての協力をお願いしている。

１）平成３（1991）年度の概要

平成３年度中に埋蔵文化財課に提出された公共及び民間開発事業にともなう事前調査の申請（『埋蔵文化財事前審査願い』及び『事業計画書』）は、下表に示すように公共事業653件、民間開発事業457件の計1,110件であった。また事前審査窓口に備え付けた『文化財分布地図』の閲覧数は、年間通算2,045件となり、昨年度より300件増えており、電話などによる問いあわせを含めると文化財にかかる社会的要求はますます増大してきたと考えることができる。

事業別割合では、民間事業で昨年比の80％強に減少し、公共事業関係では同30％増加している。

民間事業では、旧博多市街（博多遺跡群）および博多駅南（比恵遺跡群）、那珂（那珂遺跡群）の開発が主体となっている。また、公共事業関係では大型道路建設、都市公園建設、区画整理事業、下水道建設などが主要なものとなっている。

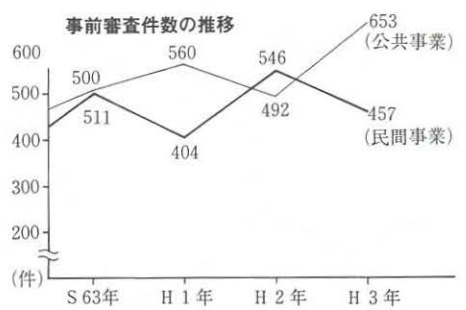
事前審査の内訳では、総件数の77％ほどが書類による審査であり、ついで試掘調査、踏査、工事立会と続く。また試掘調査は、ほぼ昨年度なみで推移している。

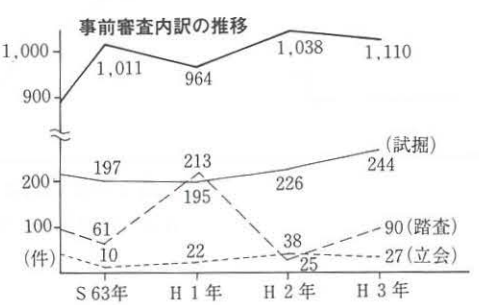
開発事前審査件数の推移　（件）

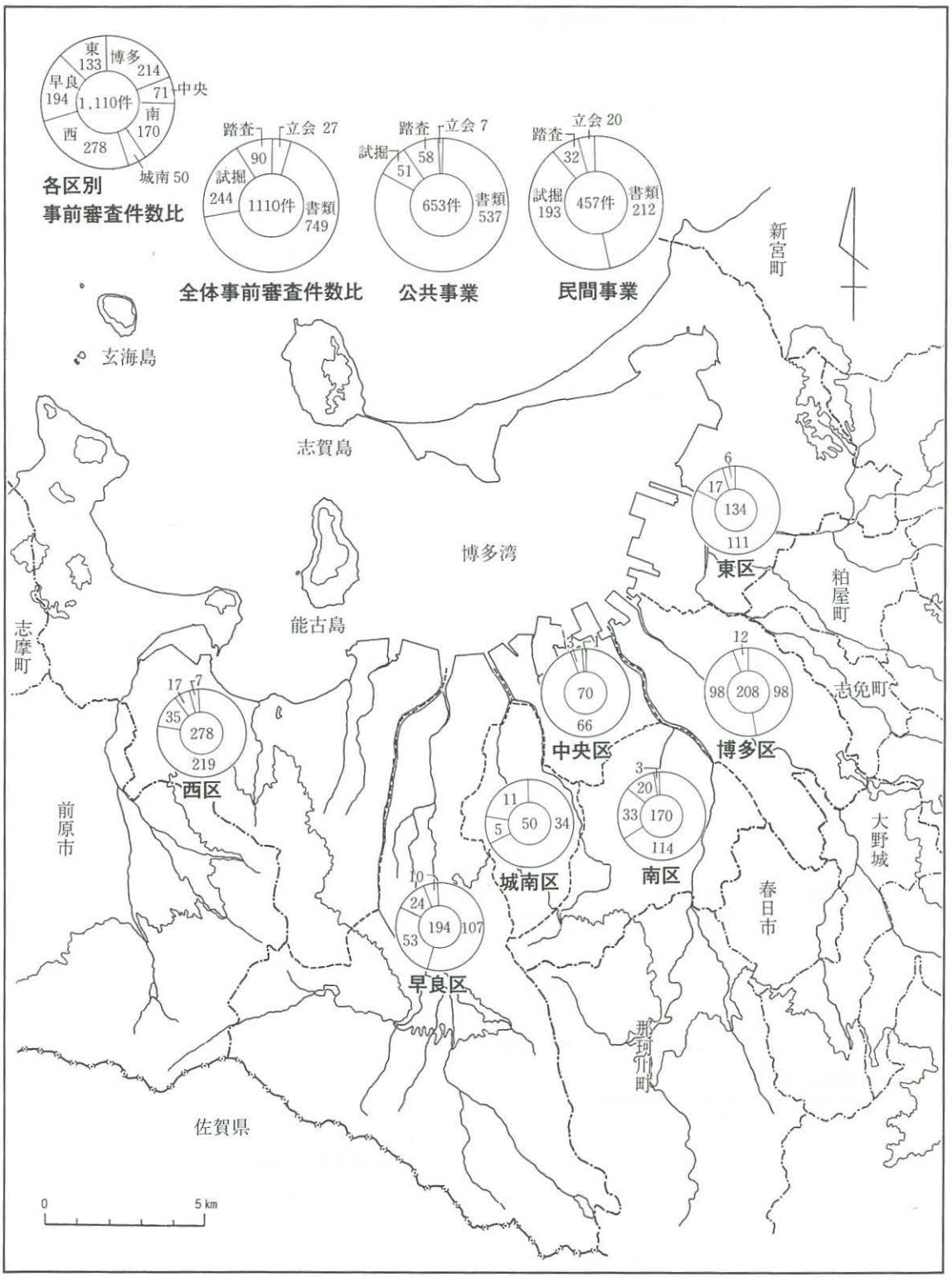
	S.63年	H.1年	H.2年	H.3年
民間	511	404	546	457
公共	500	560	492	653
計	1,011	964	1,038	1,110

事前審査の内訳　（件）

	S.63年	H.1年	H.2年	H.3年
書類	743	534	546	457
踏査	61	213	25	90
試掘	197	195	225	244
立会	10	22	38	27







平成３年度開発事業事前審査状況

各区の円内訳は、図上円グラフと一致する。

試　掘　調　査　一　覧

ここに掲載する試掘調査は、平成３年度（1991年４月１日～1992年３月31日）に行ったものである。

東区

番号	遺跡 名称	遺跡 所在地	調査日	事業 種別	事業 面積	遺跡の有無	調査後の措置	地図番号	調査の所見	審査番号
1	元寇防塁隣接地	箱崎二丁目3168番9他	910423	共同住宅	1,023	無		34	近世包含層	2-2-426
2	香住ケ丘遺跡群	香住ケ丘一丁目10-7	910423	賃貸店舗	9,083	無		30	自然丘陵	2-2-436
3		大字上和白字池尻1347-1他	910418	共同住宅	4,573	無		29	砂丘後背湿地	3-1-15
4	元寇防塁	箱崎二丁目3166-1	910717	共同住宅	409	無		34	海浜堆積	3-2-69
5	箱崎遺跡	箱崎三丁目3251-3他	910611	専用住宅	429	有	慎重工事	34	中世町址	3-2-84
6	箱崎遺跡	箱崎一丁目27・25	910703	共同住宅	474	有	発掘調査	34	中～近世集落址	3-2-93
7	元寇防塁	馬出四丁目277～282	910717	事務所建設	1,264	無		34	海成砂層	3-2-109
8		大字蒲田字祝田815-1番地	911114	倉庫建設	32,500	無		2・8	沖積層	3-2-119
9	香椎Ａ遺跡	香椎四丁目2078番1他	910822	ビル建設	1,816	有	発掘調査	17	中世屋敷址	3-2-132
10	箱崎遺跡	箱崎三丁目8番23号	910911	共同住宅	274	有		34	14～15世紀集落址	3-2-188
11	箱崎遺跡	箱崎三丁目8番31号	910911	共同住宅	346	有		34	14～15世紀集落址	3-2-189
12	名島城址	名島三丁目2484-16	911009	共同住宅	328	有	発掘調査	32	不詳	3-2-200
13	大岳遺跡	大字西戸崎395他	920212	ゴルフクラブ	797	不明	慎重工事	78	不詳	3-2-376
14	元寇防塁隣接地	箱崎二丁目3068-2他	920312	共同住宅	410	無		34	近世以降の砂丘堆積	3-2-409
15	蒲田部木原遺跡	大字蒲田字部木原397他4筆	910623	資材置場	4,378	有	未発掘調査	2		3-2-410
16		八田459-2地内	910912	道路改良	285	無				3-1-32
17		馬出二丁目地内	920121	住宅改良	8,300	無		34	水堆堆層	4-1-30
18		松島一丁目11区５番地	920224	学校建設	12,553	無		33	潟状堆積	4-1-153

博多区

番号	遺跡 名称	遺跡 所在地	調査日	事業 種別	事業 面積	遺跡の有無	調査後の措置	地図番号	調査の所見	審査番号
1	比恵遺跡群	博多駅南四丁目198	910509	マンション	751	無		37	弥生時代貯蔵穴群など	2-2-358
2	麦野A遺跡群	麦野三丁目2-13	910409	専用住宅	205	有	慎重工事	12	平安時代土壙	2-2-390
3	笹原遺跡群	諸岡五丁目30	910425	共同住宅	297	無		25	近現代の水路など	2-2-419
4	博多遺跡群	奈良屋町33番1他8筆	910415	ビル建設	638	有		48	神屋宗湛屋敷推定地	2-2-432
5	比恵遺跡群隣接	博多駅南二丁目30番	910402	ビル建設	92	無		36	旧河川の氾濫原	2-2-434
6	板付遺跡隣接	板付五丁目7-116の一部	910404	事務所付倉庫	568	有	慎重工事	24	古墳時代以降の水田址	2-2-440
7	高畑遺跡	板付六丁目10-7	910409	専用住宅	732	有		24		2-2-450
8	博多遺跡群	御供所町15	910604	ビル建設	146	有	発掘調査	49	中世都市	2-2-458
9	井相田B遺跡群	春町一丁目11、14番地	910402	賃貸アパート	469	無		12	旧河川の氾濫原	2-2-470
10	諸岡B遺跡群	諸岡二丁目9番38、9番25	910509	店舗付倉庫	1,036	有	工事立会	24	地下式横穴など	2-2-477
11	博多遺跡群	奈良屋町9-1、9-2	910410	店舗付住宅	165	有	転売	48		3-2-3
12	麦野A遺跡群	麦野四丁目14番23	910430	共同住宅	349	有	発掘調査	12	古墳時代以降住居址など	3-2-12
13	博多遺跡群	御供所町14-4	910430	納骨堂	94	有	慎重工事	49	古代～中世包含層	3-2-21
14	那珂遺跡群	那珂六丁目305、302	910642	専用住宅	224	有	慎重工事	38	奈良時代集落址	3-2-23
15	比恵遺跡群	博多駅南六丁目85-2	910418	倉庫建設	293	無		37	開田時の掘削が大きい	3-2-25
16	比恵遺跡群	博多駅南六丁目76-2	910820	ビル建設	297	無		37		3-2-28
17	博多遺跡群	奈良屋町238、239、240	910522	ビル建設	279	無		48	近世以降の溝・土壙	3-2-45
18	博多遺跡群	上川端町147	911003	駐車場	1,018	無		49	中世末町屋	3-2-46
19	那珂遺跡群	那珂二丁目42-1	910516	集会所	175	有	慎重工事	24	低湿地	3-2-53
20	比恵遺跡群	博多駅南三丁目379番他2筆	910522	売買	490			37	近現代の溝一条	3-2-55
21	比恵遺跡群	博多駅南五丁目60-10他	910530	—	2,215	無		37	沖積地	3-2-58
22	博多遺跡群	上呉服町594他4筆	910615	事務所ビル	940	有	発掘調査	48	中世都市	3-2-64
23	板付遺跡群	板付五丁目2番36	900604	—	136	無		24	沖積地で遺物も出土しない	3-2-70
24	比恵遺跡群	博多南六丁目26番地	910611	車庫建設	538	有	慎重工事	37	不詳	3-2-72

25	博多遺跡群	冷泉町2-9	900709	駐車場	554	有	慎重工事	49	中世都市	3-2-83
26	比恵遺跡群	博多駅南五丁目16番	910627	—	100	無		37	弥生中期～古墳時代包含層	3-2-88
27	那珂遺跡群	那珂二丁目168番	910704	共同住宅	157	無		38	削平ずみ	3-2-95
28		那珂二丁目249-1	910709	賃貸アパート	323	有	発掘調査	38	弥生～古墳時代集落	3-2-100
29	比恵遺跡群	博多駅南六丁目2-20	910709	社屋改築	666	無		37	弥生時代包含層	3-2-101
30	比恵遺跡群隣接地	博多駅南三丁目1-7	910730	共同住宅	746	無		37	低湿地	3-2-113
31	博多遺跡群	奈良屋町9-1、9-2	910410	店舗兼住宅	165	有	発掘調査	48		3-2-118
32	博多遺跡群	綱場町49	910703	貸事務所	199	有	慎重工事	48	低湿地	3-2-123
33	高畑遺跡	板付六丁目9番4号	910820	集会所	417	無		24		3-2-133
34	那珂遺跡群	竹下五丁目316、319番	910819	アパート	134	有	慎重工事	38	溝	3-2-133
35	那珂遺跡群	那珂二丁目198、200番地	911024	共同住宅	282	無		38	削平ずみ	3-2-134
36	那珂遺跡群	那珂一丁目797、798	910827	共同住宅	162	有	慎重工事	37	ピット群	3-2-145
37	堅粕遺跡群	吉塚三丁目410-1	910811	社宅建設	490	有	—	35		3-2-151
38	諸岡A遺跡	諸岡四丁目31-35	910828	専用住宅	121	有	工事立会	24	ピット群	3-2-156
39	那珂遺跡群	那珂二丁目132-1	910827	アパート	393			24		3-2-158
40	比恵遺跡群	博多駅南五丁目21-30	910827	専用住宅	90	不明	慎重工事	37	弥生墓地か	3-2-159
41	雑餉隈遺跡	昭南町三丁目24	911001	専用住宅	170	無		13	低湿地	3-2-162
42	博多遺跡	博多駅前一丁目50-2他	910828	立体駐車場	290	無		36	低湿地	3-2-163
43	那珂遺跡群	那珂三丁目124番	910925	専用住宅	82	有	慎重工事	23	溝・土壙・ピット群	3-2-165
44	麦野C遺跡群	東雲町一丁目8番1号	910917	共同住宅	340	無		12	削平ずみ	3-2-185
45	博多遺跡群	上呉服町530番2	910911	事務所	196	無		48	近代都市	3-2-191
46	博多遺跡群	冷泉町304-1他5筆	910918	マンション	870	有	発掘調査	49	12～14世紀都市	3-2-197
47	雑餉隈遺跡	親和町二丁目16-11	911207	専用住宅	405	無		13	旧沼地	3-2-199
48	博多遺跡群	下呉服町357-1他5筆	910917	—	446	有	発掘調査	48	15～16世紀都市	3-2-202
49	博多遺跡群	奈良屋町192-2、192-3	911121	共同住宅	495	無	近世都市	48		3-2-205
50	博多遺跡群	店屋町156	911003	ビル建設	531	有	発掘調査	49	中世土壙	3-2-209
51	比恵遺跡群	博多駅南四丁目162-5	911002	倉庫付事務所	366	有	発掘調査	37	弥生中期住居址・溝	3-2-215

52	豊遺跡群	東光二丁目106番	911009	事務所	899	無		36	水成堆積	3-2-229
53	板付遺跡	板付五丁目3-6	911204	専用住宅	220	無		24		3-2-224
54	諸岡A遺跡群	那珂五丁目236-34	911024	専用住宅	153	無		24	近代以降の溝・ピット群	3-2-241
55	井相田B遺跡群	春町二丁目、5、6番	911042	事務所ビル	612	無		12		3-2-247
56	笹原遺跡群	諸岡五丁目621番他8筆	911029	マンション	2,621	無		25	自然谷	3-2-249
57	比恵遺跡群	博多駅南六丁目9-3、9-4	911029	倉庫付事務所	464	有		37		3-2-251
58	井相田C遺跡群	井相田二丁目8-8の一部	911107	ガス整圧器	38	有	工事立会	12	古墳時代後期土器多量出土	3-2-263
59	比恵遺跡群隣接地	博多駅南三丁目19-1、2	911226	賃貸ビル	566	無		37	自然谷	3-2-271
60	諸岡A遺跡群	那珂五丁目258-1	911113	事務所	724	無		24	削平ずみ	3-2-272
61	麦野A遺跡	麦野五丁目8番40	910828	専用住宅	656	有	慎重工事	12		3-2-275
62	比恵遺跡群	博多駅南四丁目6番23号	911121	工場増築	4,135	有	発掘調査	37	弥生時代後期集落	3-2-276
63	比恵遺跡群	博多駅南四丁目6番3号	911121	工場増築	4,390	有	発掘調査	37	〃	3-2-277
64	那珂遺跡群	竹下三丁目1番1号	911212	濾過タンク	118,841	無		37		3-2-285
65	麦野A遺跡群	麦野三丁目11番20、21	911205	共同住宅	2,040	有	工事立会	12	住居址・柱穴	3-2-293
66	那珂遺跡群	竹下五丁目406番	920129	専用住宅	148	有	慎重工事	38	古代溝	3-2-308
67	博多遺跡群	上川端町123番地	911211	店舗建設	151	無		49	近世以降町屋	3-2-309
68	那珂遺跡群	那珂二丁目213番1他	911211	専用住宅	360	有	一部発掘調査	38	溝・ピット群	3-2-310
69	那珂遺跡群	那珂二丁目281番	920109	事務所	79	無		38	削平ずみ	3-2-311
70	那珂遺跡群	東光寺町一丁目224番地他	911228	倉庫付事務所	828	有	工事立会	37	ピット群	3-2-314
71	三筑生産遺跡	三筑一丁目10番13、14の一部	911219	倉庫付事務所	1,446	無		25	旧河川流路か	3-2-319
72	諸岡A遺跡	那珂五丁目236-14	920116	事務所	102	無		24	近代以降の溝２条	3-2-326
73	高畑遺跡	板付四丁目10番5号	911219	専用住宅	391	有	慎重工事	24	谷部堆積	3-2-327
74	那珂遺跡群隣接地	竹下五丁目185-1	920109	事務所	266	無		38	氾濫原	3-2-332
75	堅粕遺跡群	千代一丁目245番	920123	変電所	925	無		35	既削平	3-2-342
76	博多遺跡群	綱場町58番	920122	商業ビル	178	有	工事立会	49	近世以降町屋	3-2-356
77	諸岡A遺跡群	諸岡四丁目31番37号	920129	倉庫建設	167	有	慎重工事	24	柱穴など	3-2-357
78	比恵遺跡群	博多駅南五丁目101-1他	920204	事務所ビル	3,265	無		37	削平ずみ	3-2-375

79	麦野A遺跡群	麦野二丁目9-2	920206	社員寮	1,313	無		12	八女粘土再堆積層	3-2-383
80	諸岡A遺跡	諸岡一丁目1-35	920206	—	198	無		24		3-2-384
81	麦野A遺跡群	麦野一丁目26番5	920305	専用住宅	199	有	慎重工事	25	ピット・溝など	3-2-393
82	比恵遺跡群	博多駅南四丁目154-3、4	920214	ビル建設	330	有	発掘調査	37		3-2-402
83	比恵遺跡群	竹下五丁目436	920317	共同住宅	247	不明	慎重工事	37	不詳	3-2-414
84	那珂遺跡群	東光寺町一丁目14-21	920319	専用住宅	409	有	工事立会	37	溝・ピット群	3-2-420
85	諸岡B遺跡	諸岡四丁目127	920324	専用住宅	413	有	慎重工事	24	奈良時代桂穴か	3-2-425
86	那珂遺跡群	那珂一丁目443他	920312	倉庫建設	336	有	工事立会	37	古墳～古代住居址か	3-2-428
87	堅粕遺跡群隣接地	堅粕三丁目18-33他6筆	920331	倉庫付事務所	2,607	無		35	後背地性堆積か	3-2-432
88		大字下月隈字正手517-1、2	910606	公園建設		無				3-1-636
89		空港前三～五丁目、青木一～二丁目	911022	区画整理	41,000	有	発掘調査		弥生中期墓地	3-2-639
90		大字下臼井字百田766-1	910508	空港ビル	12,500	無				3-1-414
91		井相田二丁目1-1	910730	独身宿舎	1,866	有	未発掘調査	12	平安～弥生集落地	3-1-644

中央区

番号	遺跡		調査日	事業		遺跡の有無	調査後の措置	地図番号	調査の所見	審査番号
	名称	所在地		種別	面積					
1	元寇防塁	唐人町二丁目50番10	910615	専用住宅	188	無		71	近代人形工房址	3-2-63
2		赤坂一丁目243番	910903	事務所ビル	1,378	無		60	湿地堆積	3-2-110

城南区

番号	遺跡		調査日	事業		遺跡の有無	調査後の措置	地図番号	調査の所見	審査番号
	名称	所在地		種別	面積					
1	飯倉E遺跡群	干隈二丁目408	910606	寮建設	41,146	無		74	削平ずみ	2-2-127
2	飯倉G遺跡	梅林五丁目137-1	910515	集合住宅建設	345	無		74	削平ずみ	3-2-41
3	神松寺遺跡群	友丘二丁目1823-1、18	911003	専用住宅建設	316	無		62	削平ずみ	3-2-154
4	飯倉E遺跡	梅林三丁目106番16	910405	専用住宅建設	141	無		74		3-2-451
5		樋井川四丁目323-3他	911125	市営住宅建設	9,000	有	発掘調査	63	弥生中期後半ピット群	3-1-470

南区

番号	遺跡 名称	遺跡 所在地	調査日	事業 種別	事業 面積	遺跡の有無	調査後の措置	地図番号	調査の所見	審査番号
1	警弥郷A遺跡	弥永二丁目2番1	910404	貸倉庫	1,479	有	慎重工事	41	水田址	2-2-439
2	日佐遺跡群	日佐二丁目2-1他5筆	910425	貸倉庫	687	有	慎重工事	40		2-2-473
3	野多目C遺跡群	野多目二丁目275番1	910430	—	1,269	有	発掘調査	40	縄文時代中～後期包含層	3-2-14
4	警弥郷B遺跡	弥永三丁目13-10、16	910618	専用住宅	123	無		41	削平ずみ	3-2-40
5		大字桧原字瀧ノ下864-1他2筆	910528	事務所付倉庫	3,112	無		65	河川氾濫原	3-2-51
6		大橋三丁目414番地4他	910912	高層賃貸住宅	2,835	無		39		3-2-71
7		警弥郷B遺跡	910618	貸倉庫	1,150	無		41	削平ずみ	3-2-82
8		老司三丁目328番10	910731	専用住宅	1,564	無		40	沖積地	3-2-120
9	三宅B遺跡	三宅二丁目984番1	910903	共同住宅	511	無		39	低湿地	3-2-136
10	井尻B遺跡	井尻一丁目293-1他2筆	910904	マンション	1,765	有	発掘調査	25	奈良～古墳時代集落址	3-2-171
11	野多目C遺跡	野多目四丁目245-1	911107	—	298	無		40	旧河川	3-2-262
12	野多目A遺跡隣接地	野多目四丁目781-1、3、780-1	911128	戸建分譲	1,322	無		40		3-2-279
13	三宅B遺跡	和田三丁目74番3、8、9	911205	専用住宅	383	無		39		3-2-295
14	大橋E遺跡群	大橋四丁目1123-1	920227	マンション	856	無		39	氾濫原	3-2-329
15	五十川遺跡群	五十川二丁目263番11	920214	専用住宅	82	不明		24		3-2-331
16	諸岡A遺跡群	井尻二丁目273-5他	920205	マンション	1,012	無		25	自然堆積	3-2-353
17	大橋E遺跡群	大橋四丁目21番24号	920129	マンション	785	有	発掘調査	39	中世末集落	3-2-365
18		弥永二丁目3番2	920203	共同住宅	1,249	無		41	氾濫原	3-2-378
19	太平寺遺跡群	太平寺一丁目281-7他2筆	920306	共同住宅	2,982	無		53	削平ずみ	3-2-379
20	三宅B遺跡	三宅二丁目951番4	920304	専用住宅	144	無		39	水成堆積	3-2-411
21		桧原五丁目地内	910404	南部運動公園	116,000	有	発掘調査	64	古墳２基	3-1-634
22	和田B遺跡	野多目三丁目903-14他15筆		市営住宅建設	13,500	有	発掘調査	40	古代集落址	3-1-175
23		井尻三丁目16番	911014	公団住宅建設	9,000	有	発掘調査	25	溝・ピット群	
24		井尻一丁目13番	911203	公団団地建設	13,144	有	発掘調査	25	弥生集落	3-1-658

25		野間三丁目23番地	911031	道路建設	1,500	無		51	埋没河川など	3-1-565
26		大橋三丁目414番４他		団地建設	2,835	無		39	河川氾濫原	3-1-655

早良区

番号	遺跡 名称	遺跡 所在地	調査日	事業 種別	事業 面積	遺跡の有無	調査後の措置	地図番号	調査の所見	審査番号
1	有田遺跡群	有田一丁目22-6	910611	住居付事務所	216	有	発掘調査	82	中世末大溝	2-2-422
2		田隈二丁目657-1他3筆	910411	分譲住宅	5,062	無		83	近世・近代水路址	2-2-457
3	藤崎遺跡群隣地	百道一丁目714-2他2筆	910403	事務所建設	775	無		81	近世集落址	2-2-459
4	有田遺跡群	有田一丁目1-13-26の一部	910410	専用住宅建設	228	無		82	整理地削平	2-2-466
5	清末遺跡群	大字西入部字亀丸208-1	910424	荷解所建設	2,416	有	慎重工事	94		2-2-478
6	藤崎遺跡群	藤崎一丁目53、54	910516	ビル建設	276	有	工事立会	81	古墳～中世溝	3-2-13
7	藤崎遺跡群	高取二丁目3-8	910424	専用住宅	225	無		81		3-2-19
8	原遺跡群	原六丁目1179-1	910502	事務所建設	174	無		82		3-2-24
9	有田遺跡群	有田一丁目5-37	910516	専用住宅	358	無		82	削平ずみ	3-2-31
10	有田遺跡群	有田一丁目25番12	911017	分譲住宅	661	有	発掘調査	82	中世集落か	3-2-32
11		田隈二丁目655番1他2筆	910411	分譲住宅	1,858	無		83		3-2-47
12	有田遺跡群	小田部五丁目30、31	910508	専用住宅	565	無		82	削平ずみ	3-2-52
13	有田遺跡群	南庄三丁目59番	910619	ビル建設	332	無		81	氾濫原	3-2-68
14	有田遺跡群	小田部五丁目79、80番地	910619	マンション	1,286	無		82	旧開析谷	3-2-79
15	有田遺跡群	小田部五丁目76・77番	910619	未定	535	有	要本調査	82	弥生～古墳時代集落	3-2-80
16	藤崎遺跡群	藤崎一丁目56	910704	共同住宅	333	有	発掘調査	81	古代集落址	3-2-94
17		大字内野字熊崎596-5他3筆	911204	専用住宅	2,400	無		早良17	氾濫原	3-2-139
18	有田遺跡群	小田部二丁目75番	910829	専用住宅	169	有	工事立会	82	満遺構	3-2-152
19	有田遺跡群	小田部五丁目79・80番	910619	共同住宅	1,284	無		82	近世包含層	3-2-161
20	有田遺跡群	小田部三丁目207番の一部他2筆	910829	店舗兼住宅	227	有	慎重工事	82	中世ピット群	3-2-169
21	藤崎遺跡群隣接地	藤崎一丁目28-2、29、30	910905	専用住宅	501	有	慎重工事	81	弥生中期集落址	32-2-170

22	有田遺跡群	小田部一丁目423番他1筆	911008	専用住宅	152	無		82	削平ずみ	3-2-176
23	内野熊山遺跡	早良一丁目1276番1	910925	専用住宅	1,551	有	要本調査	早良16	縄文～古代集落址	3-2-195
24	東入部遺跡	大字東入部字今朝丸1396番	910918	専用住宅	262	無		85	近世以降攪乱	3-2-203
25	原東遺跡	飯倉三丁目12-15	910919	専用住宅	166	無		82	低湿地	3-2-207
26	クエゾノ遺跡	梅林七丁目149-9	911021	宅地造成	3,688	有	発掘調査	75	石棺墓・製鉄址	3-2-220
27	原遺跡群	原六丁目1188番10	911017	歯科医院	724	有	工事立会	82	古墳～古代集落址	3-2-237
28	西新町遺跡	西新町三丁目600番6他1筆	911106	賃貸ビル	1,873	無		71、72	砂丘斜面	3-2-254
29	免遺跡群	賀茂一丁目310-4他３筆	911106	専用住宅	1,892	無		83	沖積層	3-2-255
30	次郎丸遺跡隣接地	次郎丸二丁目182-9他3筆	911204	事務所兼住宅	363	無		92	沖積層	3-2-298
31	原遺跡群	原六丁目832-2	911128	専用住宅	216	無		82	沖積層	3-2-299
32	有田遺跡群	小田部一丁目347他	911120	専用住宅	382	有	工事立会	81	ピット群	3-2-303
33	有田遺跡群	小田部一丁目418-3	911003	分譲住宅	170	有	一部立会	81		2-3-316
34	有田遺跡群	小田部三丁目375、376	920117	専用住宅	318	有	慎重工事	82	中世以降の土壙・溝	3-2-324
35	有田遺跡群	有田二丁目17-7	911218	専用住宅	544	無		82	削平ずみ	3-2-325
36	有田遺跡群	有田二丁目17-36	911218	専用住宅	205	無		82		3-2-339
37		高取二丁目438	930116	賃貸独身寮	552	無		81	後背湿地	3-2-347
38	藤崎遺跡群	高取二丁目308、309	920122	専用住宅	166	有	慎重工事	81	古墳時代後期柱穴	3-2-355
39	藤崎遺跡群	高取一丁目6番	920303	事務所ほか	261	有	発掘調査	81	弥生中期墓地	3-2-369
40	田村遺跡群	大字田柿木町553-2、551-4	920205	貸倉庫	898	有	慎重工事	84	中世期の柱穴	2-3-371
41	有田遺跡群	小田部一丁目228、229	920218	車庫	266	有	慎重調査	81		3-2-382
42	四箇東遺跡	大字四箇字古地本43-2他2筆	920218	ガス充填所	3,516	有	発掘調査	84	中世～古墳時代溝など	3-2-387
43	有田遺跡群	南庄三丁目2121番1	920311	専用住宅	858	有	工事立会	81	古墳以降の土壙・溝・住居址か	3-2-427
44	田村遺跡群	大字田字戸井808-1他2筆	920311	宅地分譲	3,685	無		92		3-2-430
45		大字脇山地内	910702	道路改良	1,000	無		早良		3-1-642
46		大字重留地内	910718	歩道設置		有			中世～弥生中期集落址	3-1-37
47		大字四箇字船石14-1	910718	ポンプ室築造	1,000	有	発掘調査	85	中世期溝	3-1-49
48		大字石釜地内	910718	道路改良	1,900	無			削平ずみ	3-1-27

49		飯倉二丁目463番18他1筆	910812	公民館建設	460	無			削平ずみ	3-1-
50		曙一丁目11番地	911031	住宅改良	6,229	無		72	旧水田	3-1-657
51	黒塔A遺跡群隣接	大字西入部地内	920205	道路改良	187	無		94	削平ずみ	3-1-183
52		飯倉八丁目地内	920124	道路改良	184	無		82	旧河川堆積	3-1-186
53		大字脇山地内	920116	道路改良	337	無				3-1-179
54		野芥五丁目地内	920107	道路改良	220	有	発掘調査	84	弥生中期貯蔵穴など	3-1-185
55		大字東入部字飛松329-1の一部	911127	公民館建設	1,318	有	発掘調査	85	弥生～中世集落址	4-1-109
56		大字四箇地内	911216	水路改良	320	有	発掘調査	85	溝・住居址	3-1-174
57		大字田地内	920217	市営住宅建設	3,037	有	発掘調査	84	溝・ピット群	4-1-529
58		小田部三丁目32-1	910705	体育館建設	1,600	有	発掘調査	81	古墳時代集落址	3-1-
59		百道二丁目807	910612	拘置所新築		無				3-1-
60		小田部六丁目21番1	920309	公民館建設	681	無		90	低湿地	4-1-108

西区

番号	遺跡		調査日	事業		遺跡の有無	調査後の措置	地図番号	調査の所見	審査番号
	名称	所在地		種別	面積					
1	飯氏遺跡群	大字飯氏双田870-1	910403	店舗建設	375	有	慎重工事	120	氾濫原堆積	2-2-441
2	大原A遺跡群	今津池田平3941-1他5筆	910507	圃場整備	3,266	有	発掘調査	128	弥生～古代包含層・縄文遺構	3-2-26
3	野方久保遺跡	野方一丁目517-3他10筆	911206	戸建住宅	3,017	有	発掘調査	104など		3-2-30
4	青木遺跡	今宿東一丁目90番他2筆	920207	戸建住宅	2,348	有	工事立会	112		3-2-60
5	牟多田遺跡群	拾六町二丁目324-1	910928	貸倉庫	1,692	有	慎重工事	91	水田址	3-2-81
6	周船寺遺跡	泉三丁目1011-1	910702	共同住宅	1,115	無		120	低湿地	3-2-85
7		石丸二丁目64番1	910702	共同住宅	747	無		90	低湿地	3-2-96
8	周船寺遺跡	泉三丁目1050番2	910702	分譲住宅	965	無		120	低湿地	3-2-97
9	周船寺遺跡	大字千里字庄ノ坪459-1の一部	911029	共同住宅	626	有	工事立会	132	縄文後～晩期ピット群	3-2-234
10	下山門乙女田遺跡	下山門三丁目407-1他2筆	911212	貸店舗	1,164	無		90	氾濫原	3-2-302
11	今津A遺跡	今津字長浜4810-1他1筆	911218	分譲住宅	3,220	無		118	削平ずみ	3-2-317

12	今宿五郎江遺跡	大字今宿町字五郎江150	920109	変電所建設	285	有	工事立会	112	削平ずみ	3-2-328
13	飯氏遺跡群	周船寺二丁目603-1、5、6	920123	社員寮建設	1,984	無		120	低湿地	3-2-343
14	鋤崎遺跡群	今宿青木字土山1021-6他2筆	920121	共同住宅	1,719	有	発掘調査	112	弥生～古墳後期柱穴群	3-2-351
15	飯氏二塚古墳	大字飯氏鏡原793他2筆	920205	専用住宅	525	有	工事立会	121	削平ずみ	3-2-370
16	湯納遺跡	拾六町五丁目547-1	920127	貸倉庫	810	有	慎重工事	104	古墳時代柱穴か	3-2-373
18	大林遺跡群	拾六町五丁目517-3	920204	貸倉庫	980	無		90	氾濫原	3-2-374
19	今津A遺跡	今津字撲2089-1	920218	分譲住宅	1,838	無		118	海岸砂丘	3-2-389
20	周船寺遺跡群	泉二丁目1196番1の一部	920331	共同住宅	1,060	無		120	低湿地	3-2-435
21	牟多田遺跡	拾六町二丁目323-1他1筆	920318	事務所付住居	1,662	無		91	低湿地	3-2-438
22	湯納遺跡	拾六町五丁目546-1	920319	貸倉庫	251	無		104	河川氾濫原か	3-2-442
23	羽根戸原A遺跡群	野方四丁目746-1、15	920324		2,707	無		106	削平ずみ	3-2-446
24		今津字小浦池	910628	埋立場整備	26,600	有	発掘調査	128	縄文～中世集落址	3-1-69
25		千里298-1他	911031	道路改良	393	無		132		3-1-62
26		大字金武字山田の上	911101	災害復旧		有		94	弥生中期甕棺墓	3-1-659
27		上山門一丁目475番1他2筆	911110	団地建設		無		103	低湿地	3-1-662
28		大字拾六町地内	911011	市営団地建設		無		104		3-1-471
29		大字拾六町417-2他	911011	市営住宅建設	110,000	無		104		3-1-471
30		大字小田池ノ浦地内	910513	駐車場整備	8,784	無		127		4-1-691
31		上山門一丁目476番4	920121	団地建設	1,011	無		103	構一条・低湿地	3-1-
32		大原地内		圃場整備	3.3ha	有		128	弥生～古墳時代集落	3-1-

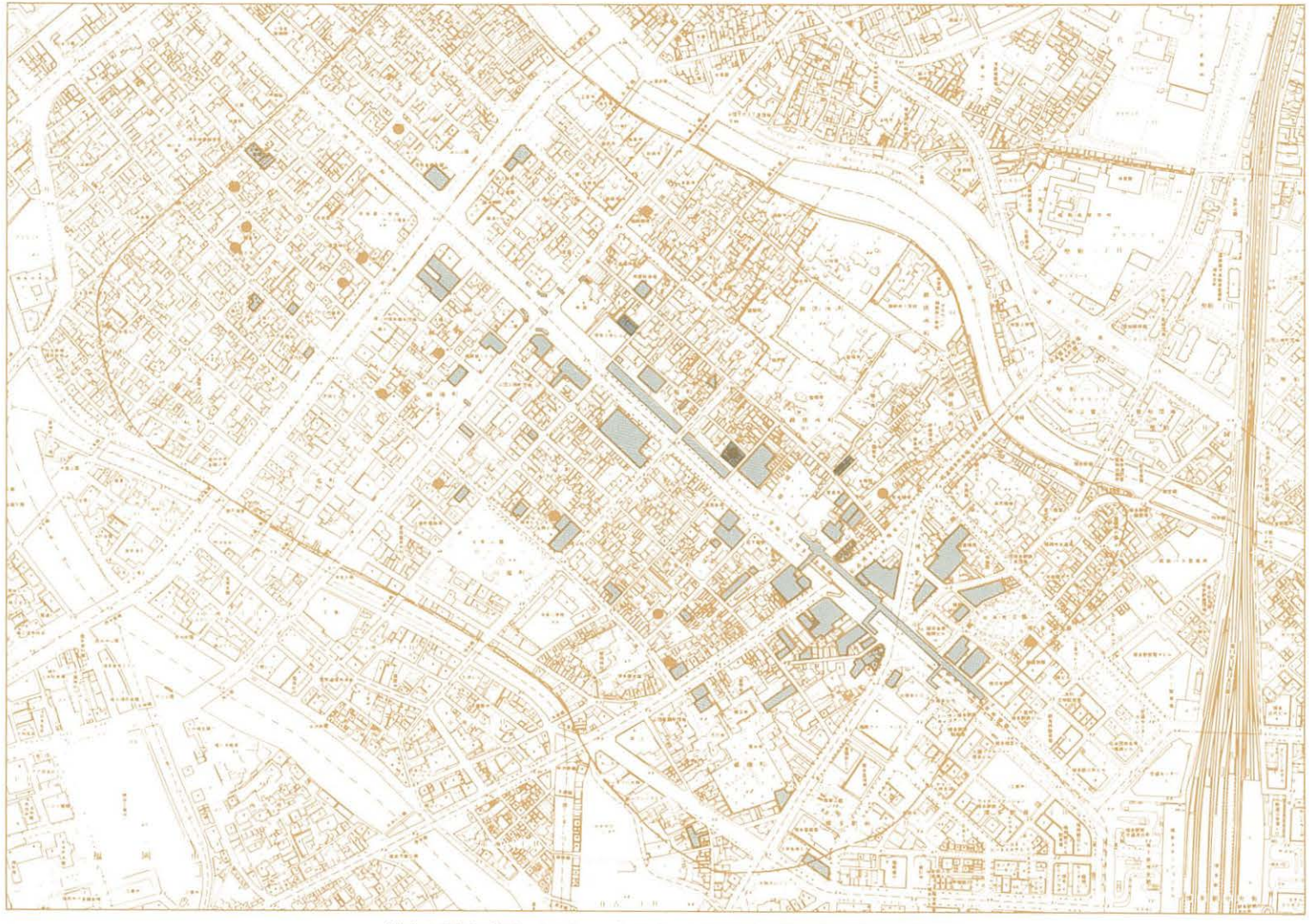
早良区有田遺跡　平成３（1991）年度試堀・発掘調査地点一覧

・は試堀調査地点（番号は試堀調査一覧〈早良区〉に一致）

■は発掘調査地点（番号は発掘調査一覧－17～18Ｐ－に一致）

□は既往の発掘調査地点

道跡上の黒色実線は下水埋設に係る調査位置をしめす（8813）



博多区博多遺跡　平成３（1991）年度試堀・発堀調査地点一覧

• は試堀調査地点（番号は試堀調査一覧〈博多区〉に一致）

■ は発堀調査地点（番号は発堀調査一覧－17～18Ｐ－に一致）

■ は既往の発堀調査地点

Ⅱ 発掘調査の概要

本市における埋蔵文化財の発掘調査は、西部地域（早良区、城南区、西区）を本課第１係、東部地域（中央区、博多区、東区、南区）を同第２係が担当している。なお年度の調査量の多少により、係間で随時調査業務の補完を行っている。

また本市では、調査資料の保管・管理のため個々の遺跡の発掘調査に固有の遺跡登録番号・調査番号をつけて登録し、数字・アルファベットで調査資料を検索するシステムを採用している。以下の概要記述で調査番号とするものはこの番号であり、西暦年（上２桁）＋調査順（下２桁）の４桁数字で表示する。更に調査番号は、調査開始の時に設定するため１遺跡の調査が複数年度にまたがる場合、開始年度のみに番号が登録される。

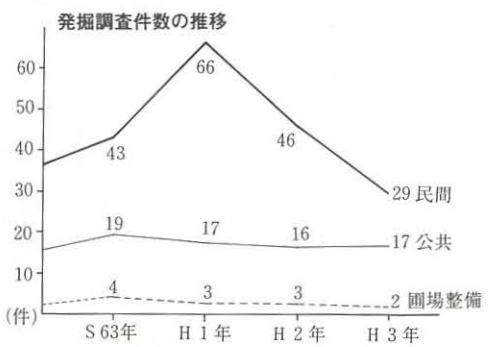
１）平成３年度の概要

平成３年度に市域で発掘調査が実施されたのは48件であり、前年度より17件の減少である。

発掘調査の内訳は公共事業関係17件、民間事業関係29件、県営圃場整備事業関係２件の構成数である。

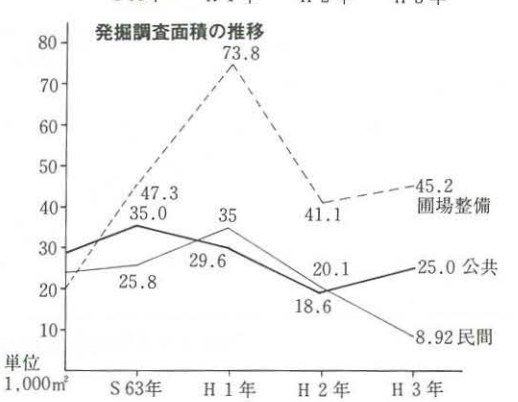
各区別では、博多区20件、早良区13件、西区４件、城南区４件、中央区２件、東区２件となっており、民間事業では市域東半が、公共事業では西半部が多数を占めている。

主な調査成果では、弥生時代中期後半の周溝にかこまれた墳丘をもつ甕棺墓地（早良区、入部遺跡５次調査）、平安時代の大規模製鉄遺構の調査（西区、大原Ｄ１次）、中世博多の町割りなどが調査で明らかとなった。



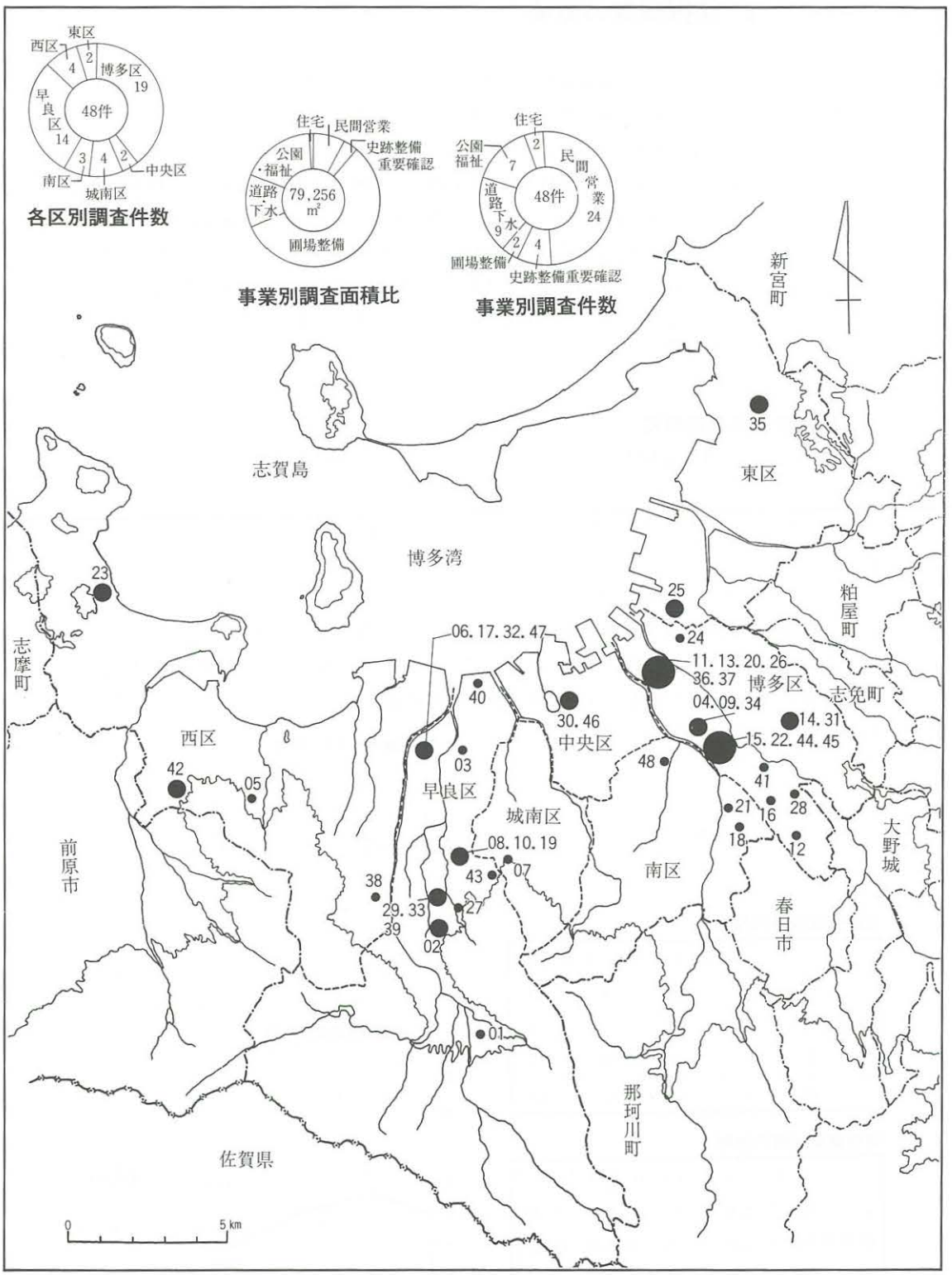
発掘調査件数の推移 (件)

	S.63年	H.1年	H.2年	H.3年
民　間	43	66	46	29
圃場整備	4	3	3	2
公　共	19	17	16	17
計	66	86	65	48



発掘調査面積の推移 (㎡)

	S.63年	H.1年	H.2年	H.3年
民　間	25,826	35,054	21,000	8,923
圃場整備	47,330	73,790	41,132	45,285
公　共	35,082	29,650	18,609	25,048
計	108,238	138,449	80,740	79,256



平成３年度発掘調査状況と調査地点の位置

調査地点の番号は発掘調査一覧17～15Ｐと一致する。

平成３（1991）年度埋蔵文化財発掘調査一覧

調査番号	遺跡名	次数	地区	遺跡略号	調査原因	調査種類	調査地所在地	調査面積		調査期間	調査担当者	報告書	分布地図番号
								m²	古墳				
9101	脇山	6		WKA	圃場整備	公受･補	早良区大字脇山地内	10,904		910401～911014	池田祐司、榎本義嗣		早良10-A-2
9102	入部	5		IRB	圃場整備	公受･補	早良区大字入部地内	34,381		910402～920304	浜石哲也、長家伸		85-A-8,9,23
9103	原遺跡群	16		HAR	寺院建設	民受	早良区原六丁目221	167		910415～910514	宮井善朗		82-A-2
9104	比恵遺跡群	37		HIE	ビル建設	民受	博多区博多駅南四丁目13-41	170		910422～910523	菅波正人		37-A-1
9105	相原古墳群	4		ABK	土取り	補	西区大字上ノ原	170	6	910422～910902	田中寿夫、荒牧宏行		113-B-11
9106	有田遺跡群	166		ART	専用住宅	補	早良区小田部五丁目5-40	409		910423～910528	荒牧宏行		82-A-1
9107	駄ケ原古墳群A群	1		DGKA	寺院建設	民受	城南区大字梅林字平原495-12他	820	2	910501～910705	吉留秀敏		75-B-11
9108	飯倉F遺跡	3		IKRF	公園建設	令達	城南区梅林三丁目	1,615		910501～910911	山崎龍雄		74-A-3
9109	比恵遺跡群	38		HIE	店舗建設	民受	博多区博多駅南三丁目2-22	70		910515～9150517	菅波正人		37-A-1
9110	飯倉C遺跡	3		IKRC	分譲住宅	民受	城南区七隈二丁目1180	141		910513～910523	山崎龍雄		73-A-3
9111	博多遺跡群	71		HKT	ビル建設	民受	博多区御供所町235-1	600		910515～911005	下村　智		49-A-1
9112	南八幡遺跡	4		MHM	共同住宅	民受	博多区寿町二丁目86-1、2	247		910523～910615	大庭康時		12-A-5
9113	博多遺跡群	72		HKT	ビル建設	民受	博多区上川端町264-2	200		910604～910725	佐藤一郎		49-A-1
9114	雀居遺跡	1		SAS	空港整備	公受	博多区福岡空港内	4,700		910605～910730	常松幹雄		23-A-4
9115	那珂遺跡群	32		NAK	道路建設	令達	博多区那珂一丁目地内	1,300		910705～910930	菅波正人		38-A-3
9116	麦野A遺跡	1		MGA	共同住宅	補･民受	博多区麦野四丁目14-23	247		910710～910810	大庭康時		12-A-12
9117	有田遺跡群	167		ART	校舎建設	令達	早良区小田部三丁目32-1	520		910710～910726	松村道博		82-A-1
9118	卯内尺古墳	1		UNK	土取り	補	南区老司三丁目665-3	250		910724～911011	山口謙治		40-B-2
9119	飯倉G遺跡	3		IKRG	公園建設	令達	城南区干隈二丁目地内	450		910802～910920	吉留秀敏		74-A-4
9120	博多遺跡群	73		HKT	事務所建設	民受	博多区御供所町15	76		910806～910916	佐藤一郎		49-A-1
9121	野多目C遺跡	8		NTM	分譲住宅	民受	南区野多目275-1	150		910819～910904	大庭康時		40-A-4
9122	那珂遺跡群	33		NAK	共同住宅	民受	博多区那珂二丁目249-1	275		910902～911014	荒牧宏行		38-A-3
9123	大原D遺跡	1		OBD	埋立場	令達	西区今津字小浦	4,640		910903～920310	松村道博		128-A-4
9124	吉塚本町	2		YSH	道路建設	令達	博多区吉塚本町地内	1,900		910905～911130	常松幹雄		35-A-5
9125	箱崎遺跡群	5		HKZ	共同住宅	民受	東区箱崎一丁目2725	250		910909～911031	田中寿夫		34-A-1
9126	博多遺跡群	74		HKT	共同住宅	民受	博多区上呉服町131-2	140		910918～911031	大庭康時		49-A-1
9127	熊本遺跡群	1		KMM	歩道建設	令達	早良区大字重留地内	25		910917～911002	山崎龍雄		85-A-4

9128	井相田D遺跡	1		ISD	外環状線	公受	博多区井相田地内	5,000		910925～920331	佐藤一郎		12-A-9
9129	四箇船石遺跡	3		SHF	ポンプ場	公受	早良区大字四箇字船石14-1	660		910926～911011	吉武　学		85-A-2
9130	鴻臚館跡	7		KRE	確認調査	市単･補	中央区城内	1,000		910501～920331	山崎純男、瀧本正志		60-A-1
9131	雀居遺跡	2		SAS	空港整備	公受	博多区雀居地内	1,699		911018～911227	下村　智		23-A-4
9132	有田遺跡群	168		ART	専用住宅	補	早良区小田部五丁目154-1	455		911022～911211	山崎瀧雄		85-A-1
9133	四箇船石遺跡	4		SHF	道路建設	令達	早良区大字四箇字船石地内	350		911023～911228	吉留秀敏		85-A-2
9134	比恵遺跡群	39		HIE	事務所建設	民受	博多区博多駅南四丁目162-5	210		911029～911213	菅波正人		37-A-1
9135	香椎A遺跡群	2		KSA	共同住宅	補･民受	東区香椎四丁目2080他	788		911105～911227	大庭康時		17-A-1
9136	博多遺跡群	75		HKT	事務所建設	民受	博多区奈良屋町9-1、9-2	97		911105～911206	山口譲治		49-A-1
9137	博多遺跡群	76		HKT	ビル建設	民受	博多区上呉服町594他	521		911111～920411	田中寿夫		49-A-1
9138	浦江B遺跡	2		URB	道路建設	令達	西区	5		911106～911106	吉武　学、井澤洋一		94-A-10
9139	四箇船石遺跡	5		SHF	水路改良	令達	早良区大字四箇字船石地内	160		911220～911225	吉武　学		85-A-2
9140	藤崎遺跡群	21		FUA	共同住宅	民受	早良区藤崎一丁目56	170		920113～920208	山崎龍雄		81-A-1
9141	板付遺跡			ITZ	確認調査	市単･補	博多区板付五丁目7-68	750		911101～920331	力武卓治		24-A-1
9142	飯氏遺跡群	4		IIJ	試掘調査	令達	西区大字飯氏～周船寺	170000		920203～920331	吉留秀敏、加藤良彦		121-A-1
9143	野芥A遺跡	3		NKE	道路建設	令達	早良区野芥五丁目地内	123		920124～920201	吉武　学		84-A-8
9144	那珂遺跡群	34		NAK	道路建設	令達	博多区那珂二丁目地内	1,100		920120～920331	菅波正人		37-A-3
9145	那珂遺跡群	35		NAK	車庫増設	民受	博多区那珂二丁目213-1	20		920203～920207	宮井善朗		38-A-3
9146	福岡城時計櫓	12		FUE	確認調査	補	中央区城内	250		920301～920331	山崎純男、瀧本正志		60-A-1
9147	有田遺跡群	169		ART	ビル建設	民受	早良区有田一丁目25-1、2	210		920224～920323	山崎龍雄		82-A-1
9148	大橋E遺跡	4		OOE	共同住宅	民受	南区大橋四丁目1122-4他	70		920316～920319	荒牧宏行		39-A-14

9101　脇山（わきやま）遺跡第６次（NNA－１　DMN－１　WKA－６）

所 在 地　早良区大字脇山野中
調査原因　圃場整備
調査期間　910418～911014
調査面積　18,718㎡
担 当 者　浜石．榎本．池田
処　　置　調査後破壊

位置と環境　調査地は早良平野の奥部、脊振山の南側山麓の扇状地上に位置する。今年度の事業は２カ所に分かれ、野中遺跡１次と大門遺跡１次、脇山Ａ遺跡６次調査にあたる。

検出遺構　**野中遺跡**
縄文時代：土壙（晩期）、包含層（前期、晩期）
中世：掘立柱建物、土壙、焼土壙、ピット
大門遺跡
中世：土壙、焼土壙、ピット
脇山Ａ遺跡
中世：土壙、焼土壙、ピット

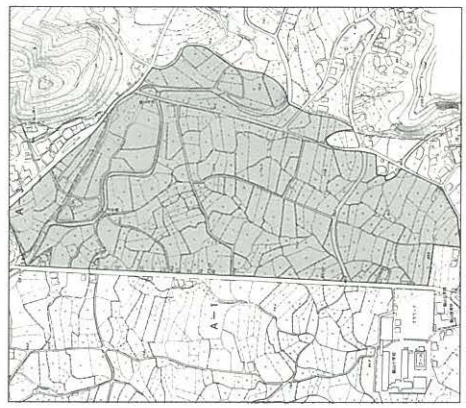
出土遺物　**野中遺跡**　縄文時代は、晩期土器を中心に轟式土器、条痕文土器、磨製石斧、石鏃がまとまって出土し、押型文、曽畑式土器も若干みられる。弥生時代では須玖式土器が若干出土した。中世は輸入陶磁器、土師皿等が出土している。コンテナケース50箱。

大門遺跡　縄文時代は轟Ｂ式、晩期土器を少量、中世では輸入陶磁器、瓦器等をコンテナケース７箱出土した。

脇山Ａ遺跡　縄文時代では押型文土器、晩期の土器、石鏃等がある。中世では、輸入陶磁器、土師器等が出土した。コンテナケース20箱。

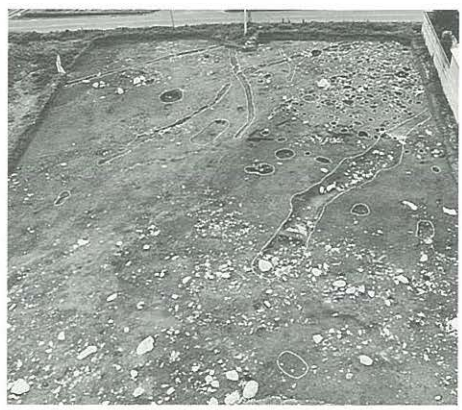
まとめ　各遺跡とも縄文時代と12世紀後半以降を主体とする。野中遺跡では扇状地の端に縄文早期から晩期の遺物包含層と若干の遺構を検出した。包含層は特に時期ごとには分かれない。

調査区の西南部には各主館跡比定地に近接した中世のピット集中地点がある。脇山Ａ遺跡では、２地点で中世の遺構の集中がみられた。縄文時代は遺物のみで遺構、明確な包含層はみられなかった。



１．調査地点の位置（早良10－Ａ－２）

２．脇山Ａ遺跡６次第１地点全景



３．野中遺跡１次第２地点全景

9102　入部（いるべ）遺跡第５次（IRB－５）

所 在 地　早良区大字東入部地内　　**調査面積**　34,206㎡（延面積　36,803㎡）
調査原因　圃場整備　　**担 当 者**　濱石哲也.長家伸.池田裕司.榎本義嗣
調査期間　910513～920305　　**処　　置**　調査後破壊

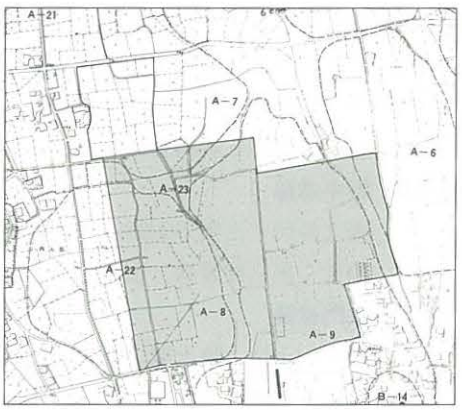
位置・環境　入部地区圃場整備地内の遺跡発掘調査は今年度で５年目をむかえた。今年度の整備地区は早良平野の南端部分、荒平山から西北方向に延びる低丘陵とその周辺の低地からなる。西側には室見川が北に流れる。この地区には分布調査ににより、清末（きよすえ）・安通（やすどおり）・東入部（ひがしいるべ）の３遺跡群が知られており、調査もこの遺跡群すべてにおよんだ。

検出遺構
出土遺物　**清末遺跡群**（第３次）……縄文時代包含層と古墳時代および中近世の集落を検出した。包含層は後期に属し、縄文土器、石器のまとまった出土をみた。古墳時代の集落は竪穴式住居９棟を２ヶ所に分かれて検出した。住居からは古式土師器がまとまって出土した。中近世の集落は掘立柱建物、井戸、溝などからなり、輸入陶磁器、土師器などが出土した。

安通遺跡群……古墳時代は竪穴式住居２基と遺構は散在的である。土師器・須恵器が出土した。中世の集落は遺跡群内に数ヶ所に分かれており、掘立柱建物・溝・土壙の他、製鉄関係の遺構を検出した。

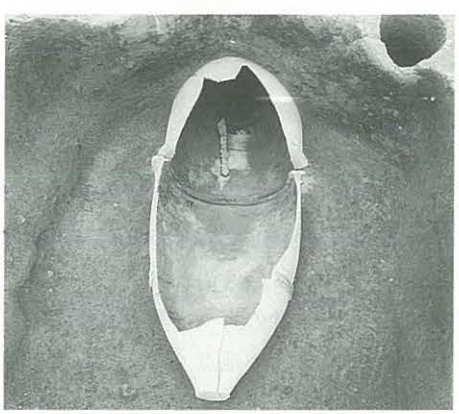
東入部遺跡群（第２次）……縄文時代後・晩期の包含層、弥生時代集落・墓地、古代～中世集落などを検出した。弥生時代墓地は甕棺墓170基、土壙・木棺墓50基ほどで構成され、一部の墓には青銅器（剣・釧）、鉄器（剣・矛など）の副葬をみた。これらの墓は方形状の溝で区画され、前期～中期後半における墓地の変遷をたどることができる。中世では居館らしき遺構と種々の遺物の出土をみた。

まとめ　今年度も縄文～近世に至る膨大な遺構・遺物を検出した。特に弥生時代の墓地は、当時の権力構造を知る重要な資料のひとつである。



1．調査地点の位置（85－Ａ－８）

2．調査地点全景（北から）


3．K113号甕棺墓鉄剣出土状況（南から）

9103　原（はら）遺跡第16次（HAR－16）

所 在 地　早良区原６丁目13－41
調査原因　寺院建設
調査期間　910415～910518
調査面積　167㎡
担 当 者　宮井善朗
処　　置　調査後破壊

位置・環境　調査区は、原遺跡群の台地部南端に近い位置に立地する。遺構検出面は八女粘土の再堆積層である。

検出遺構　表土下に堆積する近世以降の遺構面まで重機で除去し、その下の地山面で弥生前期～中世にわたる遺構を検出した。

弥生時代　貯蔵穴４基、住居跡２基、掘立柱建物１棟以上、ピット。

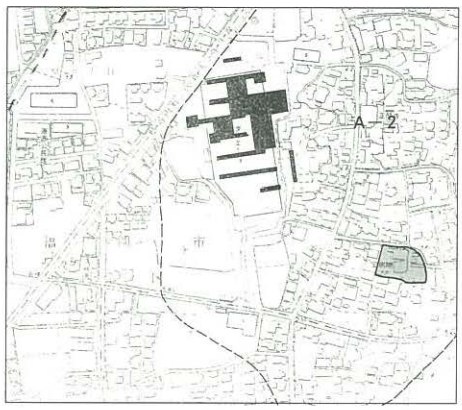
中　　世　掘立柱建物４棟以上、井戸２基、土壙、ピット。

弥生時代貯蔵穴は長方形、方形で、前期後半のものである。住居跡２ｍ×３ｍほどの小形で、長辺主軸上に２個の柱穴を配する。

中世建物は、４間×２間以上、２間×２間、２間×３間以上のものがある。中世後期の遺構が多いようである。

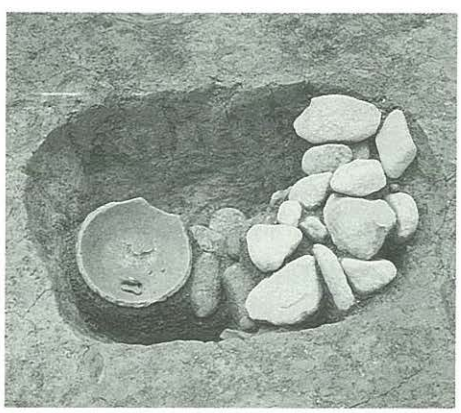
出土遺物　遺物は少なくコンテナ４箱である。特徴的な遺物としては、中世土壙より鉄刀が出土した。

まとめ　今回調査地である浄土宗宝樹院は、近世地誌において、すでに由緒が不詳となっている。寺伝では、近世前期に浄土宗になったといい、それ以前の開基である可能性が高いという。今回出土の建物が、前身となるものかどうか、今後の検討が必要である。また南側に位置する12次調査地点の中世後期～近世の屋敷跡との関係も検討課題である。



1．調査地点の位置（85－Ａ－２　１：8000）

2．調査区全景（東から）



3．78号土壙出土状況（近世）

9104　比恵（ひえ）遺跡群第37次（ＨＩＥ－37）

所 在 地　博多区博多駅前四丁目221　　**調査面積**　170㎡
調査原因　共同住宅建設　　**担 当 者**　菅波正人
調査期間　910422～910523　　**処　　置**　調査後破壊

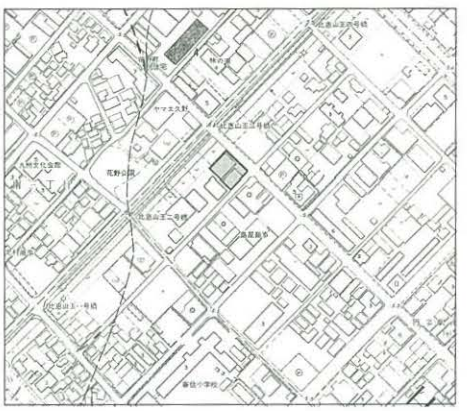
位置・環境　本調査地は、比恵台地の北端部にあたり、第30次調査地点に接する。調査地周辺では第24～26次調査が実施され、台地の先端に入り込んだ谷が検出されている。標高は約5.3～5.4m、地表下約６m、地表下0.4～0.6mで基盤の鳥栖ローム層となる。

検出遺構　・弥生時代前期：貯蔵穴５基

貯蔵穴は削平のため、深さ70～100cm程が残存するのみである。本来の深さは200cmを越えるものであったと考えられる。貯蔵穴からは多量の弥生土器、石器等が出土したが、これらはほとんど貯蔵穴が廃絶した後に、廃棄された物である。

出土遺物　遺物は貯蔵穴からコンテナ12箱が出土した。遺物には弥生時代前期の弥生土器（甕、　、鉢など）、石器（石包丁、石斧、磨製石鏃など）がある。このほか、ＳＵ－037からは多量の炭化米を検出した。

まとめ　今回の調査では第30次地点で検出した貯蔵穴の広がりを確認することができた。近接する第31次調査地点を含めて、南北60m、東西30mの地域に40基以上の貯蔵穴が集中することが分かった。貯蔵穴は更に今回の調査地点の北側と西側に分布すると考えられ、この地域には弥生時代前期から中期にかけて80基以上の貯蔵穴が営まれていたと推測できる。また、本調査地点の北側の第25次、26次調査地点では同時期の住居跡が検出されており、弥生時代前期の集落形成を考える意味で今回の調査は重要な成果と言えよう。



1．調査地点の位置

2．調査区全景（北から）

3．ＳＵ－039遺物出土状況（南から）

9105　相原（あいばる）古墳群Ｃ群第２次（ABK－C－２）

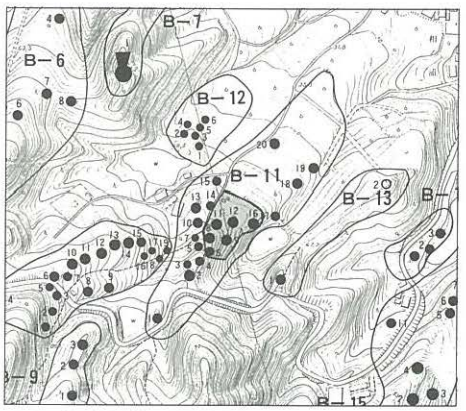
所 在 地　西区今宿字上の原相原870･871他　**調査面積**　940㎡（古墳５基）
調査原因　土取り、造成工事　**担 当 者**　田中寿夫
調査期間　910422～910902　**処　　置**　調査後破壊

位置・環境　相原古墳群は、高祖山の東側山麓に舌状に延びる低丘陵上に立地する。Ｃ群は22基の円墳で構成される群集墳である。今回の調査対象となったのは８号・９号・11号・12号・22号墳の５基である。

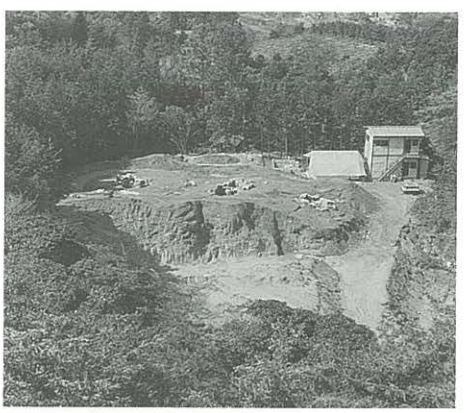
出土遺構　古墳はいずれも横穴式石室を主体部とする円墳で、古墳時代後期のものである。出土遺物からみて６～７世紀に造営されたものである。また、５基の墳丘およびその周辺の調査によって、焼土・木炭片を多く含む土壙を４基確認した。時期は奈良期以降と思われる。５基のうち最も築造時期が古いと考えられるのは、８号墳である。墳丘径は約11ｍ、現存の墳丘高は約1.5ｍ（推定約３ｍ）を測る。石室構造は堅穴系横口式石室の形態に近いもので、出土した須恵器からみて６世紀初めから前半ころの築造時期が考えられる。最も新しいものは22号墳で、６世紀末～７世紀にかかると考えられる。墳丘径は約７ｍ、墳丘高は２ｍほどの小規模である。その他の古墳はいずれも６世紀半ばから後半の頃のものである。墳丘径は12ｍ、墳丘高約３～４ｍを測り比較的規模が大きい。

出土遺物　石室内部からは遺物はわずかしか出土していない。８号墳石室からは鉄製刀子、鏃が、12号墳石室からはガラス製小玉が出土している。各古墳の周溝・墳丘中腹からは、墳丘祭祀に用いられたと思われる須恵器の大甕、高坏、坏、土師器などの破片が出土している。

まとめ　今回の調査では、相原古墳群Ｃ群の形成過程の一端を明らかにすることができたことが成果として上げられる。



1．調査地点の位置（113－Ｂ－11、１：8000）


2．相原古墳群Ｃ群遠景（南から）

3．石室遠景（東から）

9106　有田（ありた）遺跡群第166次（ART－166）

所 在 地　早良区小田部五丁目５－39外　　**調査面積**　409㎡
調査原因　専用住宅建設　　**担 当 者**　荒牧宏行
調査期間　910423～910528　　**処　　置**　調査後破壊

位置・環境　本調査地点は小田部中央台地部の北端付近に位置する。現況は畑地後宅地造成され平坦面を為す。隣接する北側の畑地は約50㎝の比高差で削平を受け落ちている。

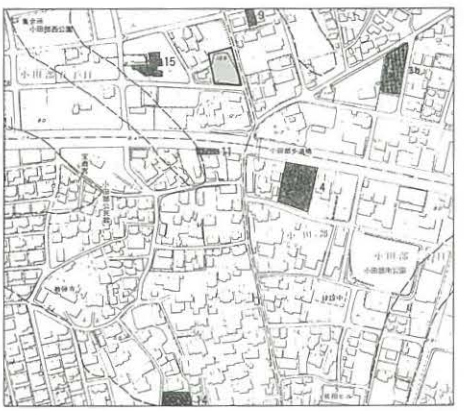
遺構は表土を剝いだ G.L－30㎝の黄褐色ローム面で検出された。このローム面は調査区内においては比高差がほとんど無く、遺構の分布状況から南側は大きく削平されているものと推測される。

検出遺構　古代～中世にかけての掘立柱建物７棟
（内、２×３間　５棟　１×１間　１棟　２×？間　１棟）
その他、調査区北側に柱穴多数

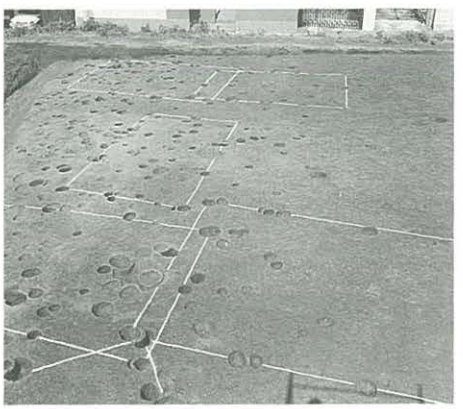
出土遺物　遺物は柱穴からの出土に限られ、須恵器、土師器の細片がコンテナ１箱分である。

まとめ　南側に下降していく緩斜面上に立地した古代から中世にかけての集落地と考えられる。

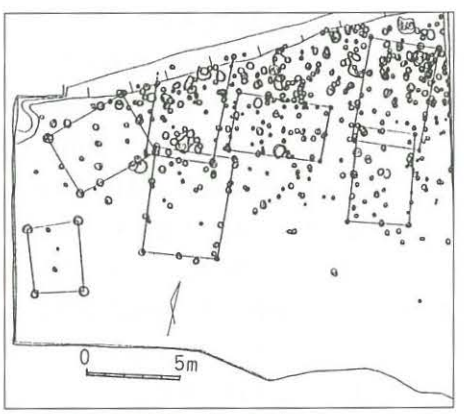
復元できた掘立柱建物は２×３間を中心としたもので、主軸を同じくすることから中世期代の時期に近い可能性が高い。隣接した第67次、第98次、第114 次調査で検出された掘立柱建物は主軸を異にしたものが多く、時期も古墳時代～古代が主体を占める。しかし、やや南側に離れた第４次調査検出の掘立柱建物群とは主軸方向、規模、構造等が類似しており、集落の広がりとともに、その構成、社会状況が注意される。



1．調査地点の位置（82－Ａ－１、１：8000）



2．調査区全景（東から）



3．調査区全体図（１／400）

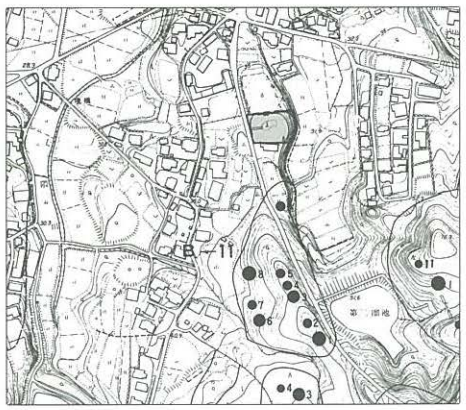
9107　駄ケ原（だがはる）古墳群Ａ群第１次（DGK－Ａ－１）

所 在 地　城南区大字梅林字平原495番12,523番１　**調査面積**　820㎡
調査原因　寺院建設　**担 当 者**　吉留秀敏
調査期間　910430～910703　**処　　置**　調査後破壊

位置・環境　タカバン塚古墳は油山の北麓、七隈川流域の丘陵上に築造された円墳である。標高は約40ｍを測る。

検出遺構　古墳は南北16ｍ、東西19ｍを測る二段築成と推定される円墳である。周囲に幅４～５ｍ、深さ約１ｍの周溝を検出した。主体部はおおよそ西側に開口する横穴式石室である。石室は近世以降の石材抜き取りにより、ほぼ全壊していた。抜き跡からの推定で全長約6.3ｍ、玄室長約2.6ｍ、幅約1.9ｍの単室構造と見られた。

出土遺物　石室内攪乱中から武器、武具、馬具、工具などの鉄器、耳環、各種玉類などの装身具、須恵器、土師器が出土した。また墓道、墳丘斜面、周溝内から須恵器、土師器、石製品、土製品が出土した。これらは６世紀中葉から７世紀前葉に位置付けられる。（コンテナ８箱）



１．調査地点の位置（75－Ｂ－11、１：8000）

２．調査区全景（西から）

３．石室検出状況（東から）

9108　飯倉（いいくら）F遺跡第3次（IKR－F－3）

所 在 地　城南区梅林三丁目地内　　**調査面積**　1,615㎡
調査原因　公園建設　　**担 当 者**　山崎龍雄
調査期間　910501～910705　　**処　　置**　調査後破壊

位置・環境　調査区は早良平野の東側にある油山山塊から北へ延びる低丘陵上の東斜面上に立地する。この丘陵上には縄文時代から古墳時代にいたるまで多くの遺跡が存在している。調査区の標高は10～20mを測り、現況は、当地で残り少ない山林である。

検出遺構　弥生時代後期包含層

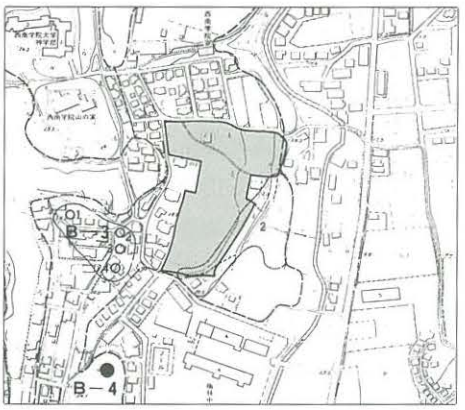
弥生時代後期～古墳時代前期	竪穴住居跡	21棟
〃	溝	1条
古墳時代	掘立柱建物	5棟
古代	土壙	1基

調査区の北側に浅い谷が入りこみ、その谷上に包含層が厚く堆積している。調査区全域には弥生・古墳期の竪穴住居跡が存在していたが、場所によって残りのよい所と悪い所があった。竪穴住居跡は長方形の平面形を呈し二本柱の構造で、床面にベッド状遺構が認められた。また掘立柱建物は2×2間の総柱建物である。

出土遺物　弥生時代中期から奈良時代までの遺物が総量でコンテナ26箱出土した。主に包含層・住居跡からの出土である。遺物としては弥生土器・土師器・須恵器が大半であるが、ほかに石器として石庖丁・石鏃など、鉄器として鉄鎌・鉄鏃、玉類として臼玉などがある。

まとめ　3次に及ぶ調査によって判明したことは以下のとおりである。

当地点で検出された遺構の時期は弥生時代中期末から奈良時代までであるが、時期的には弥生時代後期から古墳時代前期のものが主体となる。検出された遺構は、竪穴住居跡32棟・溝6条・甕棺墓1基・祭祀遺構・焼土壙などである。各時代における遺構の変遷については、最終的な整理作業の段階で検討していきたい。



1．調査地点の位置（74－A－3　1：8000）

2．北側調査区全景

3．中央部住居跡出土状況（東から）

9109　比恵（ひえ）遺跡群第38次（HIE－38）

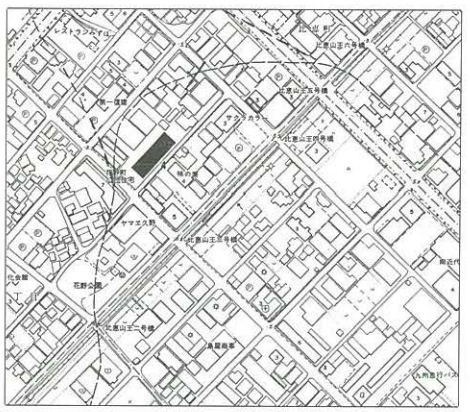
所 在 地　博多区博多駅前三丁目２－22　　**調査面積**　70㎡
調査原因　店舗建設　　**担 当 者**　菅波正人
調査期間　910515～910517　　**処　　置**　調査後破壊

位置・環境　本調査地は、比恵台地の北端に位置する。北側30ｍ先の第29次調査地点では台地の落ち際が検出されている。調査は、現地表下１ｍ余りの客土を重機で除去したのちに行った。客土の下は旧水田耕土、床土、基盤の鳥栖ローム層となる。標高は約4.5ｍを測る。

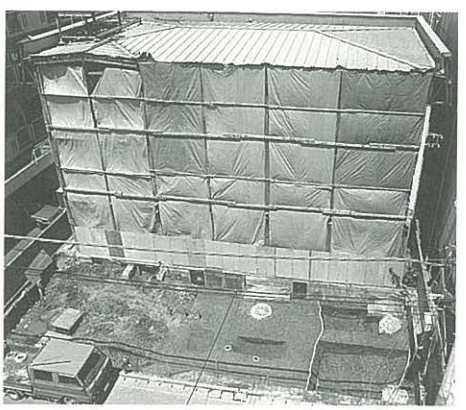
検出遺構　遺構は弥生時代の柱穴、近世～近代の溝１条を検出した。

遺物は溝から弥生土器、須恵器、近世以降の陶磁器を検出した。（コンテナ２箱）

まとめ　遺構面は昭和初期の区画整理の際に大きく削平されており、遺構の大半はその時に破壊されたと考えられる。溝 SD001は区画整理の際に埋められたもので、埋土の上部は暗褐色粘質土まじりの鳥栖ロームが堆積している。その中からは弥生土器、須恵器などが含まれており、区画整理以前には周辺に当該期の遺構が存在していたと考えられる。



1．調査地点の位置（37－Ａ－１　１：8000）



2．調査区全景（西から）

9110　飯倉（いいくら）C遺跡第3次（IKR－C－3）

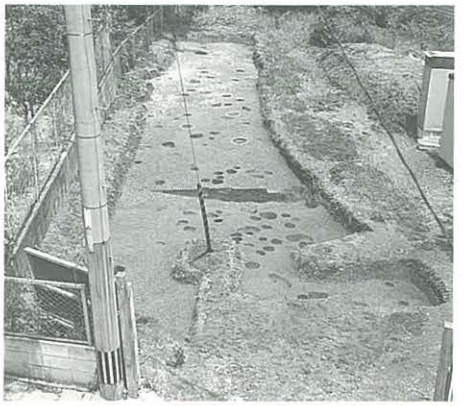
調 査 地　城南区七隈二丁目1180　　**調査面積**　141㎡
調査原因　分譲住宅　　**担 当 者**　山崎龍雄
調査期間　910513～910523　　**処　　置**　調査後破壊

立地・環境　調査地は、北に向かって細長く延びる飯倉丘陵の東側斜面に位置し、東側に谷を臨む。最高部の標高は19ｍを測り、調査前の現況は竹林であった。

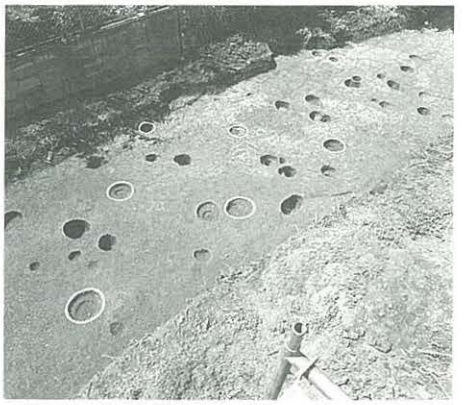
検出遺構
出土遺物　調査区は道路予定地に当たる幅５ｍ、長さ30ｍの範囲である。遺構面は表土下0.4～0.5ｍの赤褐色花崗岩バイラン土上にあり、調査区全面に遺構を検出した。検出した遺構は、掘立柱建物２棟、土壙１基、溝状遺構１条、ピット群などである。掘立柱建物は、調査区が狭いために全容は確認できないが、１棟は２×２間の総柱建物、もう１棟は２×３間以上の側柱建物になると考えられる。土壙は長さ0.7ｍ、幅0.6ｍ、深さ0.45ｍの略方形のもので、中から弥生時代中期後半の甕形土器の破片が出土している。溝は東側境界で検出した。幅0.7ｍ、深さ0.05ｍと浅く、東に向かって延びる。中から古墳時代後期の土師器・須恵器が出土した。

まとめ　遺構の時期は大きく２時期ある。Ⅰ期は弥生時代中期後半で、Ⅱ期は古墳時代後期から奈良時代の時期であり、大半の遺構がこの時期に属する。特にⅡ期の時期については、一昨年度に調査した本調査地南側の第１次調査区でも、同じ時代の建物群が発掘されており、この地区一帯に古墳時代の終わりから奈良時代にかけての大規模な集落が存在することが予想される。

1．調査地点の位置（073-A-3、1：8000）



2．調査区全景（南から）



3．建物検出状況（南東から）

9111　博多遺跡群第71次（ＮＡＫ－71）

所 在 地　博多区御供所町235－１
調査原因　ビル建設
調査期間　910515～911005
調査面積　600㎡
担 当 者　下村　智
処　　置　調査後破壊

位置・環境　調査区は、聖福寺西側に位置し、博多遺跡群のほぼ中央部にあたる。標高６ｍ。南側は第62次調査、西側は築港線道路拡幅によって発掘調査が行われ、古墳時代初頭から中世・近世にわたる膨大な遺構・遺物が検出されている。

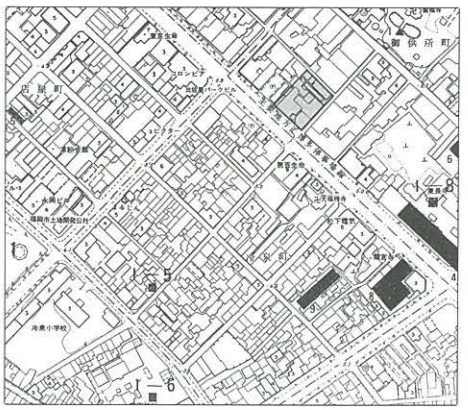
検出遺構
- 中世末～近世（第１面）：土壙74、井戸８、溝１、不明土壙１、ピット７
- 中世（第２面）：土壙123、井戸８、溝６、不明土壙４、ピット113
- 古墳時代～中世（第３面）：土壙118、井戸14、竪穴住居址１、溝３、ピット123

出土遺物　最も古い遺物は、弥生中期の甕が単独出土しているが、遺構に伴って出土するのは古墳時代初頭の布留式土器である。

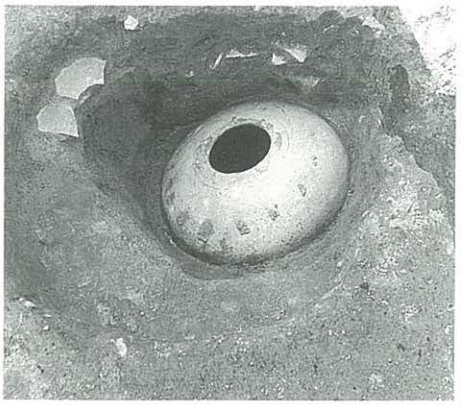
しかし、奈良時代までの遺物は少なく、最も豊富に出土したのは古代末から中世にかけてのものである。土師器、瓦器、輸入陶磁器類が多量に出土している。コンテナ272箱。

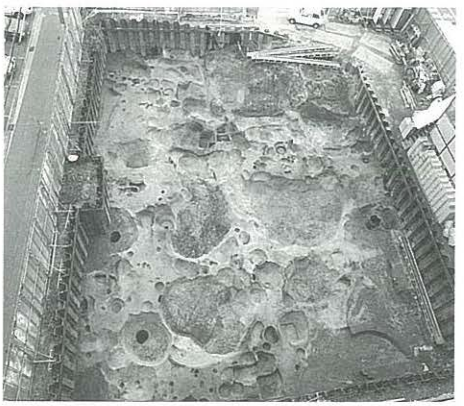
中世の土壙からは、無頸壺が出土したが、完形品の発見は博多遺跡群では初めてである。また、木棺墓には鎬蓮弁文の青磁碗が副葬されていた。

まとめ　遺構の中心は、中世の土壙、井戸、溝、ピット群などで、遺物の多くもこれらから出土している。調査地点は聖福寺の門前一帯にあたり、浅い区画溝などが出土していることから、町屋が分布していた地域と考えられる。



1．調査地点の位置（49－Ａ－１、１：8000）


2．博多71次調査区全景（第Ⅲ面）（北から）


3．博多71次遺物出土状況（ＳＫ250 土壙から）

9112　南八幡（みなみはちまん）遺跡第４次調査（ＭＨＭ－４）

所 在 地　博多区寿町２丁目86－１・２　　**調査面積**　247.25㎡
調査原因　共同住宅　　**担 当 者**　大庭康時
調査期間　910523～910615　　**処　　置**　調査後破壊

位置・環境　南八幡遺跡は、那珂川左岸に形成された中位段丘上に立地する。本調査地点は、東南から西北に向かってのびる丘陵の、南西側斜面の落ち際にあたる。昭和28年までは福岡県立筑紫高等女学校の運動場付近にあたり、大規模な削平を受けていた。

検出遺構　検出した遺構は、竪穴住居状遺構３基・柱穴多数である。

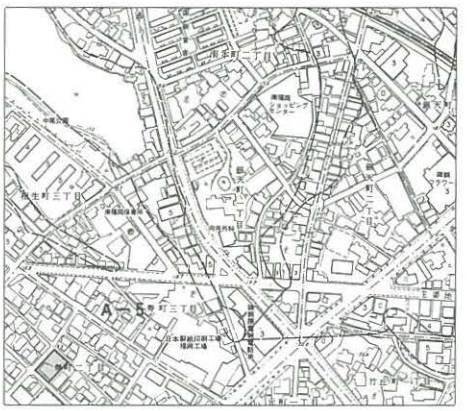
出土遺物　遺物は、土器の細片が数点出土したのみである。

竪穴住居状遺構は、竪穴住居跡の残存と考えられる極めて浅い落ち込みである。地山の削平のため、遺存状態は悪く、竪穴住居跡と断定するのには、難が残る。

柱穴からは、13棟の掘立柱建物が推定復元できた。柱穴は多く、なお多くの建物があったものと考えられる。13棟の掘立柱建物跡は、柱穴の埋土の相違・柱穴相互の切り合い関係・建物の方向性から４期、８～11回の変遷が想定できる。

これらの遺構については、遺物が少ないため、時期比定できない。南八幡遺跡のこれまでの調査を考慮し、竪穴住居状遺構については奈良時代、掘立柱建物跡は柱穴が小さいことから古代後半以降を考えたい。

まとめ　南八幡遺跡では、近代以後の地形改変が著しく、遺跡の残りは良くない。今回の調査では、遺構の時期を決めることができなかったが、かかる南八幡遺跡の解明に向けて、貴重な資料を提供したものと考える。



1．調査地点の位置（12－Ａ－５、１：8000）

2．調査区全景（西から）

9113　博多遺跡群第72次（HKT－72）

所 在 地　博多区上川端町264-2
調査原因　ビル建設
調査期間　910604～910725
調査面積　200㎡
担 当 者　佐藤一郎
処　　置　調査後破壊

位置・環境　調査地は博多遺跡群の中央部西側、息の浜と博多浜にはさまれた低地部分に位置する。遺構面は現地表下約２ｍの砂層で、標高は約1.5ｍ。

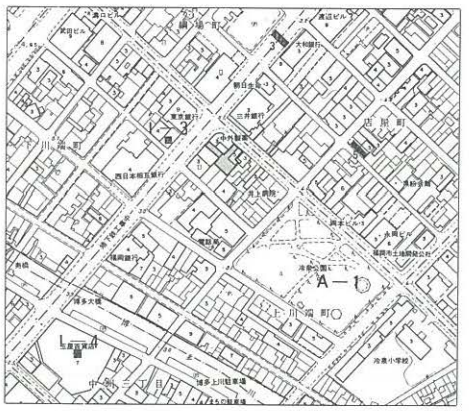
検出遺構　遺構の時期はいずれも15世紀後半から16世紀前半とみられる。

・溝２条、石組遺構２基、井戸１基、その他柱穴・土壙多数。

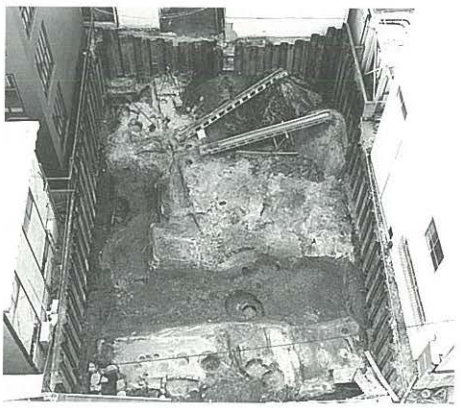
溝ＳＤ02は方位をＮ－40°－Ｅにとる現在の地割りと平行し、幅約５ｍ、深さ約1.5ｍを測る。調査区の南端で検出した溝ＳＤ17はＳＤ02と平行で、北側の肩を確認した。井戸ＳＥ19はＳＤ02埋没後に掘削され、桶様の井戸枠、円形の掘方をもつ。土壙ＳＫ01はその東側を板で土留めしている。性格は不明。

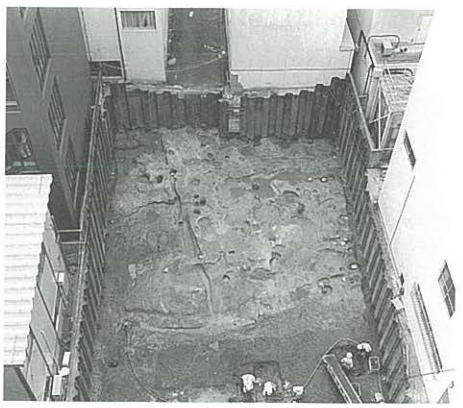
出土遺物　遺物は各遺構とりわけＳＤ02・ＳＥ19から多量に出土した。土師器、陶磁器では青磁・白磁・青花の他、三彩、木製品では下駄、櫛、箸、漆器椀片の他、石製地蔵菩薩（頭部）、銅製観世音菩薩、鉄滓、坩堝、鋳型片（鋤先、鍋）といった鋳造関係の遺物が出土している。

まとめ　今回の調査地は博多遺跡群の中では低地の辺境に当たるが、仏教・鋳造関係の特異な性格をもった遺物が出土し、今後の周辺域の調査によって中世における博多鋳物師の消長が判明していくことであろう。



1．調査区の位置（49－Ａ－１、１：8000）


2．調査区全景（南から）


3．調査区全景（最終面・南から）

9114　雀居（ささい）遺跡１次調査（SAS－１）

所 在 地　博多区福岡空港内　　**調査面積**　4,700㎡
調査原因　空港西側地区整備　　**担 当 者**　常松幹雄
調査期間　910605～910731　　**処　　置**　調査後埋め戻し

位置・環境　調査地は、御笠川の東、月隈丘陵の西側の標高５ｍ前後の沖積地にあたる。福岡空港地内の西側にあたり、米軍基地・自衛隊関連施設などに利用されているため、埋蔵文化財のデータは空白となっていた。扇状地形であることから、旧河川の氾濫原が予想された。

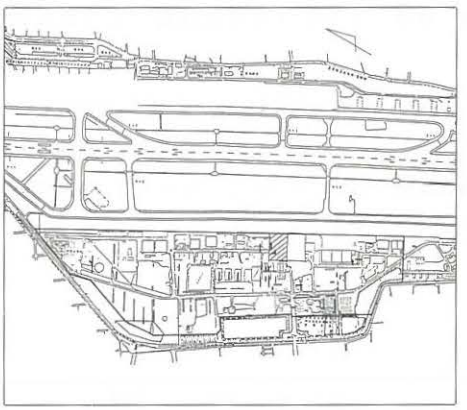
検出遺構
出土遺物　調査は運輸省第４港湾建設局との協議に基づき、整備予定の31ha中に39ヶ所の試掘溝を設定、整備の工期を考慮して行った。調査は、バックフォーによる掘削を主体とし、表土下の土を徐々に掘り下げながら、土層を確認した。遺構が検出された試掘溝については、遺跡の広がりを確認するための発掘作業員によって地区を拡張した。試掘トレンチは、障害物等によって重機が立入れない３地点を除き、36箇所を設定した。

17トレンチでは、11世紀後半の白磁碗がほぼ完形で出土。周囲にトレンチを掘削したが、地表下１ｍで粗砂層となるため氾濫原の混入と判断した。

26トレンチでは、越州窯系の青磁や瓦器椀が出土した。拡幅調査の結果、井戸跡２基や土壙を検出した。またトレンチの西側にかけては水田跡と考えられる足跡が多数確認された。

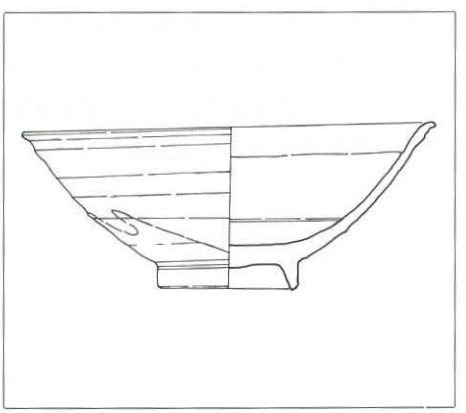
36・37レンチでは、弥生中期前半の日常土器がコンテナ３箱程まとまって出土した。しかし地表下２ｍ以下であったため、拡幅は断念せざるをえなかった。

まとめ　17トレンチ付近は、エプロン（駐機場）の工事が計画されていたため、協議の結果、本調査となった（91　）。空港西側地区は、平成８年のユニバーシアード大会の開催を見据えて整備が急がれる。埋蔵文化財の面では未知の部分も多く、開発部局との調整・協議が必要である。



１．調査地点の位置（23－Ａ－４　１：8000）

２．Ｔ26井戸跡出土状況



３．Ｔ－16出土白磁碗実測図

9115　那珂（なか）遺跡群第32次（NAK－32）

所 在 地　博多区那珂一丁目792他　　**調査面積**　1,300㎡
調査原因　市道建設　　**担 当 者**　菅波正人
調査期間　910708～910930　　**処　　置**　調査後破壊

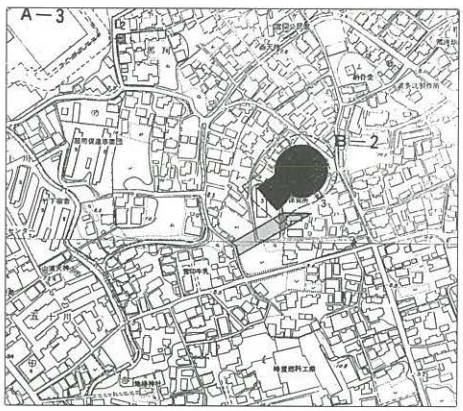
位置・環境　本調査地は、那珂遺跡群の西側にあたり、竹下駅前線道路工事に伴う第３次の調査となる。調査地周辺には北側に那珂八幡古墳が位置する。地表下約0.1～0.3ｍで基盤の鳥栖ローム層に達し、遺構面の標高は約８ｍを測る。

検出遺構
- 弥生時代後期：竪穴住居跡２軒、井戸６基
- 古墳時代後期：竪穴住居跡３軒
- 奈良時代　　：溝２条、土壙
- 平安時代　　：溝２条
- 鎌倉～戦国時代：堀２条

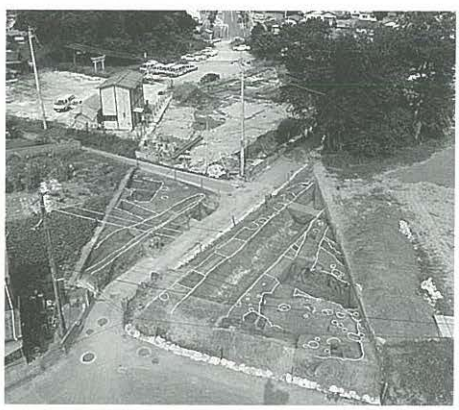
この他、多数の柱穴を検出した。

出土遺物　遺物は竪穴住居跡、井戸などからコンテナ62箱が出土した。弥生時代の遺物では井戸から多量の弥生土器、木製容器などが出土した。古墳時代の遺物では竪穴住居跡3014からは７世紀中葉の須恵器、土師器と共伴して、単弁七葉の軒丸瓦、丸瓦などが出土した。また、奈良時代の溝2002から百済系単弁瓦が出土している。

まとめ　今回の調査では弥生時代～戦国時代にかけての多量の遺構、遺物を検出した。遺跡の推移を概略すると以下のようになる。
- 弥生時代：中期～終末にかけて集落が営まれる。その後、那珂八幡古墳が造営される。
- 古墳時代：那珂八幡古墳の領域と言う意識があり、６世紀後半まで空白期がある。
- 奈良時代：南北溝2002など官衙との関連が伺える。
- 鎌倉～戦国：幅３ｍを越える堀が掘られる。居館等の存在が考えられる。



1．調査地点の位置（37－Ａ－３、１：8000）


2．調査区全景（西から）

3．ＳＣ3014遺物出土状況（西から）

9116　麦野（むぎの）A遺跡第4次（MGA－4）

所 在 地　博多区麦野4丁目14－23　　**調査面積**　247.4㎡
調査原因　共同住宅　　**担 当 者**　大庭康時
調査期間　910710～910812　　**処　　置**　調査後破壊

位置・環境　麦野A遺跡は、那珂川左岸に形成された中位段丘上に立地する。本調査地点は、台地が南に向かって落ちていく肩部に当り、調査区の南側は、傾斜を強めて下降する。

表土下には、若干の遺物包含層があったが、遺構は、地山である鳥栖ローム層上面で検出した。

検出遺構　遺構は、竪穴住居跡14棟、掘立柱建物跡4棟以上、土壙7基、柱穴多数を検出した。

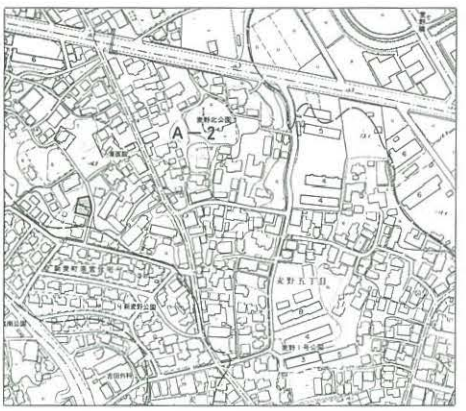
竪穴住居跡は7世紀末から9世紀初めにかけてのものである。遺存状況は良好で、方形の平面の一辺に竈が付設されていた。分布状況から6グループに分けられ、それぞれで切り合い関係がみられる。

掘立柱建物は、4棟を復元したが、残りの柱穴から見て、掘立柱建物があったものと考えられる。柱穴からの遺物の出土はないが、中世のものと推測される。

土壙には、8世紀のものと、中世のものとがある。中世の土壙には、12世紀後半の中国同安窯系青磁皿を副葬した土壙墓と、12世紀後半から13世紀初めに当てられる地下室状の土壙があり、掘立柱建物とともに、集落を形成していたものと考えられる。

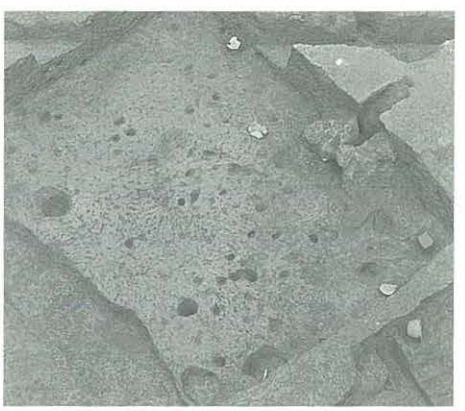
出土遺物　遺物は、土師器、須恵器、輸入陶磁器などコンテナ8箱分が出土した。

まとめ　以上の点から本調査地点には、奈良時代と中世前半の集落が営まれていた。調査地点の立地から見て、集落の中心は、本調査地点の北側にあったものと見られる。



1．調査地点の位置（12－A－12　1：8000）

2．調査区全景（北から）


3．竪穴住居跡出土状況（南から）

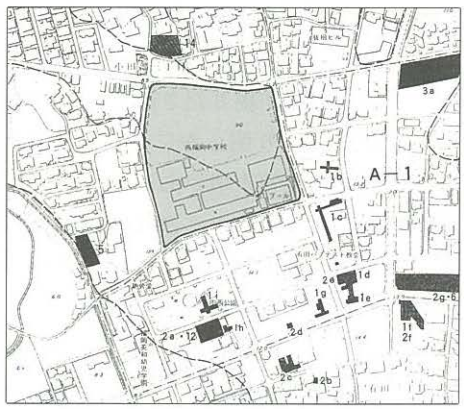
9117　有田（ありた）遺跡群第167次（ART－167）

所 在 地　早良区小田部３丁目32－１　　**調査面積**　510㎡
調査原因　体育館建設　　**担 当 者**　松村道博
調査期間　平成３年７月10～26日　　**処　　置**　調査後破壊

位置・環境　調査地は、有田・小田部台地の中央部から少し北西に寄った位置にあたる西福岡中学校の南東部になる。調査地点の北側（グラウンド部分）は有田台地と小田部台地を分ける谷が入り込み、今回の調査地点はその落ち際にあたり、南側から北側になだらかな傾斜を示す。標高9.5m、現況はプール、講堂等の学校施設。

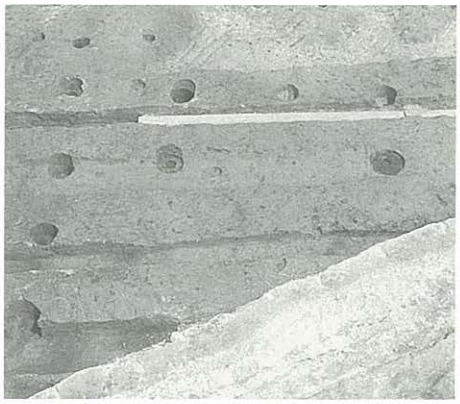
検出遺構　調査の南側は鳥栖ローム層まで削平され、遺構の遺存はない。試掘調査により、遺構が残っていた台地際に限り調査を実施した。調査地点も建物の基礎などで攪乱が著しく遺構の残りは悪い。検出した遺構は古墳時代中期の土壙１基、古代の溝４条、土壙１基、掘立柱建物１棟である。

出土遺物　古墳時代中期の土師器、須恵器が土壙から少量出土している。他には溝から土師器の小破片が数点出土しているだけである。総量でコンテナ１箱にも満たない。



1．調査地点の位置（82－Ａ－１　１：8000）

2．調査区全景



3．掘立柱建物出土状況

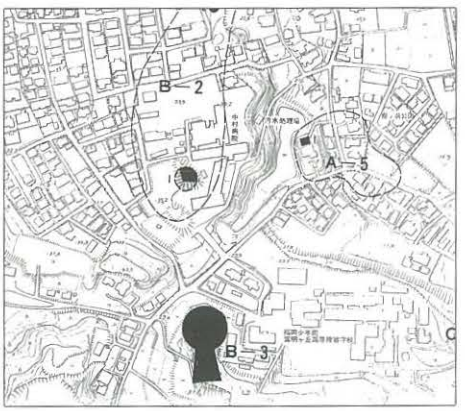
9118　卯内尺（うなじやく）古墳（UNK－1）

所 在 地　南区老司三丁目39－1
調査原因　土取り
調査期間　910724～911011
調査面積　250㎡
担 当 者　山口譲治・吉留秀敏
処　　置　調査後破壊

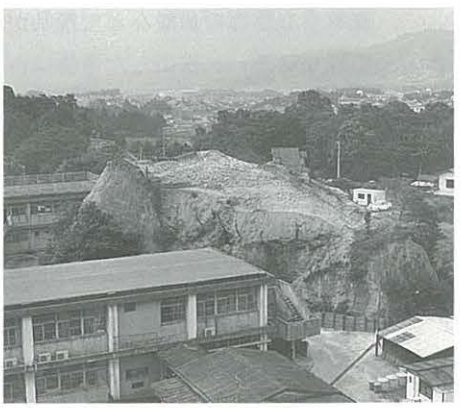
位置・環境　那珂川西岸の丘陵頂部に立地する。標高約46mである。本古墳からは1887年に三角縁三神三獣鏡が掘りだされていることが、森貞治郎氏により明らかにされた。また、約200m南東に老司古墳がある。

検出遺構　前方後円墳のくびれ部付近を検出した。墳丘は既に大きく破壊され、前方部の一部と後円部の一部を確認したのみである。墳丘は三段築成であり、墳丘斜面には葺石、各平坦面には敷石が施されている。段築面には円筒埴輪の並立も認められた。古墳の規模は不明であるが、老司古墳に匹敵する規模であったと推定された。

出土遺物　段築面や墳丘斜面から多量の円筒形埴輪が出土した。また、墳丘築造以前の旧地表下から弥生時代前期末から中期初の土器片、石器が少量出土した。（コンテナ20箱）



1．調査地点の位置（40－B－2、1：8000）


2．古墳遠景（北から）※左後方は老司古墳

3．古墳くびれ部葺石（東から）

9119　飯倉（いいくら）G遺跡第3次（IKR－G－3）

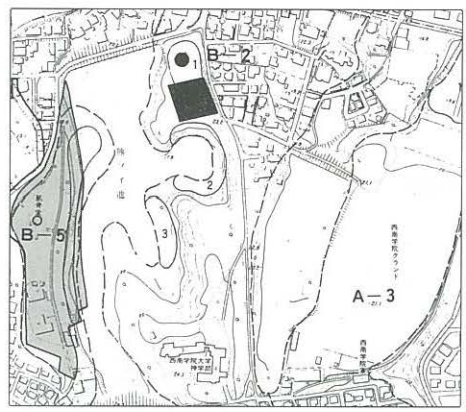
所 在 地　城南区干隈2丁目地内
調査原因　公園建設
調査期間　910802～910920
調査面積　450㎡
担 当 者　吉留秀敏
処　　置　調査後破壊

位置・環境　早良平野東側の飯倉丘陵上にあり、江戸時代に築造された農業用水池「熊添池」の西側斜面に位置している。標高は15～22mである。調査前は山林であり、公園に利用するために、樹木は伐採せず保存し、そのために隙間を縫う調査となった。

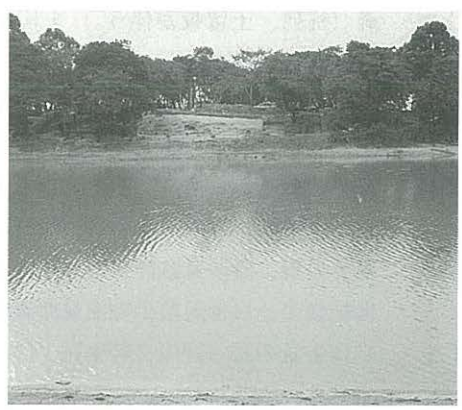
検出遺構　丘陵斜面を階段状に造成し、テラスを設けている。テラス上に柱穴、土壙、墓壙、焼土壙が検出された。また、テラス上には厚さ10～40cmの遺物包含層が形成されていた。

墓壙には頭位に土師器皿4枚を供献した例がある。また、土師器皿、甕を蔵骨器に使用した火葬墓も検出した。

出土遺物　主にテラス上の包含層から須恵器、土師器が多く出土した。また、鉄滓も出土している。出土遺物から7世紀から9世紀に位置付けられる。（コンテナ4箱）



1．調査地点の位置（74－A－4、1：8000）


2．遺跡遠景（東から）

3．干隈遺跡全景（北から）

9120　博多（はかた）遺跡群第73次（HKT－73）

所 在 地　博多区御供所町15　　**調査面積**　76㎡
調査原因　事務所建設　　**担 当 者**　佐藤一郎
調査期間　910806～910916　　**処　　置**　調査後破壊

位置・環境　調査地は博多浜跡群の中央部西側、日本最古の禅宗寺院聖福寺の南側に位置する。地山の砂層の標高は約2.1ｍ。約2.4ｍの包含層が堆積。

検出遺構　Ⅰ層上面－13世紀後半～14世紀前半。Ｎ－35°－Ｗに方位を矩形の石列、土壙を検出。

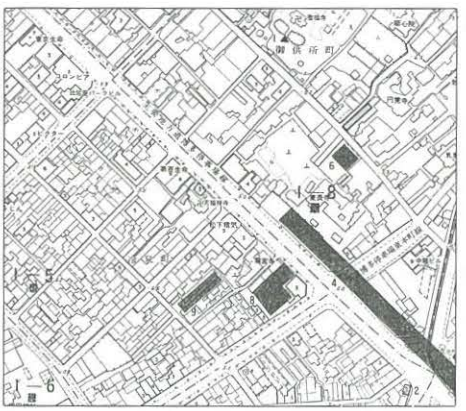
Ⅱ層上面－上層と時期差はみられない。上面検出のものと同じ方位をとる矩形の石列・柱列、土壙、埋甕を検出。

Ⅲ層上面－12世紀後半～13世紀前半。ピット状遺構、土壙（覆土には焼土を多量に含む。）、溝（杭列、土留板が伴う。）を検出。Ⅲ層からは多量の瓦が出土。

Ⅳ層上面－11世紀後半～12世紀前半。上面検出のものと同じ方位をとる溝を検出。

出土遺物　遺物は各層から多量に出土した。Ⅰ・Ⅱ層からは土師器、瀬戸・常滑産の陶器、口禿の白磁等の他、博多遺跡群では出土量が少ない13世紀後半～14世紀前半の龍泉窯青磁、Ⅲ層からは多量の瓦（押圧文軒平瓦、鴟尾片）が出土している。

まとめ　限られた面積の調査であったが、聖福寺古図（1558年以前の作）、検出遺構、出土遺物からみて聖福寺関連の遺構の一部と考えられる。今後の周辺域の調査によって聖福寺の寺域が明らかになっていくだろう。



1．調査地点の位置（49－Ａ－１、１：8000）

2．調査区全景（西から）

9121　野多目（のため）C遺跡群第4次（NMC－4）

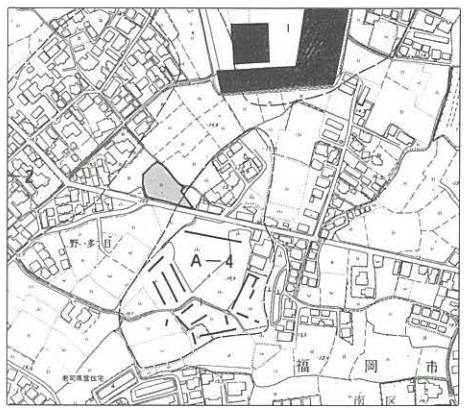
所在地　南区野多目2丁目275－1　　**調査面積**　150.77㎡
調査原因　宅地造成　　**担当者**　大庭康時
調査期間　910819～910904　　**処　置**　調査後破壊

位置・環境　本調査区は、野多目C遺跡群の北に位置する。野多目C遺跡群の中心は、本調査区の南にある中位段丘上にあり、本調査区は台地縁辺部の低地に当る。

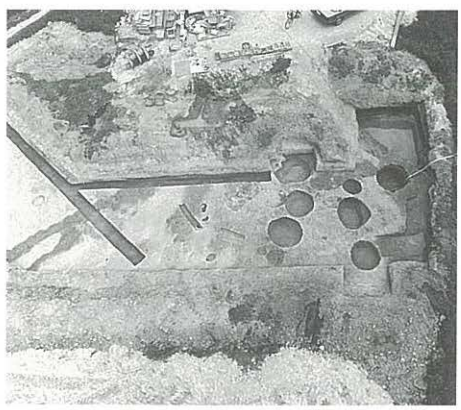
検出遺構　本調査区からは、縄文時代中期から後期の河川1条、後期の貯蔵穴7基、古代土壙1基などが検出された。

出土遺物　縄文時代後期の貯蔵穴からは、縄文土器・石器のほかドングリの実も少量だが採集できた。土器は、縄文時代後期初めのもので、阿高系土器とともに瀬戸内地方の中津式・福田K2式土器が出土した。河川跡は一部を検出したにとどまるが、大きく上・中・下の3層に分れる。下層の土器は、阿高1式を主体として、わずかに阿高2式が混じる。阿高1式土器は、福岡平野では、初めての出土である。薄い中層をはさんだ上層の土器は、阿高式系の坂の下式と磨消縄文系の中津式・福田K2式が出土し、貯蔵穴群と同時期に後期初めと考えられる。石器は、石鏃・石斧・石匙などのほか、多数の剝片が出土した。古代の遺物としては、平瓦、土師器、須恵器が出土している。

まとめ　本調査地点での縄文時代の遺構分布は、南半分に限られる。貯蔵穴群は、第1次・第2次調査地点にかけて、東にふくらんだ弧を描いて分布しているが、未だ住居跡は確認されていない。この点から、集落の中心は、本調査地点の西側、現在の集落の下に埋もれているものと推測できる。



1．調査地点の位置（40－A－4　1：8000）


2．埋蔵穴群・旧河川全景（西から）

3．中津式土器（縄文時代後期）

9122　那珂遺跡群第33次（NAK－33）

所 在 地　博多区那珂二丁目249-1　　**調査面積**　275㎡
調査原因　共同住宅建設　　**担 当 者**　荒牧宏行
調査期間　910902～911014　　**処　　置**　調査後消滅

位置・環境　本調査地点は那珂遺跡群の南西部に位置する。現在は宅地で、平坦面を為す。調査地点の北方には、第20次、第23次調査で確認された中期末の環濠が略東西方向に走行する。

遺構は表土、褐色包含層下の鳥栖ローム面で検出された。（G．L－30cm）

検出遺構　弥生時代後期：竪穴住居跡　2軒　井戸　1基
古墳時代後期：竪穴住居跡　3軒
奈 良 時 代：倉庫2棟　井戸1基

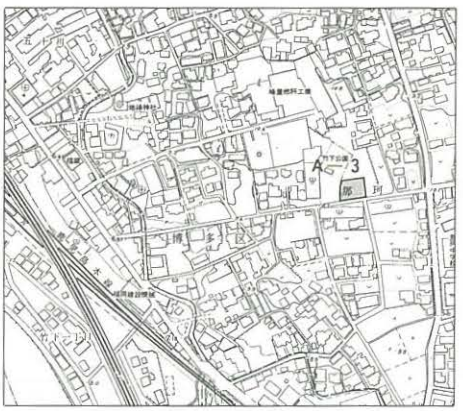
弥生時代後期の竪穴住居跡はベット状の施設を有し、土壙中に石積みを施した入口施設と堆されるものがある。

奈良時代の倉庫は2×2間の総柱建物である。

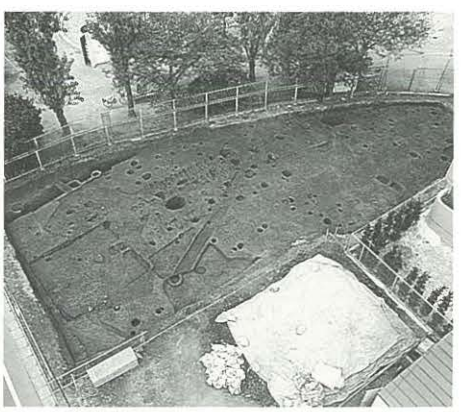
出土遺物　弥生後期及び奈良時代の井戸から祭祀に用いた壺、甕等の完成器の一括資料が出土。古墳時代後期の竪穴住居跡カマドから支脚、甕、甑片が出土し全体の総量はコンテナ20箱。

まとめ　上述の弥生中期末の環濠より南外側に本調査地は位置し、後期になり集落が拡大したことが予想される。古墳時代後期の集落は南側の第9次調査地点でも確認されている事から一帯に集落が拡大し存在するものと考えられる。

奈良時代においては、隣接の第26次調査で検出された大溝や百済系軒丸瓦の寺院跡？との関連が留意される。



1．調査地点の位置（38－A－8　1：8000）



2．調査区全景

3．井戸内遺物出土状況

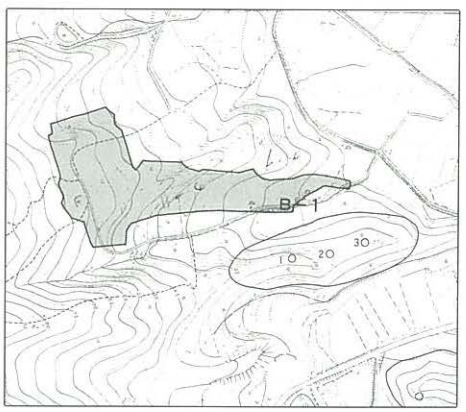
9123　大原（おおばる）D第1次（OBD－1）

所 在 地　西区字小津
調査原因　新西部埋立場建設
調査期間　911001～910331
調査面積　7500㎡
担 当 者　松村道博
処　　置　調査後破壊

位置・環境　調査地は糸島半島の北端、博多湾に面している。全面には大原海岸が広がり、対岸には志賀島を望む。背後には柑子岳を中心とする低位の山塊が展開し、花崗岩で構成され浜砂鉄を生み出している。また柑子岳は中世の山城として知られる。調査地点は柑子岳の麓の傾斜面にあたり標高30～50ｍ、現況は山林。

検出遺構　調査地点は柑子岳城に関連する遺構が検出されるとの予想であったが、調査で確認できたのは古墳時代後期の円墳１基、10Ｃ前後の製鉄遺構、掘建柱建物３棟、時期不詳の焼土壙３基である。製鉄遺構は精錬炉であるが炉本体の検出ではなくほとんどが流出した鉄滓でその中に多くの炉壁等の遺物が認められる。また炉を構築するために斜面をＬ字状に造成している。

出土遺物　古墳から古墳時代後期の土師器、須恵器、鉄鏃、鉄斧が、製鉄遺構から少量の須恵器、土師器と膨大な量の鉄滓が出土している。土器類はコンテナ２箱、鉄滓、炉壁等がコンテナ150箱出土している。



1．調査地点の位置（128－Ａ－４）

2．製鉄遺構出土状況

3．掘立柱建物出土状況

9124　吉塚本町遺跡第２次（ＹＳＨ－２）

所 在 地　博多区吉塚本町地内　　**調査面積**　1,900㎡
調査原因　道路建設　　**担 当 者**　常松幹雄
調査期間　910905～911130　　**処　　置**　調査後破壊

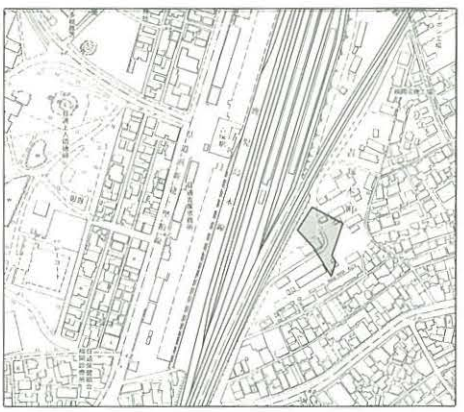
位置・環境　吉塚本町遺跡群は御笠川の東岸、鹿児島本線吉塚駅付近にあたる。今回の調査区は、前年度に実施した第１次調査区の北側に位置している。調査地は、区画整理事業計画に伴い、駅前広場と道路建設が予定され、土木局街路課の申し出により試掘調査を行なった。その結果、古墳時代後期の須恵器を検出したことから、１次調査区の延長上に営まれた集落の存在が予想された。標高焼く4.0ｍで地表下60～100㎝で遺構面の砂丘を検出した。

検出遺構　古墳時代前期：土壙

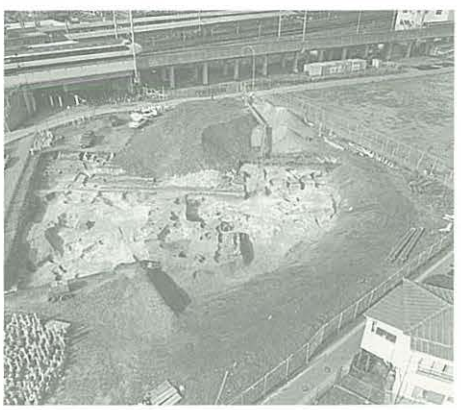
近現代　旧国鉄（現在のＪＲ九州）の操車場の基礎が明らかになった。調査地内は現況地形と同様、東側に向って緩く傾斜しており、１次調査で確認された律令時代の集落跡は確認できなかった。

出土遺物　遺物は、近現代の整地層などからコンテナ30箱が出土した。遺物は、縄文時代晩期の深鉢、弥生時代中期～後期にかけての壺・甕形土器、古墳時代から奈良時代にかけての須恵器・土師器などがあるが何れも小片である。また中近世の陶磁片や近現代に至る土人形や茶碗をはじめとする雑器類が多くを占める。

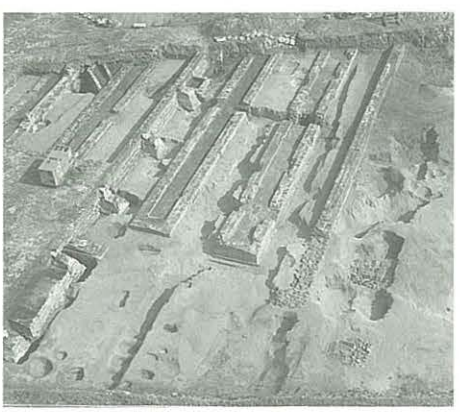
まとめ　今回の調査区は、砂丘遺跡が立地する風成砂層は南西隅に認められるのみで、主に海成層の発達が見られる。地形的にも東側へ傾斜しており、集落を営むのに安心感を得るほどの標高ではなく、砂丘の後背部と考えられる。このような立地のため、律令期の遺構は、１・２次調査区の間で実施された３次調査（県教委の調査）区内で絶えてしまうようである。



1．調査地点の位置（35－Ａ－５、１：8000）



2．調査区全景（東から）



3．旧吉塚駅操車場跡

9125　箱崎（はこざき）遺跡群第５次（HKZ－５）

所 在 地　東区箱崎１丁目25・27
調査原因　共同住宅建設
調査期間　910909～911030
調査面積　210㎡
担 当 者　田中寿夫
処　　置　調査後破壊

位置・環境　第５次調査地点は、箱崎遺跡群のほぼ中央に位置しており、筥崎宮から北へ約130ｍほど離れている。当該地点は博多湾岸にそって形成された古砂丘の尾根筋の頂部にあたり、標高４～５ｍを測る。

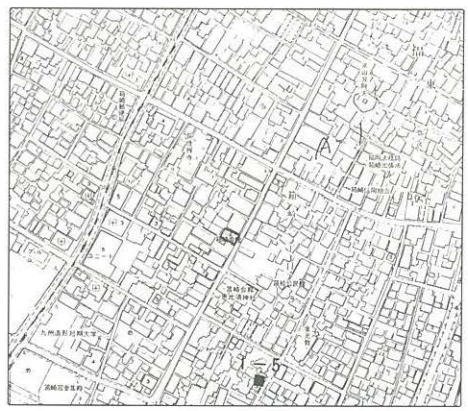
検出遺構
出土遺物　調査区内は、近世～近代以降の攪乱が顕著なため、遺構の残りはあまり良くなかった。

検出された遺構は、柵列１条、掘立柱建物１棟、井戸12基（瓦組・桶組・曲物）、溝３条、土壙墓もしくは木棺墓４基、廃棄用の竪穴42基、柱穴多数である。これらの遺構に伴って土師器、瓦器、瓦質土器、輸入陶磁器等が比較的多く出土している。

まとめ　これらの遺構の時期は鎌倉～江戸時代にかかるもので、とくに室町時代が主となる。

室町時代の建物は、２×３間の規模で庇が南側に付いている。柵列や井戸等の遺構の位置関係からみて屋敷地の一角に相当する地点であろうと考えられる。また建物の長軸（棟筋）の方向性は砂丘の尾根筋に対して直交しており、さらに現在の箱崎宮の基軸線とほぼ平行している点は注意される。

第１次調査地点である馬出付近から南北に延びる古砂丘上に細長く集落が点在していたことは予想されるが、今回の調査によってより具体的に、筥崎宮と周辺の集落、屋敷地の景観復元が可能になったことは、大きな成果であると思われる。



1．調査地点の位置（34－Ａ－１、１：8000）

2．調査区全景（南から）

3．井戸址出土状況（東から）

9126　博多（はかた）遺跡群第74次（HKT－74）

所 在 地　博多区上呉服町131－2　　**調査面積**　140㎡
調査原因　ビル建設　　**担 当 者**　大庭康時
調査期間　910917～911031　　**処　　置**　調査後破壊

位置・環境　本調査区は、博多遺跡群の基盤となる2列の砂丘のうち、内陸側砂丘に位置する。聖福寺所蔵の古文書「安山借家帳」からみて、中世後半には聖福寺の寺内町であったと見られる。

現地表下1.5mまでを重機で剝ぎ取ったのち調査にはいり、1面～4面までの調査を行った。

検出遺構　本調査区からは、奈良時代の竪穴住居跡・溝・古代末から中世の建物跡・井戸・土壙・道路跡などを検出した。

出土遺物　遺物は、土師器・輸入陶磁器などがコンテナ80箱、銅銭・刀子などの鉄製品がコンテナ箱分出土した。

道路は、14世紀初め頃から16世紀末まで嵩上げを繰り返しながら、ほぼ同じ位置に営まれていた。16世紀には、聖福寺の寺内町の中を通る道路であったと考えられる。道路沿いには、14世紀から16世紀まで、顕著な建物はみられず、遺構密度は希薄と言える。道路面は凹凸が激しく、道路に先行する土壙などの凹みをならさないままに作られたことが判明した。

まとめ　本調査区は、狭い面積に対して細長く、道路の存在こそ確認したものの、道路幅、道路沿いの状況など、不明な点を多く残している。また、道路は、現行の道路とは全く位置が異なり、現行道路を基にした「安山借家帳」からの聖福寺の寺内町の復元案に再考を迫るものである。

1．調査地点の位置（49－A－1　1：8000）

2．第4面全景（南から）

3．道路土層断面（北から）

9127　熊本（くまもと）遺跡群第１次（KMM－１）

所 在 地　早良区大字重留地内　　**調査面積**　25㎡
調査原因　歩道建設　　**担 当 者**　山崎龍雄
調査期間　910917～911002　　**処　　置**　調査後破壊

位置・環境　早良平野の内陸部東側、油山の山裾の扇状地上に立地し、標高約30ｍを測る地点にある。周辺では圃場整備に伴う調査などで縄文時代晩期から中世にかけての遺構・遺物が検出されている。

検出遺構　調査面積が狭い為検出遺構は少ない。

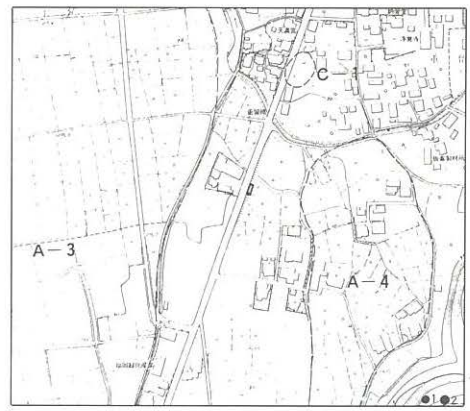
弥生時代前期末	土壙	１基
古墳時代前期	壺棺墓	１基
中世	土壙	１基

壺棺墓は２個の大型壺を合わせたものであるが、１基の棺の中にもう１基分の壺棺があった。

出土遺物　弥生時代から近世の遺物まで含めて、総量でコンテナ　箱出土した。面積の割りには遺物の出土量は多かった。

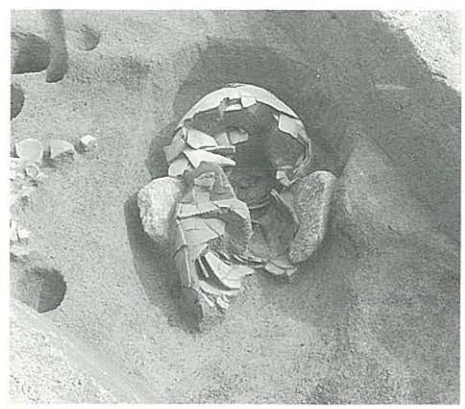
種類としては、弥生土器・土師器・須恵器・瓦器・石器などがある。

まとめ　調査区は熊本遺跡と重留遺跡群の間の空間地域であったが、予想外に遺構が検出された。遺跡の立地状況から熊本遺跡の範囲にいれておく。検出された壺棺墓は藤崎遺跡などでも検出されているが、方形周溝墓に伴っていたものであり、当遺跡でも周辺に墳墓域が存在した可能性が強い。



1．調査地点の位置（85－Ａ－４　１：8000）

2．調査区全景（北から）


3．甕棺墓出土状況（南から）

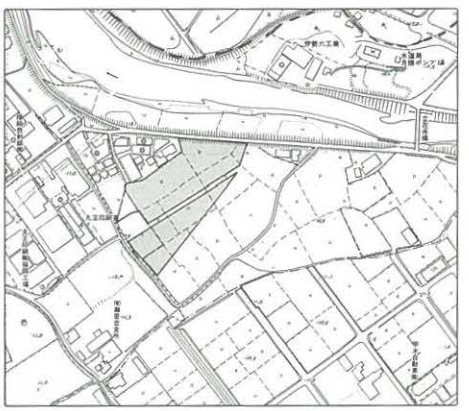
9128　井相田（いそうだ）D遺跡第1次（ISD－1）

所 在 地　博多区井相田地内　　**調査担当**　5,000㎡
調査原因　外環状線建設　　**担 当 者**　佐藤一郎
調査期間　910926～911011　　**処　　置**　調査後破壊

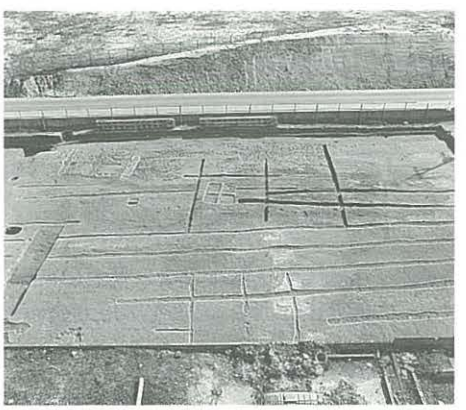
位置・環境　遺跡は御笠川中流域左岸の沖積地に位置する。標高は11ｍ前後を測る。

検出遺構　調査区南側では広範囲に川砂採取による攪乱を受け、調査では２面の水田面を検出した。上面検出の水田は条里に沿った方格地割りをもつ一筆10㎡前後の小区画の畦畔からなる。下面検出の水田も同様の方格地割りをもつが、上面検出のものより、区画は大きく、畦畔は直線的ではない。調査区南西部で水路を検出した。水路の北側は一段高く土手状をなす。上・下層の水田ともさして時期差はなく、13世紀後半～14世紀前半とみられる。調査区南東部では、両脇に側溝をもつ坪境の南北方向の大畦畔を検出した。調査区北東部では、10世紀後半～11世紀前半の溝３条、土壙２基、土壙墓１基、掘立柱建物１棟を検出した。それより西では畝溝と考えられる2.0～2.4ｍの間隔をとる幅50㎝、深さ10㎝前後の溝８条、溝の間では水田面と同様に足跡（そのほとんどは牛の蹄）が検出された。北西端部を除いて畦畔は確認されず、畑の跡と考えている。

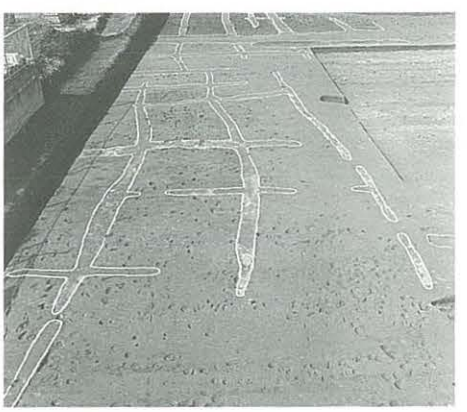
出土遺物　遺物は主として耕作土掘り下げの際に、土師器、青磁、白磁片が出土した。コンテナ５箱。他に烏帽子の縁、天禧通寶が出土した。土壙墓には、黒色土器Ａ椀１点が副葬され、建物付近のピット状遺構から越州窯系青磁合子片が出土した。



1．調査地点の位置（12－Ａ－９、１：8000）



2．遺構全景（南から）



3．水田跡近影（西から）

9129　四箇船石（しかふないし）遺跡群第３次（SHF－３）

所 在 地　早良区大字四箇船石14－１　　**調査面積**　660㎡
調査原因　水道ポンプ室建設　　**担 当 者**　吉武学
調査期間　910926～911011　　**処　　置**　調査後破壊

位置・環境　調査地点は早良平野中央部の沖積地に位置し、標高は約26ｍ。現状は水田で、南南西に四箇船石支石墓が隣接する。

検出遺構　層序は上から、①水田耕作土、②水田床土、③黒色土、④暗褐色土、⑤礫（河床）で、③④層は弥生～古墳時代の遺物包含層（河川内の埋積土）である。下記の遺構を検出した。

弥生時代河川　１条

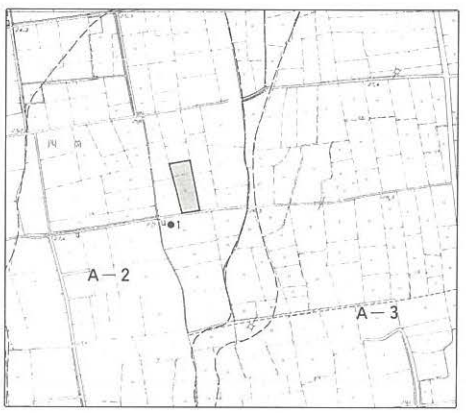
調査区の中央から西側は⑤層が落ちこみ、これに弥生土器を多量に含む④層が堆積している。出土土器は弥生時代中期のものが大半を占めており、河川の埋没時期を知ることができる。

近世溝状遺構　２条

③層上面で検出した。弥生時代河川の埋没後に掘られている。近世の水田に伴う水路と見られ、２条の溝は交錯し、１条は調査区を斜めに、他の１条は調査区に沿って掘られており現在の水田区画方位に近い。前者の溝の覆土は砂で、染め付け碗の破片などが出土した。このことから、近世から現代までの間に、少なくとも３回以上の耕地整理が行われたことが知れる。

出土遺物　弥生土器、須恵器、陶磁器がコンテナ３箱。

まとめ　今回の調査により、四箇船石のすぐ脇を弥生時代中期までは河川が流れており、その後陸化したことが判明した。



1．調査地点の位置（85－Ａ－２　１：8000）

2．調査区北半部全景（南東から）

3．調査区南半部全景（北西から）

9130　鴻臚館（こうろかん）跡第７次（KRE－７）

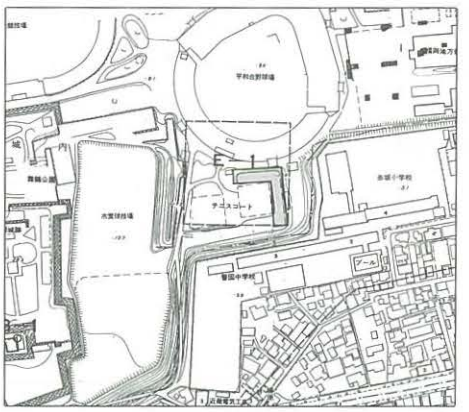
所 在 地　中央区城内　　**調査面積**1,000㎡
調査原因　確認調査　　**担 当 者**　山崎純男・瀧本正志
調査期間　910501～920331　　**処　　置**　調査後埋め戻し

位置・環境　鴻臚館跡に比定される平和台野球場周辺は福岡城三の丸にあたる。この地域は城外との比高差約６ｍの低台地で、筑紫館建設に先立って造成がおこなわれている。本年度調査区は昨年度調査区（テニス・コート部分）の東・北側観客席土塁下を対象とした。土塁はすべて盛土で、下の地形は江戸に削平され、東に緩やかな傾斜をもっている。

検出遺構　筑紫館・鴻臚館と呼ばれた時期、奈良時代以前～平安時代にかけての遺構があり、四時期に大別できる。今次調査は極めて重要であり、鴻臚館の一区画の全容を明らかにした。筑紫館に相当する遺構はⅡ時期ある。Ⅰ期は布掘り柵列と門址がある。布掘り柵列は第３～７次調査の成果から東西75ｍ、南北58ｍの長方形区画が形成されることが判明した。また、柵列東辺部中央部に布掘り掘立柱の門址が検出された。門の規模は現存する法隆寺東大門に類似している。Ⅱ期は奈良時代に相当する掘立柱建物と柵列である。建物はＬ字形の配置を示している。Ⅲ期の遺構は削平のため現存しない。Ⅳ期遺構はゴミ捨て用の土壙３基があり中より多量の瓦、中国産陶磁器が出土している。

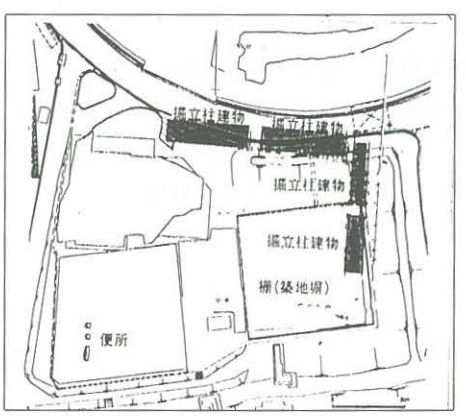
出土遺物　大半は奈良・平安時代の瓦類である。次いで、中国浙江省起州窯系の青磁器、白磁器、雑器類がある。イスラム系のガラス片２点、滑石製品、古墳時代の銅鏃などがある。

まとめ　今次調査は筑紫館の二期にわたる一画の全容を明らかにしたのは重要である。また、土壙より出土した一括遺物は、セット関係が把握できることで注目される。



1．調査地点の位置（60－Ａ－１、１：8000）

2．調査区全景（南から）



3．奈良時代遺構全体図

9131　雀居（ささい）遺跡第２次（SAS－２）

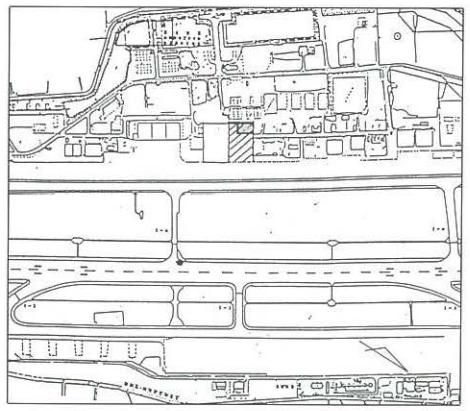
所 在 地　博多区福岡空港内
調査原因　駐機場増設
調査期間　911018～911228
調査面積　1,700㎡×２面
担 当 者　下村　智
処　　置　調査後破壊

位置・環境　雀居遺跡は、福岡平野の東側に位置し、御笠川の右岸に広がる遺跡である。現況は福岡空港用地で、1972年まで米軍の板付基地となっていた。戦前の地形図によれば、周辺には水田が広がり、微高地が部分的に分布している状況であった。現在は改変されて標高５ｍ前後の平坦地となっている。

検出遺構
・第Ⅰ面、平安時代後期～末期：土壙66、溝５、井戸３、ピット47
・第Ⅱ面、平安時代後期：条里地割水路１、水田面５

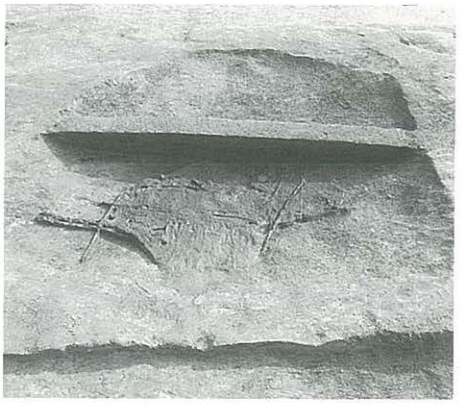
出土遺物　第Ⅰ面の土壙及び溝からは、炭化した米や麦とともに内黒及び黒色の土師器が多く出土している。滑石の石鍋片は数点、輸入青磁・白磁はごく少量出土。木製品は木簡、斎串、建築部材、曲物、機織具の榎などが出土している。第Ⅱ面からは、土師器、曲物、横櫛などが出土し、その中で、内黒土師器椀の外底部に「天上」と墨書したものがある。（コンテナ32箱分）

まとめ　木簡は遺存状態が悪く判読できていない。遺跡の立地する旧席田郡には、『和名抄』によれば平安期に石田、大国、新居の三郷があったとされる。『延喜式』兵部省式諸国駅伝馬条には、筑前国19駅のひとつに久迩駅がみえ、駅馬10足を常置していた。久迩駅は、粕屋郡夷守駅から太宰府に向う途上の駅で、席田郡大国郷に所在したとされる。席田郡内には駅家や郡衙、郷などの関連施設が存在した可能性があり、今後の調査を含めて検討が必要であろう。



１．調査地点の位置（23－Ａ－４、１：8000）

２．調査区全景（北から）



３．SK02土壙（北から）

9132　有田（ありた）遺跡群第168次（ＡＲＴ－168）

所 在 地　早良区小田部五丁目154－1　　**調査面積**　455㎡
調査原因　専用住宅建設　　**担 当 者**　山崎龍雄
調査期間　911022～911211　　**処　　置**　調査後破壊

位置・環境　調査区は、室見川の右岸にある独立中位段丘に所有する有田遺跡群の北西端部に位置し、標高は地表面で約７ｍを測る。調査区周辺は比較的良く調査が行われており、北側では弥生時代前期末から後期初めにかけての甕棺墓群が検出されている。

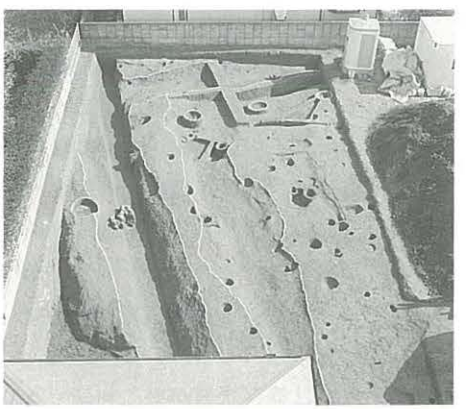
検出遺構　表土下30～40㎝での黄褐色ローム土上面で遺構を確認した。検出した遺構は以下のとおりである。

古墳時代前期～中期	竪穴住居跡	４棟
古墳時代	柵列	１条
〃	掘立柱建物	１棟
〃	土壙	５基
中世末	溝	４条

出土遺物　溝状遺構を中心に弥生から中世にかけての各時代の遺構・遺物が出土した。総量はコンテナで11箱をはかる。特記遺物としては、古墳時代の玉７個、石鏃１点、瀬戸・美濃系の陶器、板碑などがある。

まとめ　今回検出の溝状遺構は、東西軸より南へ14°振るものと、それに直交するものがある。東西方向の溝は、東側調査区86・64次、北側の157次調査区へと続く方形区画を形成するものである。この区画の規模は、東西約50ｍ、南北約58ｍを測り、方半町の規模である。

１．調査地点の位置（82－Ａ－１、１：8000）



２．調査区北側全景（西から）

３．調査区西側全景（西から）

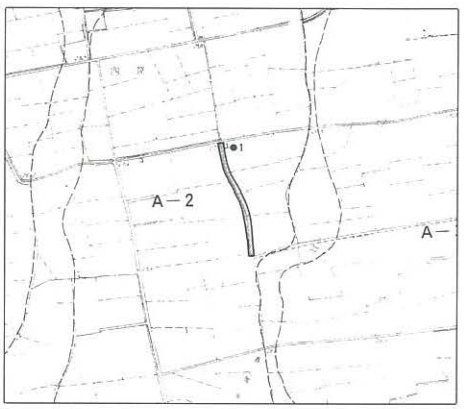
9133　四箇船石遺跡第４次（SHF－４）

所 在 地　早良区大字東入部地内
調査原因　道路建設
調査期間　911023～911228
調査面積　800㎡
担 当 者　吉留秀敏
処　　置　調査後破壊

位置・環境　早良平野東部の沖積池内に位置し、標高は約28ｍ。現状は水田であるが、周囲より僅かに高く、微高地状をなす。

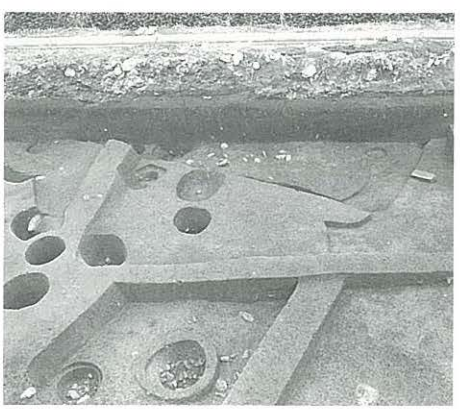
検出遺構　調査区東側は微高地であり、竪穴式住居址、貯蔵穴、柱穴などが集中して検出された。西側は貞島川沿いの低地となる。微高地と低地の境には幅、深さ共に約１ｍのＶ字溝が検出された。この溝には流水の痕跡はなく、多量の土器類、礫が投棄された状態で出土した。

出土遺物　遺構内を中心に多くの土器片、石器類が出土した。これらはほとんどが弥生時代中期のものである。なお、最大規模の竪穴式住居址床面から鉄鎌、鉄鏃が出土した。またＶ字溝に近接して小型の偏平片刃の鉄斧も出土した。何れも弥生時代鉄製品としては古く、貴重な資料である。（コンテナ20箱）



１．調査地点の位置（85－Ａ－２、１：8000）

２．調査区全景（西から）



３．住居跡検出状況（北から）

9134　比恵（ひえ）遺跡群第39次（HIE－39）

所 在 地　博多区博多駅前四丁目162－5　　**調査面積**　210㎡
調査原因　共同住宅建設　　**担 当 者**　菅波正人
調査期間　911028～911213　　**処　　置**　調査後破壊

位置・環境　本調査地は、比恵台地の中央西側にあたり、東側50m先では第7、13次調査が実施され「那津官家」に関連すると考えられる大型建物跡が検出されている。標高は約6.3m、周辺の道路と比べ、0.5m以上高い。地表下0.2～0.4mで基盤の鳥栖ローム層となる。

検出遺構　・弥生時代中期～後期：竪穴住居跡8軒　土壙2基
・古墳時代後期：柵状遺構1条
掘立柱建物跡2棟

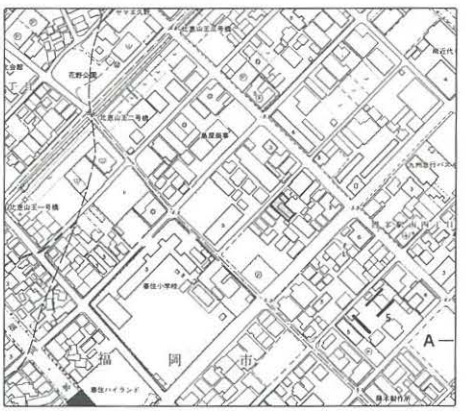
この地、柱穴多数を検出した。

古墳時代後期の柵状遺構は1.0～1.2m間隔に3本の柱を据えたものを1組としたもので、4間分、約10m検出した。一方、掘立柱建物跡は柵状遺構と同一方向の総柱の建物で、今回の調査では梁行3間×桁行2間を検出したが、おそらく3間×3間の総柱建物と考えられる。柱間は梁行1.6m、桁行2.1mを測る。したがって、建物の規模は梁行約4.8m×桁行6.3m（床面積約30㎡）と推測できる。

これらの遺構は出土遺物から6世紀後半以降に造られたものと考える。量に出土した。

出土遺物　遺物は竪穴住居跡や土壙、柱穴などからコンテナ30箱が出土した。遺物には弥生土器、土師器、石器、鉄器などがある。

まとめ　今回検出されて柵状遺構及び掘立柱建物跡は第7次・13次調査地点、第8次調査地点で同様の遺構が検出されており、日本書紀宣化元年（536年）にある「那津官家」に関連する遺構と考えられる。



1．調査地点の位置（37－A－1　1：8000）

2．調査区全景（北から）

3．建物・柵列出土状況（北から）

9135　香椎（かしい）A遺跡第2次（KSA－2）

所 在 地　東区香椎4丁目2078他　　**調査面積**　788.61㎡
調査原因　共同住宅建設　　**担 当 者**　大庭康時
調査期間　911105～911227　　**処　　置**　調査後破壊

位置・環境　本調査地点は、奈良時代以来仲哀天皇と神功皇后を祀る香椎宮の北に隣接し、香椎宮の立地する丘陵の裾に位置する。

調査に際して、表土は重機で除去した。表土の下は、すぐに地山で、包含層は削平され、残っていなかった。地山は、香椎宮周辺の丘陵と同じく花崗岩のバイラン土壌で、一部は旧河川の堆積土である。

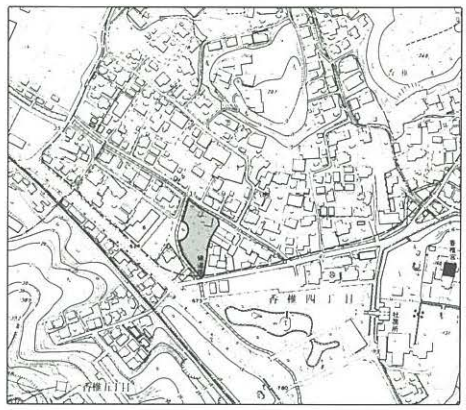
検出遺構　発掘調査の結果、掘立柱建物跡8棟以上、土壙3基、柱穴多数、井戸1基を検出した。

出土遺物　遺物は旧河川から弥生時代後期の甕が出土した他、中世の輸入陶磁器、土師器、瓦などが出土した。

掘立柱建物は、8棟を復元したが、残りの柱穴から見て、なお多数の掘立柱建物があったものと考えられる。柱穴からの遺物の出土は少ないが、12世紀後半から13世紀初めにかかる時期と、15世紀の2時期の建物があったものと考えられる。

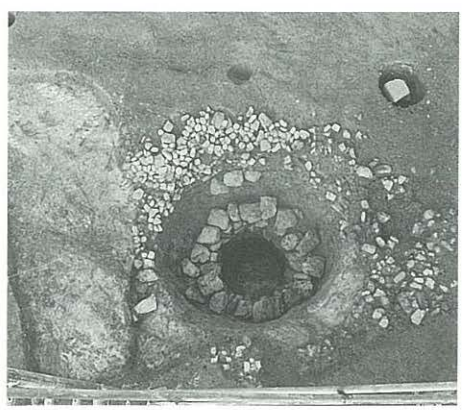
井戸は、石組を持つもので、基底部分は内側に曲物を当てた桶状の木組を置き、円礫で裏込めする。井戸を廃絶し埋めた後の凹みに、大量の土師器皿、中国製の青磁・白磁・陶器などを廃棄しており、13世紀前半に比定できる。したがって、井戸が営まれたのは、12世紀後半頃であろう。

まとめ　本調査地点は、香椎宮との関連が強いと推測されるが、特に15世紀代の遺構については、小字からみて香椎宮大宮司三苫氏の「有光屋敷」の一部と考えられる。



1．調査地点の位置（37－A－1　1：8000）

2．調査区全景（北から）



3．石積井戸出土状況

9136　博多遺跡群第75次（HKT－75）

所 在 地　博多区奈良屋町９－１・９－２　　**調査面積**　97㎡
調査原因　商業ビル建設　　**担 当 者**　山口譲治
調査期間　911105～911207　　**処　　置**　調査後破壊

位置・環境　本調査地点は、博多遺跡群の北部にあたり、「息の濱」と呼ばれる砂丘のほぼ中央部の標高4.4ｍに位置している。約１ｍの現代盛土整地層を重機によって除去すると、近世から初期の遺構面を確認した。

遺構検出面は標高3.4ｍ前後で、中世末から近世初期の遺構が検出できた。

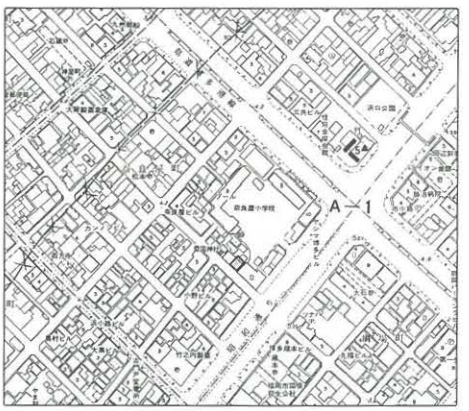
検出遺構
・近世初期：掘立柱建物１棟、井戸１基、土壙３基、柱穴約20個
・中世：井戸１基、土壙３基、柱穴約50個

出土遺物　包含層・遺構から土器がコンテナ10箱、北宋銭を含む金属器８点と獣骨（人骨を含む）少量が出土した。

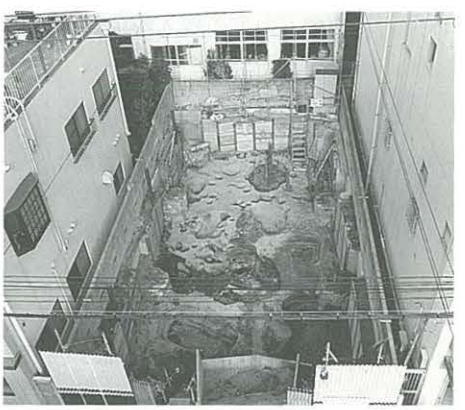
土器は土師器が多く、少量の中国製陶磁器と国産陶磁器がある。

まとめ　本調査は、博多遺跡群のなかで調査例が少ない「息の濱」砂丘中央部の調査である。本調査地および周辺は、戦国時代から江戸時代初期にかけて活躍した豪商神屋宗湛の居住域にあたっており、関連する遺構・遺物の出土が期待されたが、特別な遺構・遺物は検出できなかった。ただ、建物（または柵列）１棟は、礎板状の楚石をもち、1.7ｍの柱間をもった４間分を確認した。この建物は南北に延びており、大形の建物の可能性がある。

以下、３×９ｍのトレンチを設定し、標高0.5ｍまで深掘りしたが遺構面は検出できず、このトレンチでは、14世紀代までの土師器など少量の遺物が出土したのみである。



1．調査地点の位置（49－Ａ－１　１：8000）


2．調査区全景（南西から）

3．ＳＫ51土壙出土状況（南から）

9137　博多（はかた）遺跡群第76次（HKT－76）

所 在 地　福岡市博多区上呉服町596～596、600－1、614
調査原因　社屋ビル建設
調査期間　911106～920411
調査面積　510㎡
担 当 者　田中寿夫
処　　置　調査後破壊

位置・環境　第76次調査地点は、博多遺跡群の中央東側に位置しており、古代末に平清盛が作ったとされる「袖の湊」推定地に隣接する地点である。当該地点は北側に形成された御笠川の氾濫原に向かって低くなっている傾斜地で、調査区中央付近がちょうど地形の変換点となっている。

検出遺構
出土遺構

第１面：江戸末期～明治期（標高4.3m）

第２面：江戸後期（標高3.8m前後）

第３面：室町後期～江戸期（標高3.3m）

第４面：室町後期（標高2.5m前後）

桶組井戸、掘立柱建物、廃棄用竪穴、溝、道路もしくは築地塀基礎部分上面等を確認。遺構に伴い、土師器・瓦質土器・輸入陶磁器が多量に出土。

第５面：室町期（標高1.5m前後）

道路もしくは築地塀基礎部分、側溝、桶組井戸を確認。中国・朝鮮製輸入陶磁器、土師器等多数出土。

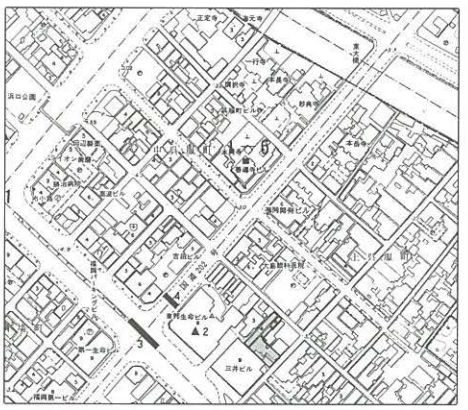
第６面：鎌倉後期～室町期（標高1.0m）

室町時代の土壙、鎌倉後期の包含層を確認。中国製輸入陶磁器、土師器、瓦器、瓦質土器等多数出土。

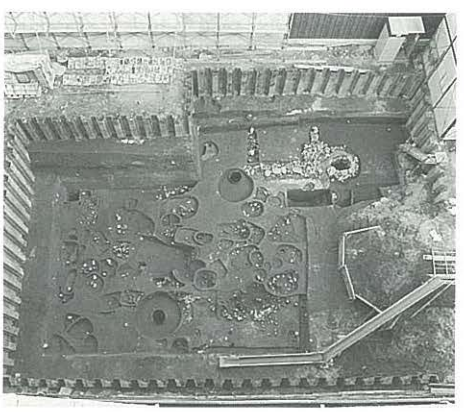
第７面：鎌倉期（トレンチ、標高0.6m）

鎌倉時代後期の包含層を確認。

まとめ　今回の調査では鎌倉時代以降の各時期の遺構・遺物を確認することができたが、とくに第４～５面の道路または築地塀と考えられる遺構は、その性格と方向性からみて、聖福寺の境内の範囲推定、博多の町割り復元、さらにその変遷過程考えるにあたって重要と思われる。



1．調査地点の位置（49－Ａ－１、１：8000）



2．調査区全景（西から）

9138　浦江（うらえ）B遺跡群第2次（URB－2）

所 在 地　西区大字金武字山田の上　　**調査面積**　5㎡
調査原因　台風災害復旧　　**担 当 者**　井澤洋一、吉武学
調査期間　911106～911106　　**処　　置**　擁壁を造り保存

位置・環境　調査地点は背振～飯盛山丘陵から東へのびた台地の先端部である。東に流れる室見川により台地が削られ、調査地点付近では比高差約15mの急崖となっている。

検出遺構　平成3年9月14日に九州を襲った台風17号により崖面が崩壊し、甕棺が露出した。現地踏査の結果、弥生時代中期後半の甕棺2基であることを確認したため、緊急に甕棺を取り上げるための簡単な調査を実施した。調査は飛散した甕棺の採集、及び露出する2基についての清掃、写真撮影、実測、及び周辺地形の実測を行った後、さらに崩壊するおそれのある部分のみを取り上げるに留めた。甕棺は地表面から0.5～1mの深さにあり、ともに合口で、主に上甕が露出しており、上甕の底部は失われていた。

まとめ　調査を実施した甕棺の大部分はまだ現地に保存されており、周辺には甕棺墓群がかなりの範囲に広がっているものと推定される。

1．調査地点の位置（94－A－10　1：8000）

2．調査前全景（北東から）

3．甕棺墓出土状況（北西から）

9139　四箇船石遺跡第５次（SHF－５）

所 在 地　早良区大字四箇船石地内
調査原因　水路改良
調査期間　911020～911225
調査面積　160㎡
担 当 者　井澤洋一、吉武学
処　　置　調査後破壊

位置・環境　早良平野中央の水田地帯に位置し、標高約27ｍを測る。調査地点はいくつかの河川に挟まれた沖積微地上にあると推定される。すぐ東側に四箇船石支石墓が位置する。

検出遺構　水路工事に先立ち立会調査を実施したところ、土層断面に竪穴住居跡らしき落ちこみが確認されたため、緊急に調査を行った。竪穴住居跡は現水田面の直下に検出でき、調査区全域で遺構検出面は浅い。調査区の南北はともに基盤層が落ちこんで河川となっている。検出遺構は以下のとおり。

弥生時代中期前半

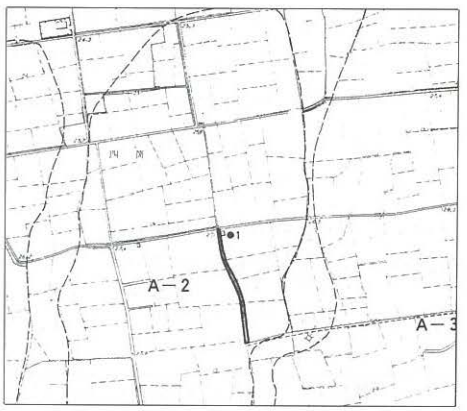
溝１、ピット多数。また竪穴住居跡らしき落ちこみがあるが調査区が狭いため確認できなかった。

古墳時代前期

竪穴住居跡２、ピット多数。古式土師器を包含する。住居跡は方形プランで壁溝が巡り、うち１棟には甕形土器の胴部を敷いた土器炉が伴う。

出土遺物　弥生土器、黒曜石製品等の石器、土師器などがコンテナ５箱。

まとめ　四箇船石は、これまで周辺で発掘調査が行われておらず、支石墓とする異論もあるところである。今回の発掘調査の知見によれば、船石の西隣は少なくとも弥生時代中期初頭には陸化しており、墓地や集落を営むことが可能になっていたものと考えられる。



1．調査地点の位置（85－Ａ－２　１：8000）

2．調査区全景（北から）

3．竪穴住居跡出土状況（北西から）

9140　藤崎（ふじさき）遺跡群第21次（FUA－21）

所 在 地　早良区藤崎１丁目56　　**調査面積**　170㎡
調査原因　共同住宅建設　　**担 当 者**　山崎龍雄
調査期間　920113～920208　　**処　　置**　調査後破壊

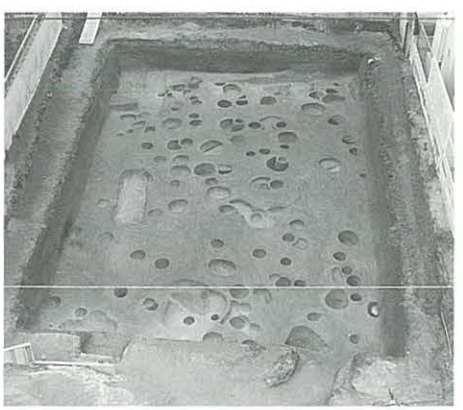
立地・環境　調査区は、藤崎遺跡群の南西部に位置する。ちょうど、東西に拡がる砂丘の後背斜面上に立地し、標高は地表で３ｍを測る。現況は宅地であったが、建物は調査前に解体されていた。調査は約１ｍ厚の表土をトラックと重機で場外搬出してから行った。

検出遺構　３面で遺構を確認した。
第１面　溝状、土壙、ピット　（中世）
第２面　土壙、ピット　（奈良時代）
第３面　竪穴住居後、掘立柱建物、土壙　（古墳時代後期）

出土遺物　各面の遺構と包含層から古墳時代後期から中世までの遺物が総量でコンテナ21箱出土した。特に漁撈具の土錘が多量に出土しているのが注目される。

まとめ　今回の調査区で検出した遺構・遺物は、古墳時代後期から中世の13世紀代にかけてのものが大半である。従来、調査区の北側では、弥生時代前期から古墳時代後期までの墳墓・住居が検出されているが、今回の調査では、遺構・遺物がほとんど検出できなかった。当時の集落の範囲から当地点がはずれている可能性が強い。

1．調査地点の位置（81－Ａ－１　１：8000）


2．第３面全景（南から）

3．ＳＣ2005住居跡出土状況（西北から）

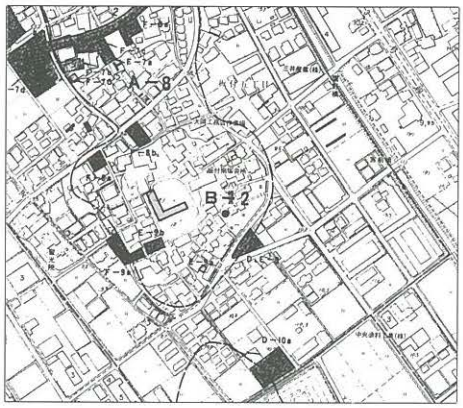
9141　板付（いたづけ）遺跡（ＩＴＺ）

所 在 地　博多区板付五丁目７－68　　**調査面積**　600㎡
調査原因　史跡整備に伴う遺構確認調査　　**担 当 者**　力武卓治
調査期間　911212～920320　　**処　　置**　埋め戻し

立地・環境　わが国における稲作受容期の環境濠集落として有名な板付遺跡は、昭和51年に環濠部と水田部の合わせて約27万㎡が国史跡に指定されている。

現在、平成６年度の完成を目指して史跡環境整備を進めているが、昭和63年度から史跡指定地内と周辺部において遺構確認調査を継続して実施している。

本年度は、史跡地の南側500ｍの畑地を調査対象地とした。この地区は環濠がある中央台地に対して南台地と呼んでいるが、これまで調査されたことがなく、その全容解明が望まれていた。



1．調査地点の位置（24－Ａ－１、１：8000）

検出遺構　南台地の周辺部はすでに宅地化されているが、約2,000㎡が畑として残り、12ｍの等高線が巡る小高い地形となっている。遺構確認調査という目的から、発掘による遺構破壊を避けるために全面発掘を避けてトレンチによる遺構検出を行った。

台地の西端に南北に１号トレンチ、中央部の東西に２号トレンチを設定し、弥生時代中期の貯蔵穴５基、中期～後期の竪穴住居跡４軒、近世の溝１条などが検出された。竪穴住居は、方形と円形があるが全体は掘り出していないので規模は不明である。

2．第１号トレンチ全景

出土遺物　竪穴住居跡、貯蔵穴、ピットなどから甕、壺などの弥生土器、石製穂摘具、石斧などの石器、ガラス小玉などコンテナ10箱分、近世の溝からは、コンテナ２箱分の陶磁器、瓦類などが出土した。

まとめ　今回の調査は、中央台地環濠集落との関係、特に板付遺跡が初期農耕集落としての姿を形成する弥生前期における南台地の土地利用の把握が主な目的であったが、弥生前期に遡るものはなく、中央台地の集落が拡散する中期に南台地の利用が始まっていることは注目される。

3．貯蔵穴出土状況

9142　飯氏（いいじ）遺跡群第４次（IIJ－４）

所 在 地　西区大字周船寺・大字千里地区　**調査面積**　180,000㎡
調査原因　区画整備事業計画　**担 当 者**　加藤良彦・吉留秀敏
調査期間　920203～920331　**処　　置**　調査後埋め戻し

位置・環境　調査対象地区は高祖山から北側に延びる丘陵の先端付近であり、開析谷とその間に形成された扇状地がやつで状に広がる。標高は約10～40ｍであり、現状は水田、畑、宅地となっている。

検出遺構　試掘の結果６カ所の遺跡範囲が認められた。東から順に概略を示す。

Ａ地区は飯氏引地遺跡に相当する。弥生時代中期、古墳時代後期、中世の集落遺構がある。

Ｂ地区は飯氏遺跡群の東端にあたる。弥生時代中期から後期、古墳時代後期の集落遺構がある。東側斜面には遺物包含層がある。甕棺墓群の存在も予測される。

Ｃ地区は飯氏馬場遺跡に相当する。弥生、古墳時代後期、中世の集落遺構がある。東側に遺物包含層がある。

Ｄ地区は弥生時代中期、古墳時代後期、中世の集落遺構がある。中央の小谷に遺物包含層がある。

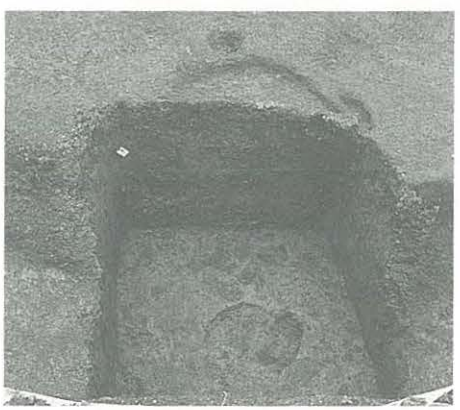
Ｅ地区は飯氏鏡原遺跡に相当する。弥生時代中期の甕棺墓群、同後期の集落遺構、古墳時代後期の古墳（前方後円墳）、同後期、古代の集落遺構などがある。

Ｆ地区は弥生時代中期から後期の集落遺構、甕棺墓群、古代の集落遺構、水田跡などがある。

出土遺物　遺物はほとんどの試掘地点から出土し、弥生時代の土器、石器、古墳時代の土師器、須恵器、埴輪、古代の須恵器、土師器、瓦、中世の土師器、国産、輸入の陶磁器類などが出土した。（コンテナ20箱）

1，調査地点の位置（121－Ａ－１）

2．伊都区画整理試掘（北から）



3．伊都区画整理試掘（西から）

9143　野芥（のけ）A遺跡群第3次（NKE－3）

所 在 地　早良区野芥5丁目地内　　**調査面積**　123㎡
調査原因　道路改良　　**担 当 者**　吉武学
調査期間　920124～920201　　**処　　置**　調査後破壊

位置・環境　調査地点は油山から西へのびる丘陵上に位置しており、標高は約34ｍ。現状は生活道路である。

検出遺構　包含層（整地層）をはさんで上下2面に遺構が認められた。上面は古代、下面は弥生時代中期である。検出した遺構は以下の通りである。

弥生時代

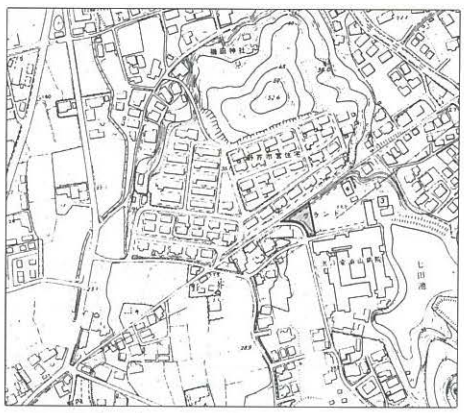
袋状貯蔵穴3、土壙1。貯蔵穴2基は上部で掘り方を共有する。残る1基は北側に長めの降り口を設け、平面がフライパン形を呈するもの。土壙は細長く深いもので、これも貯蔵穴の一種かも知れない。弥生中期の土器が出土したが、遺物の保存状態は極めて不良である。

古代

ピット多数、溝1。調査区が狭いため建物にまとまらない。溝には縄目たたきのある布目瓦が含まれており、雨落ち溝の可能性がある。

出土遺物　弥生土器、土師器、須恵器、瓦、近現代の陶磁器などがコンテナ2箱。

まとめ　遺跡は弥生時代中期及び古代の2時期に営まれている。弥生時代の遺構は貯蔵穴のみだが、1、2次調査（本次調査地点の南方）で当該期の集落が調査されており、これへ広がるものであろう。古代遺構は調査区が狭いため内容が明らかでないが、布目瓦が出土しており、今後の周辺での調査が待たれる。



1．調査地点の位置（84－A－8）

2．古代遺構全景（南東から）

3．袋状貯蔵穴出土状況（南から）

9144　那珂（なか）遺跡群第34次（NAK－34）

所 在 地　博多区那珂一丁目824他　　**調査面積**　1100㎡
調査原因　市道建設　　**担 当 者**　菅波正人
調査期間　920708～920930　　**処　　置**　調査後破壊、一部保存

位置・環境　本調査地は、那珂遺跡群の西側にあたり、竹下駅前線道路工事に伴う代４次の調査となる。那珂八幡古墳の南側に位置する。地表下約0.1～0.3ｍで基盤の鳥栖ローム層に達し、遺構面の標高は約８ｍを測る。

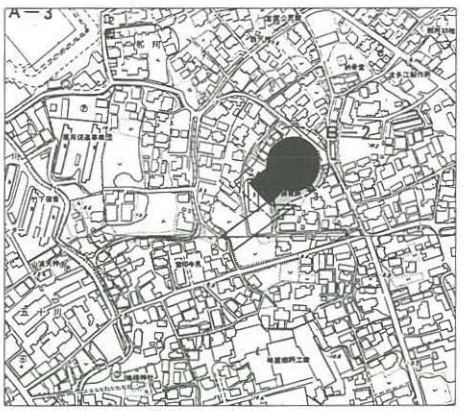
検出遺構
・弥生時代後期：井戸８基
・古墳時代初頭：那珂八幡古墳周濠
・中世　　：溝２条、井戸３基
・近世　　：溝１条、土壙

那珂八幡古墳の周濠は中世後半～近世にかけて耕作地として利用されたと考えられ、周濠の肩部分には排水用の溝が掘られている。しかし、辛うじて残った周濠の立ち上がりから、周濠の最大幅は15ｍを越えるものであ。また、前回行った第32次調査や周辺の試掘調査の成果などから、堀の平面形は鍵形を呈すると考えられる。

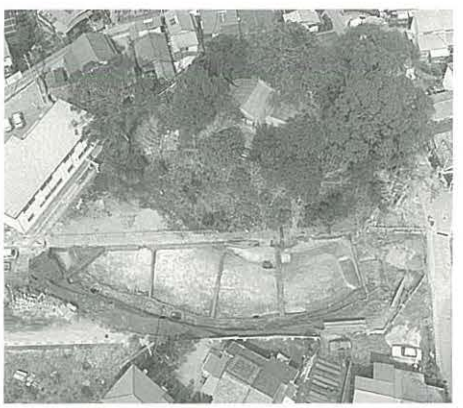
周濠の底で６基の弥生時代の井戸を検出した。井戸の出土遺物は現在整理中であるが、弥生時代終末に位置づけられるものもあり、古墳の築造時期との絡みもあり、慎重な検討が必要である。

出土遺物　遺物は周濠の覆土、井戸等からコンテナ82箱が出土した。周濠の遺物はほとんど流れ込みによるもので、古墳に関連するものはほとんどない。特筆すべき遺物としては百済系の単弁瓦、鴟尾等がある。

まとめ　今回の調査では、那珂八幡古墳の周濠が鍵形を呈し、幅15ｍを越えるものであることが分かった。今後、遺物の整理を進めていき、古墳の時期等を検討していきたい。



1．調査地点の位置（37－Ａ－３　１：8000）


2．調査区遠景（南から）

3．井戸内土器出土状況

付　平成３年（1991）度刊行報告書一覧

（　）内は、報告された遺跡の調査番号

第271集　「三苫遺跡群第一次調査の報告」(9009)

第272集　「立花寺（１）」(8807)

第273集　「箱崎（３）」-箱崎遺跡群第５次調査の報告-（9125)

第274集　「堅粕（１）」(9010,9054)

第275集　「麦野Ａ」(9116)

第276集　「雑餉隈遺跡」(9024)

第277集　「南八幡遺跡群（２）」(9112)

第278集　「警弥郷Ｂ遺跡」-第２次調査の報告-（9025)

第279集　「大橋Ｅ遺跡発掘調査報告書」(9032)

第280集　「博多（25)」-第38次調査報告-（8805)

第281集　「博多（26)」-博多遺跡群第46次調査報告-（8903)

第282集　「博多（27)」-第48次調査報告-（8915)

第283集　「博多（28)」-博多遺跡群第51次調査報告-（8915)

第284集　「博多（29)」-博多遺跡群第53・67次調査報告-（8930,9028)

第285集　「博多（30)」-博多遺跡群第60次調査報告-（8959)

第286集　「博多（31)」-博多遺跡群第63次調査報告-（8974)

第287集　「博多（32)」-第66次調査報告-（9022)

第288集　「博多（33)」-博多遺跡群第69次調査報告-（9055)

第289集　「比恵遺跡群（11)」(9004,9012,9016,9037,9043,9061,9064)

第290集　「那珂（４）」-その２-（8936)

第291集　「那珂（５）」-アサヒビール工場地内遺跡-（8727,8732,8733,8832,8849,8850,8923)

第292集　「那珂（６）」-第18･28･30･31次調査報告-（8855,9008,9046,9053)

第293集　「福岡城肥前堀」-第３次調査報告書-（8840)

第294集　「福岡城肥前掘第４次調査報告書」(8950)

第295集　「原遺跡（６）」(8908)

第296集　「飯倉Ａ遺跡」-第１次調査-（8835)

第297集　「野芥遺跡」(8841,9045)

第298集　「瀬戸口古墳群」-第２次調査報告書-（8928)

第299集　「カルメル修道院内遺跡（Ⅱ）」-カルメル修道院内遺跡第３次調査の報告書-（9038)

第300集　「野方久保遺跡（１）」-第３次調査報告書-（9056)

2．田植祭り

3．秋祭り

Ⅳ. トピックス

史跡板付遺跡　板付弥生のムラ

所　在　地　博多区板付二、三丁目
指定年月日　昭和51年６月21日
指 定 面 積　27,796.44㎡
環 境 整 備　平成元年度～平成６年度
【板付遺跡弥生館】　電話　592-4936
休 館 日　月曜　年末年始
開館時間　９時～５時 入館は４時30分まで
入 館 料　無料

板付遺跡は、わが国における初期農耕集落として、また二重の環濠集落として有名で、昭和51年に国史跡に指定されました。

史跡の西側部分（Ｂゾーン　約9,200㎡）は、文化庁の「史跡等活用特別事業（ふるさと歴史の広場）」の採択を受け、平成元年度より史跡公園として環境整備を進めてきましたが平成４年３月に完成し、６月27日より公開することになりました。

Ｂゾーンには、板付遺跡弥生館を建設し、弥生時代の水田の復元しています。

多くの方々に親しまれるように、板付遺跡を「板付弥生のムラ」、ガイダンス施設を「板付遺跡弥生館」の愛称をつけ、さまざまな主催事業を展開しています。

板付遺跡弥生館では、４×８ｍの大型遺跡模型や大画面の映像で弥生時代や板付遺跡を紹介するとともに、復元製作した弥生時代の道具類などを実際に使うことによって弥生人の暮らしぶりや知恵が楽しく学べるようになっています。

復元水田は、発掘調査で検出した弥生時代前期の水田と用水路、井堰を再現したものです。この水田では稲を栽培し、近くの小、中学校や市民参加で田植や稲刈りなどの農作業をしています。

環濠集落部に当たる史跡の東側部分（Ａゾーン約18,000㎡）は、現在整備工事をしていますが、環濠、土塁、竪穴住居、貯蔵穴、甕棺墓群などの遺構を復元して平成７年度より公開の予定です。

板付弥生のムラの主な行事（平成４年）

６月　板付弥生のムラ祭り（田植祭り）
８月　板付弥生教室
　　「土器を作ろう」　２回
　　「稲と田の虫の観察」　１回
11月　秋祭り（収穫祭り）
　　考古学講座　「板付考古学」

１．板付弥生のムラ（Ｂゾーン全景）

平成３年度調査遺跡索引（五十音順）

遺跡名	次数	調査番号 P.
〔ア行〕		
相原（あいばる）古墳群	4	9105
有田（ありた）遺跡群	166	9106
有田遺跡群	167	9117
有田遺跡群	168	9132
有田遺跡群	169	9147
飯倉（いいくら）Ｃ遺跡	3	9110
飯倉Ｆ遺跡	3	9108
飯倉Ｇ遺跡	3	9119
飯氏（いいじ）遺跡群	4	9142
井相田（いそうだ）Ｄ遺跡	1	9128
板付（いたづけ）遺跡		9141
入部（いるべ）遺跡	5	9102
卯内尺（うなじゃく）古墳	1	9118
浦江（うらえ）Ｂ遺跡	2	9138
大橋（おおはし）Ｅ遺跡	4	9148
大原（おおばる）Ｄ遺跡	1	9123
〔カ行〕		
香椎（かしい）Ａ遺跡群	2	9135
熊本（くまもと）遺跡群	1	9127
鴻臚館（こうろかん）跡	6	9130
〔サ行〕		
雀居（ささい）遺跡	1	9114
雀居遺跡	2	9131
四箇船石（しかふないし）遺跡	3	9129
四箇船石遺跡	4	9133
四箇船石遺跡	5	9139
〔タ行〕		
駄ケ原（だがはる）古墳群	1	9107
〔ナ行〕		
那珂（なか）遺跡群	32	9115
那珂遺跡群	33	9122
那珂遺跡群	34	9144
那珂遺跡群	35	9145
野芥（のけ）Ａ遺跡	3	9143
野多目（のため）Ｃ遺跡	8	9121
〔ハ行〕		
博多（はかた）遺跡群	71	9111
博多遺跡群	72	9113
博多遺跡群	73	9120
博多遺跡群	74	9126
博多遺跡群	75	9136
博多遺跡群	76	9137
箱崎（はこざき）遺跡群	5	9125
原（はら）遺跡群	16	9103
藤崎（ふじさき）遺跡群	21	9140
比恵（ひえ）遺跡群	37	9104
比恵遺跡群	38	9109
比恵遺跡群	39	9134
福岡城時計櫓（ときやぐら）		9146
〔マ行〕		
麦野（むぎの）Ａ遺跡	1	9116
南八幡（みなみはちまん）遺跡	4	9112
〔ヤ行〕		
吉塚本町（よしづかほんまち）遺跡	1	9124
〔ワ行〕		
脇山（わきやま）遺跡	6	9101

4　那珂八幡古墳

所有者　廣田康輝、亀井薫、内田隆喜、山浦一磨、那珂八幡宮、福岡市

所在地　福岡市博多区那珂一丁目822番の１、823番１及び２

福岡平野の中央部、那珂台地上に位置する前方後円墳。全長約83ｍ、後円部径48～50ｍ。周溝が存在するが詳細は不明。後円部の２号主体部から三角縁神獣鏡１面、玉類４点、土師器４点が出土している。本墳は福岡平野に分布する首長墓（前方後円墳）の中で最も古く位置づけられ、その学術的価値はきわめて高い。

5　草場古墳群

所有者　福岡市

所在地　福岡市西区下山門1709番の３、1709番の８

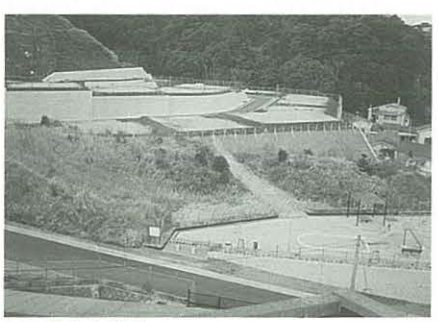
早良平野の西側、長垂山の一支脈に形成された後期（６世紀）群集墳の一つである。この古墳群は11基からなる群集墳であるが、現存は４基である。１号墳は一辺17ｍの方墳、２号墳は径８ｍ前後の円墳、３号墳は径14ｍの円墳、石室前庭部に箱式石棺がある。４号墳は径10ｍの円墳。これらの石墳は当時の有力農民層の家族構成や社会構造を解明するにはかかせない重要な遺跡である。

1．銅造誕生釈伽仏立像

2．那珂八幡古墳出土品

3．嶋井家資料
（嶋井宗室肖像）

4．那珂八幡古墳



5．草場古墳群

Ⅲ　文化財調査の概要

Ⅰ　文化財調査

板碑調査

平成元年度に所在調査、同二・三年度に写真撮影、拓本採取などの詳細調査を実施した。その結果、調査対象地800余カ所を数え、375基の板碑の所在を確認した。

これら375基の概要は次のごとくであった。造立年代については13世紀末から始まり、17世紀初頭をもって終焉を迎える。石質については、自然石の板碑の場合、大きく玄武岩、花崗岩に分かれ、東区と博多区の一部は玄武岩、その他の地域は花崗岩で占められている。また15世紀中頃から典型板碑の形に加工した砂岩の小形板碑が造立され、これは市域全体に分布している。板碑造立の行為の庶民化とその時期を表すものと思われる。

なお、調査結果の詳細については、『福岡市の板碑』（本文篇・図版篇）として報告書を公刊した。

Ⅱ　平成３年度の文化財指定

１．銅造誕生釈迦仏立像

所有者　天満宮

所在地　東区箱崎二丁目10番

釈迦誕生時の「天上天下唯我独尊」の言葉を形象化し、右手で天を指し、左手で地を指す姿をとる。銅造で像高7.2㎝ 。鋳造年代は８世紀後半と考えられる。釈迦誕生の日である４月８日を祝う灌仏会は７世紀から行われ、誕生仏の遺品もこの頃から遺されているが、飛鳥・白鳳時代、奈良時代、平安時代の現存する遺品は全国で50軀、九州で８軀を数えるに過ぎず全国的にも貴重な遺品である。

２．那珂八幡古墳出土品

所有者　福岡市

所在地　早良区百道浜三丁目１番１号（福岡市博物館）

三角縁五神四獣鏡は面径21.8㎝、鈕内に撚りのない繊維束、鏡面に布が誘着し、それぞれ苧麻、日本産絹と鑑定された。玉類は硬玉製勾玉１点、碧玉製管玉２点、ガラス小玉１点。土師器４点はいずれも破片であるが、布留式併行期のもので、古墳の年代を示す基準資料である。

これらの資料は北部九州の最古の古墳の副葬品の一端を示す貴重な資料であり、また、那珂八幡古墳の歴史的価値を明らかにするものとして重要である。

３．嶋井家資料

所有者　嶋井安生

所在地　早良区百道浜三丁目１番１号（福岡市博物館）

中世の自治都市博多を代表する豪商嶋井宗室にはじまる本資料は、千利休書状、嶋井宗室画像など文化史上・美術史上の貴重な資料を含みながら、中世末から鎖国以前の都市博多の重要性を明示している。また、近世およそ300 年間にわたる町人資本の盛衰と政治・経済の動向を一博多商人の家を通して示す系統的にまとまった町人史料である。総点数1045点。

9148　大橋E遺跡第4次（OOE－4）

所 在 地　南区大橋四丁目1122-4　　**調査面積**　70m²
調査原因　共同住宅建設　　**担 当 者**　荒牧宏行
調査期間　920316～920319　　**処　　置**　調査後消滅

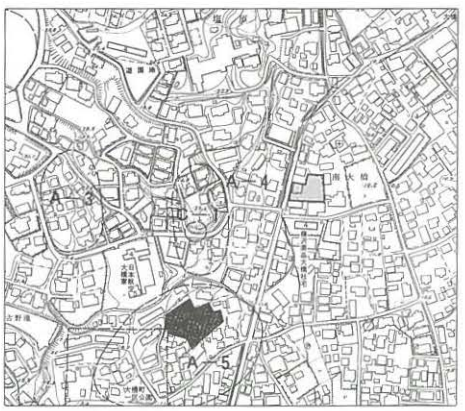
位置・環境　本調査地点は大橋E遺跡の西端に位置する。現況は宅地で平坦面を為す。試掘により、一部、遺構が検出された為、緊急調査を実施した。

申請地の調査範囲外は、客土、水田耕作土下、灰色砂層ないし黒灰褐色粘土が堆積し、開析を受けた台地際の沖積地に位置していると考えられる。調査範囲内は客土、水田耕作土下、褐色砂、明黄褐色土が堆積する。遺構は、この明黄褐色土上面から検出された。（ＧＬ－160cm）調査の結果、この明黄褐色土はロームの再堆積である事が判明した。

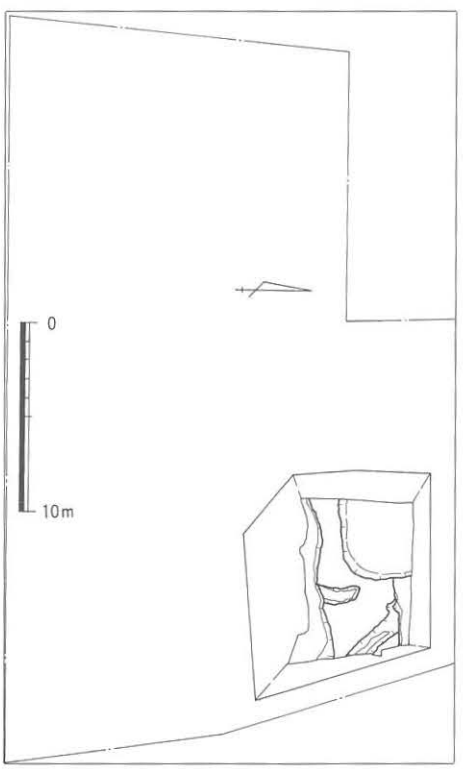
検出遺構　弥生中期：溝状遺構１
近　　代：溜池状土壙１基

出土遺物　弥生中期土器片、黒耀石チップ、近代陶器片等、コンテナ１箱分。

まとめ　上述のとおり、申請地は台地際の沖積部に位置し、弥生時代の集落が台地部に立地している事が予想される。なお、氾濫砂層が堆積する水田面が周辺に検出される可能性もある。



1．調査地点の位置（39－Ａ－14,1：8000）



2．調査地点位置図（1/400）

9147　有田（ありた）遺跡群第169次（ART－169）

所 在 地　早良区有田一丁目25－12　　**調査面積**　385㎡
調査原因　ビル建設　　**担 当 者**　山崎龍雄
調査期間　920224～920514　　**処　　置**　調査後破壊

位置・環境　調査区は北へ八手状に拡がる有田・小田部台地の中央やや北側に位置する。丁度、北から入り込む浅い谷を東に臨む斜面上に位置する。標高は現況で約10ｍを測る。調査区周辺は有田遺跡群の中で最も良く調査が行われている地域で、旧石器時代から中世に至るまでの各時代の遺構・遺物が確認されている。

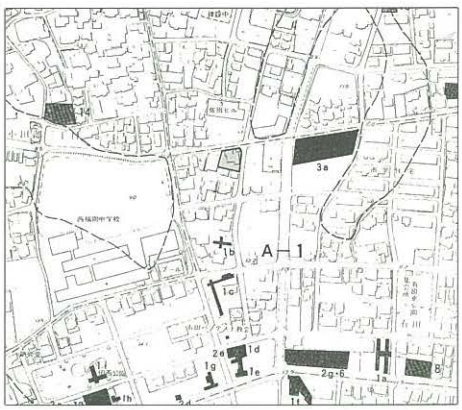
検出遺構　古墳時代後期から古代迄の遺構を検出した。検出した遺構は以下の通り

・古墳時代後期	竪穴住居跡	1棟
・古墳時代から古代	掘立柱建物	5棟
・　〃	土壙	5基
・古代	大溝	1条

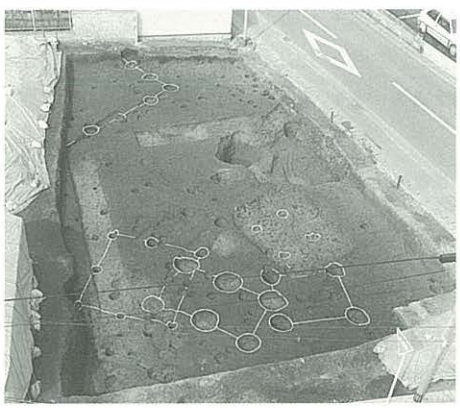
古代の大溝は溝幅約４ｍを測り、時期は奈良時代から平安時代初めにかけてのものである。第３次・81次・124次調査、原第11次調査検出の大溝につらなるものであり、早良平野の条里方向に一致するものである。

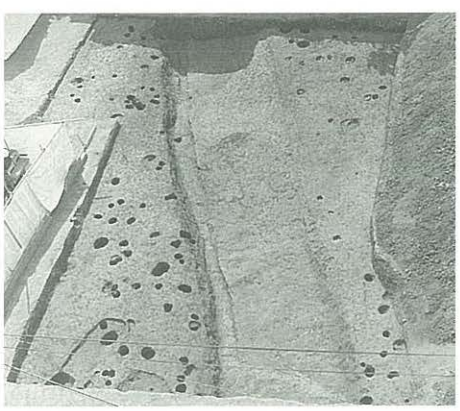
出土遺物　出土量は少なくＴＳ28コンテナで４箱程度である。遺物としては弥生土器・古墳時代土師器・須恵器・石器としては打製の石斧や石鏃・砥石などを含む。

まとめ　当調査では遺構は全面に検出されたが、南側は比較的密度が薄く、遺構の残りも悪かった。南側が標高がやや高くなるため、地山改変を多く受けた為と考える。古墳時代後期の竪穴住居跡は東側の第124次地点・南東側の第108次地点でも検出されており、このことから当地点一帯に古墳時代後期に集落が存在した事が予想できる。また東西方向の大溝は早良平野の条里地割にのっとったものであり、それに直交する溝が東側の第124次・108次地点などで検出されており、台地部でこの溝を基準とした古代律令期の集落、建物群が存在していたことが予想できる。



1．調査地点の位置（82－Ａ－１、１：8000）


2．Ⅰ区調査区全景（東から）


3．Ⅱ区調査区全景（東から）

9146　福岡城時計櫓（FUE－12）

所 在 地　中央区城内１
調査原因　史跡整備
調査期間　920301～920331
調査面積　250㎡
担 当 者　瀧本正志
処　　置　埋め戻し保存

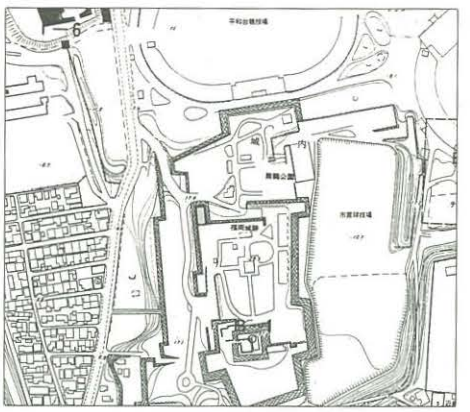
位置・環境　1601年より築城され、以降260余年の間、筑前国黒田家の居城となった福岡城は、大休山、赤坂山から北へ突き出した丘陵の先端部、博多湾を望む高台の地（那珂郡警固村）に築かれた平山城である。調査地は、約80万㎡の敷地中央、本丸の西北隅に位置する時櫓で、標高24.5ｍを測る。現況地には桜の木が植えられ、市民の憩いの場となっている。

検出遺構　福岡城の造営に関する遺構には、櫓建物の礎石と石の階段がある。

出土遺物　軒瓦等がコンテナに20箱出土している。軒丸瓦は瓦当紋様が三ッ巴藤だけが出土している。

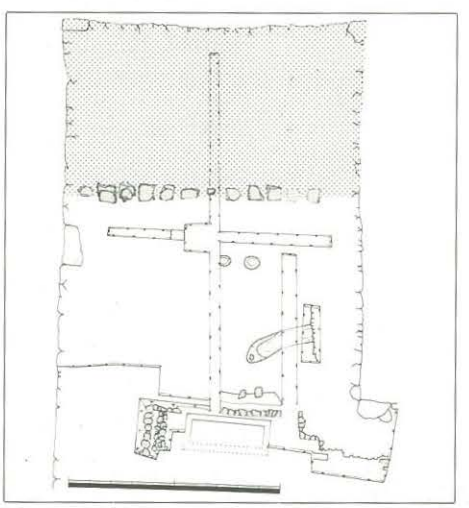
まとめ　時櫓の位置する本丸西北隅の石垣は、東西14.5ｍ、南北18ｍの長方形状に北へ張り出す。この櫓の敷地を南北にほぼ二等分する位置に、辺0.8～１ｍを測る礎石が東西に配置されている。時櫓は、この礎石列と石垣の縁部との距離から、梁行４間・約7.9ｍ（梁間：約1.97ｍ・６尺５寸）、桁行７間・約13.8ｍ（桁間：約1.97ｍ・６尺５寸）を測る東西棟の重層建物である。さらに、礎石が２段に重なっていることから、少なくとも、２回の建て替えを行っている。

石の階段状遺構は、櫓の敷地の南西隅に位置する。調査区が限定されているため、全容規模は不明である。階段部における本丸と櫓との敷地面の比高差は1.7ｍもあることから、昇降用と推定される。



1．調査地点の位置（60－Ａ－１　１：8000）

2．礎石出土状況（南から）



3．時計櫓平面図

9145　那珂（なか）遺跡第35次（ＮＡＫ－35）

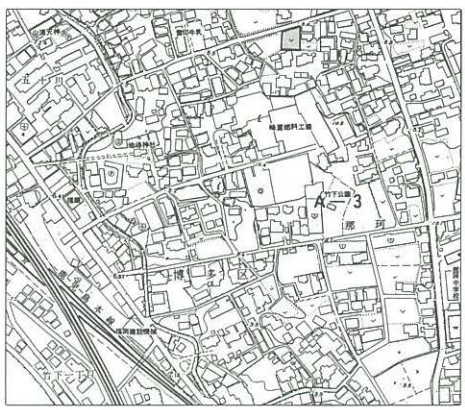
所 在 地　博多区那珂２丁目213－１　　**調査面積**　57㎡
調査原因　個人住居（庫建設）　　**担 当 者**　宮井善朗
調査期間　920203～920207　　**処　　置**　調査後破壊

位置・環境　調査区は、那珂八幡古墳の南側に位置する。遺構検出面は鳥栖ロームである。

検出遺構　今回調査は遺構に影響のある車庫部分に限られたため、調査面積がきわめて狭く十分な成果は上げられなかった。検出された遺構は土壙２基、ピットなどである。狭い調査面積のかなりの部分を防空壕によって攪乱されている。土壙のうち１基（土壙17）は円形を呈する。他の１基（土壙16）は長方形もしくは方形で、住居跡の可能性もあるピットの中には根締めの石を持つものがある。

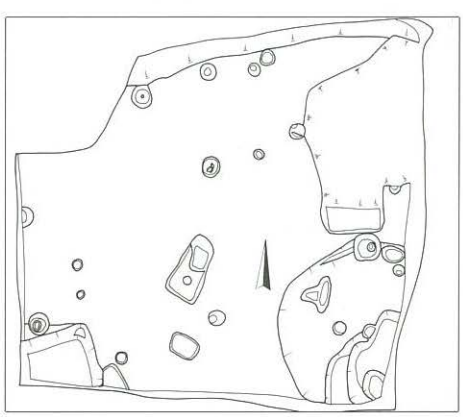
出土遺物　出土遺物はコンテナ２箱程である。ほとんどが土壙17からの出土である。土壙17からはⅣ期の須恵器と共に初期瓦が出土している。瓦は平瓦、丸瓦がある。平瓦の中には凸面に擬格子叩き、凹面に粗いナデを施したものがある。太宰府神ノ前窯に類例があり、那珂遺跡群22、23次調査でもまとまって出土しているものである。

まとめ　今回調査区での初期瓦の出土はこれまでの分布を広げる意味を持つ。今後の課題はこの瓦が使われた施設の解明にあるといえよう。



1．調査地点の位置（38－Ａ－３、１：8000）

2．調査区全景（東から）


3．遺構配置図

第301集　「草場古墳群」-第３次調査報告書-（8951）

第302集　「田村（Ⅶ）」（8934）

第303集　「吉武遺跡群（Ⅴ）」-市道野方金武線建設に伴う埋蔵文化財の調査-（8662,8714）

第304集　「太田遺跡（Ⅲ）」-市道野方金武線建設に伴う埋蔵文化財の調査-（8634）

第305集　「拾六町平田遺跡」-第１次調査-（8927）

第306集　「徳永遺跡（Ⅱ）」（8846,8920）

第307集　「有田・小田部」第15集（8961,9027,9036,9047）

第308集　「有田・小田部」第16集（8623,8644,8651,8656,8811,8919,9020,9041）

第309集　「山ノ鼻１号墳」（8974）

第310集　「入部（Ⅲ）」（9006）

第311集　「脇山（Ⅲ）」（8932,8933）

第312集　「脇山（Ⅳ）」（9015）

第313集　『国史跡「野方遺跡」環境整備報告書』（7304,8630）

第314集　『国史跡「板付遺跡」環境整備報告書』（—）

第315集　「鴻臚館跡（Ⅱ）」（8747）

第316集　「月見櫓」（9065）

福岡市埋蔵文化財年報　Vol.5-1991年度

福岡市埋蔵文化財年報 vol. 6
—平成３(1991)年度—

発 行 日　1993年３月31日

編集・発行　福岡市教育委員会埋蔵文化財課
〒810福岡市中央区天神一丁目8-1
TEL.（092)711—4667
FAX.（092)711—4600(教育委員会)

印　　刷　セントラル印刷株式会社

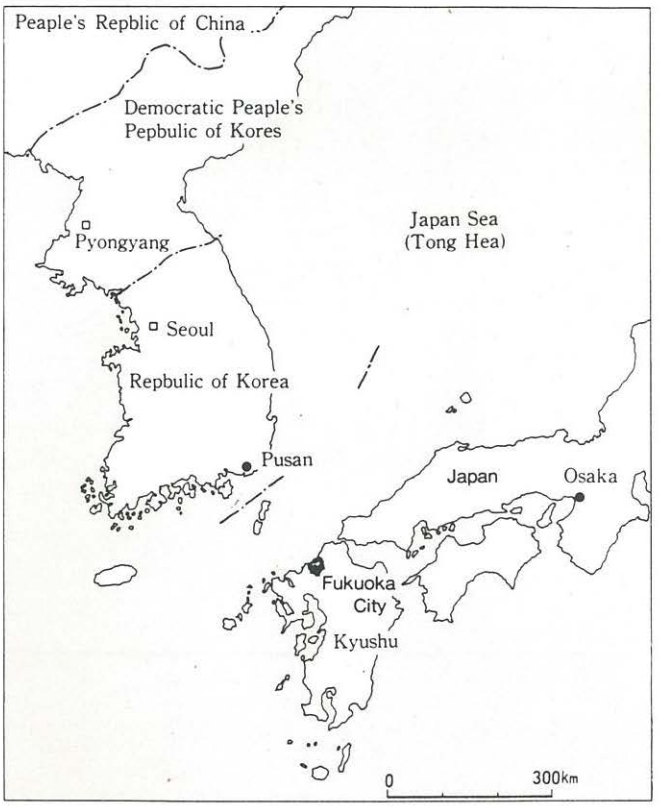
THE ANNUAL REPORT

OF THE

BURIED CULTURAL RELICS OF FUKUOKA CITY

Volume 6

1991



THE BOARD OF EDUCATION OF FUKUOKA CITY

March 1993

Japan